



* 0034707000 *

0034707-000

EG35-12

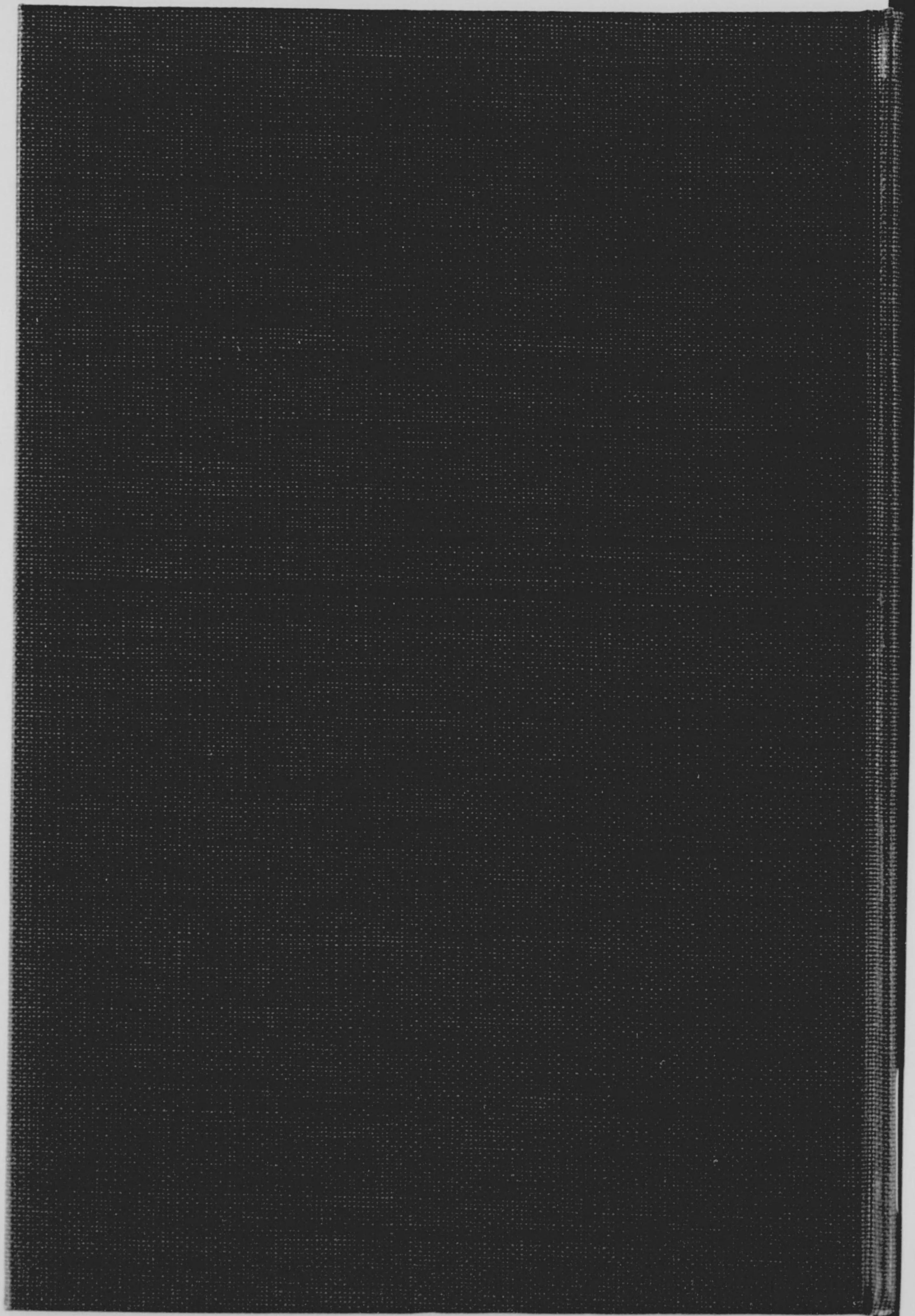
朝鮮社会事業要覽

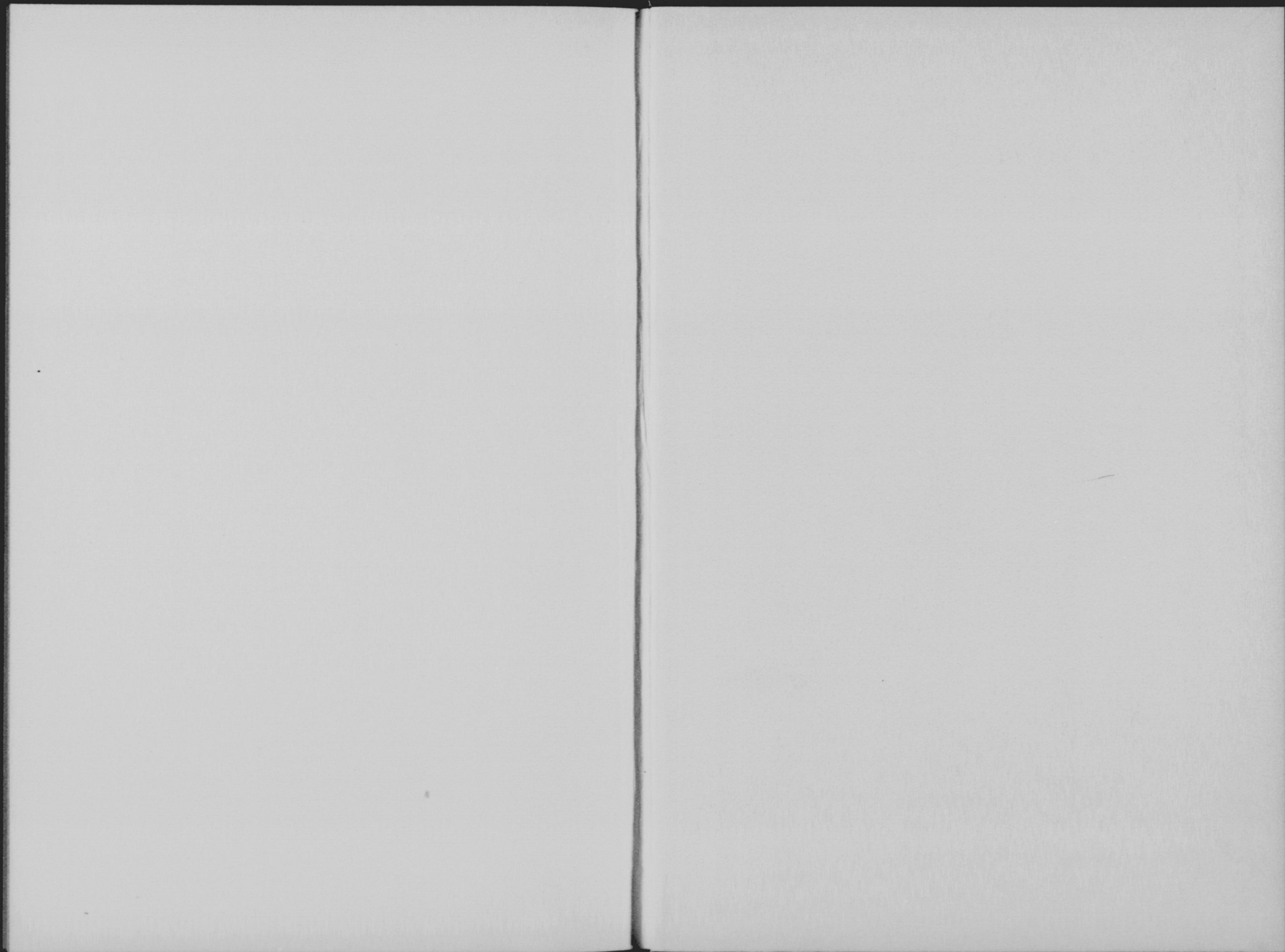
朝鮮總督府内務局社会課・〔編〕

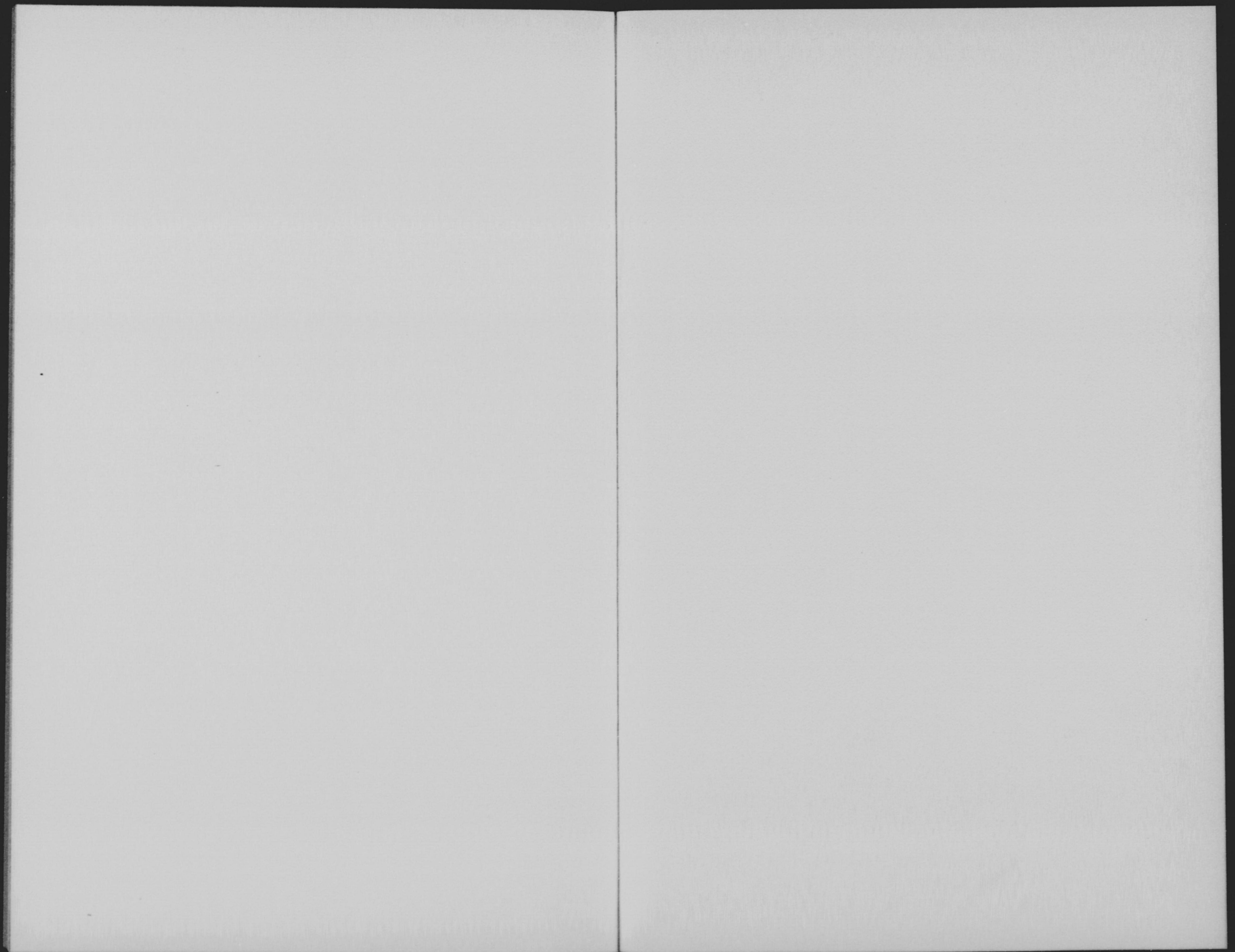
朝鮮總督府

1927. 8

AGC







321K98



朝鮮社會事業要覽

朝鮮總督府內務局社會課

貴族院
函
号
冊

昭和二年十一月廿二日

○ 山本青龍氏 寄贈

和光教園本館



EG35
12

山本
二
五
日
書

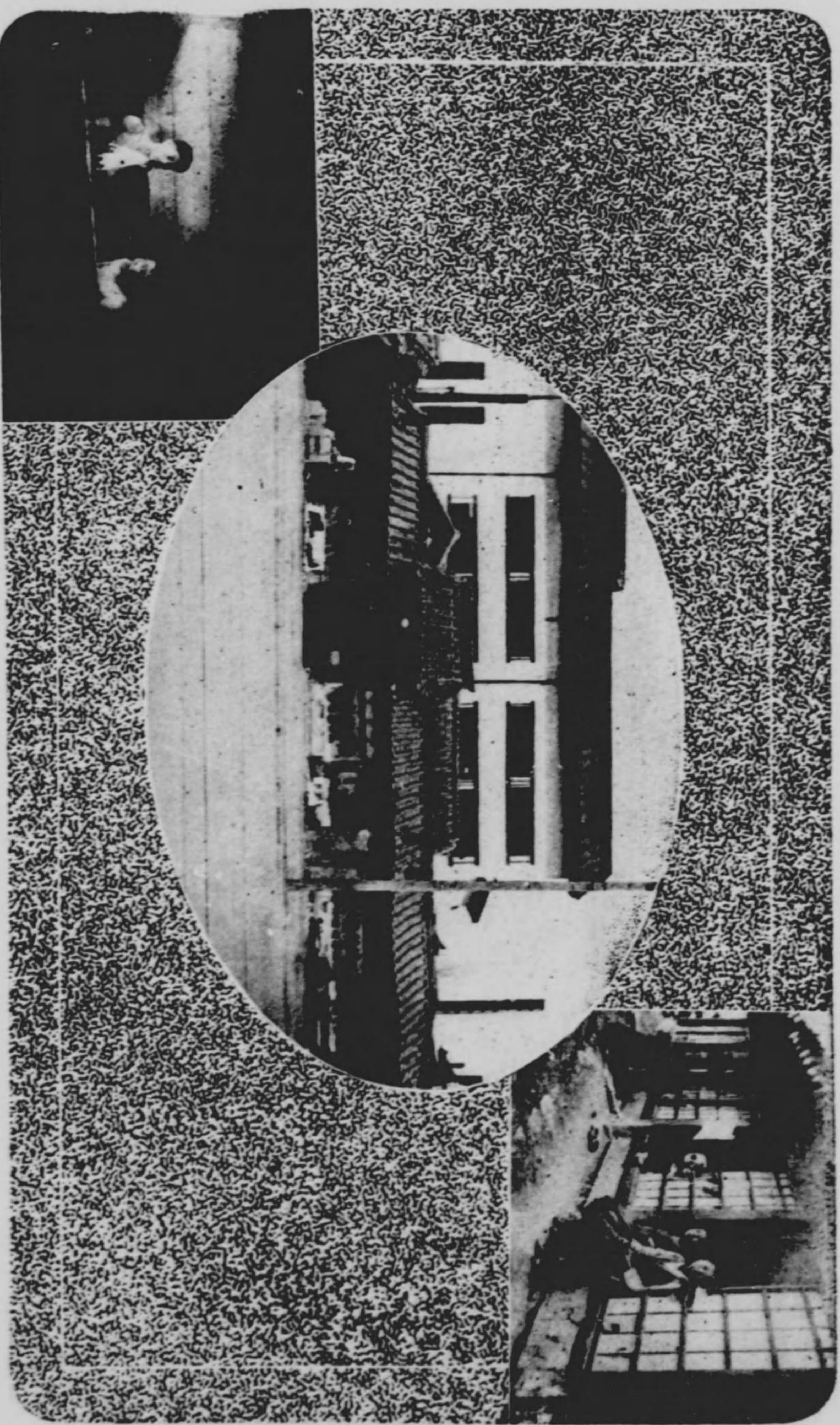
會國血國
57.5.31
書藏館國

會國血國
45.6.-5
書藏館國

82W28977

~~829902~~

宿泊部



浴場部

和光園第一社會館

職業紹介部



學園部



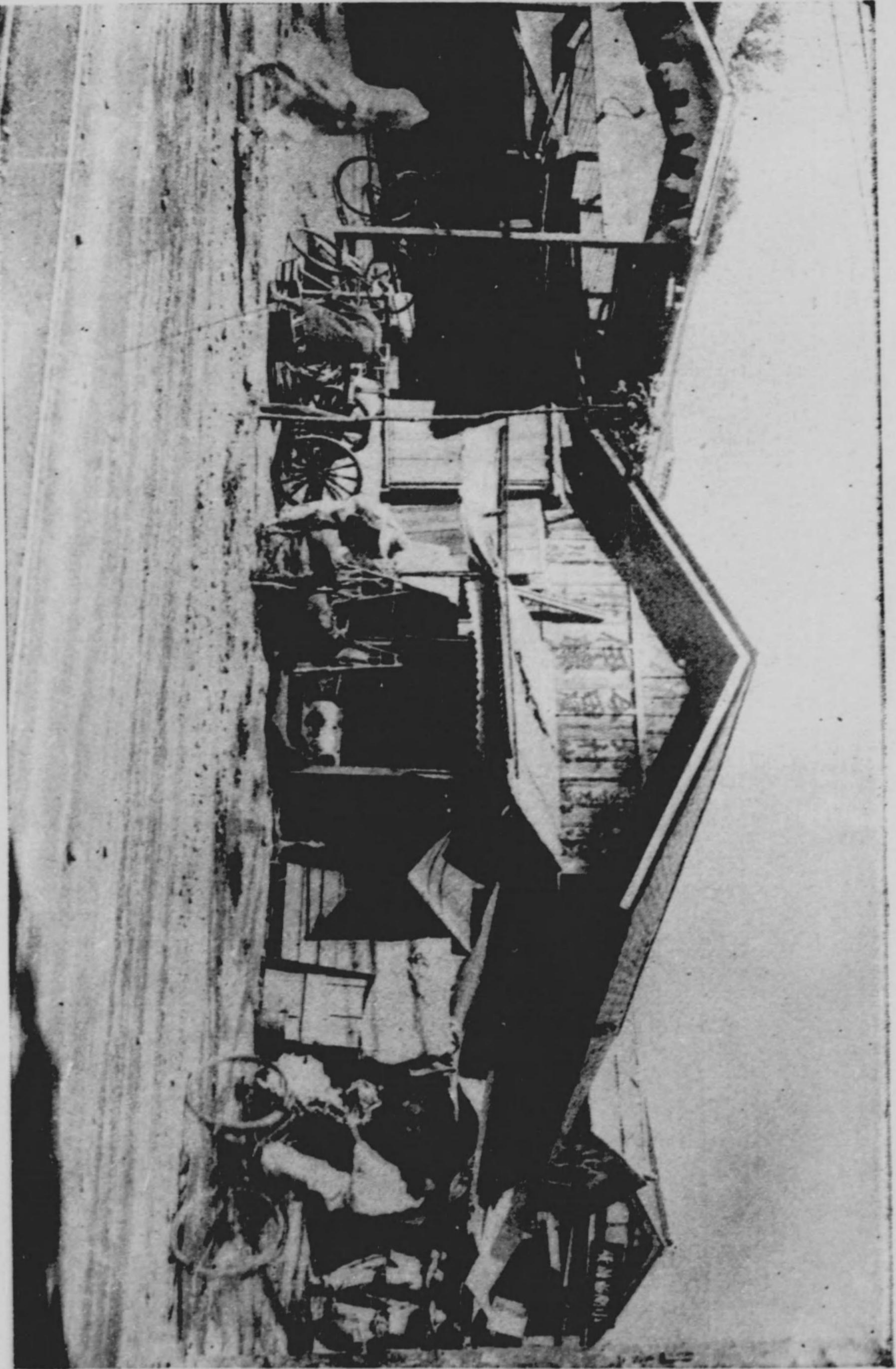
授産部



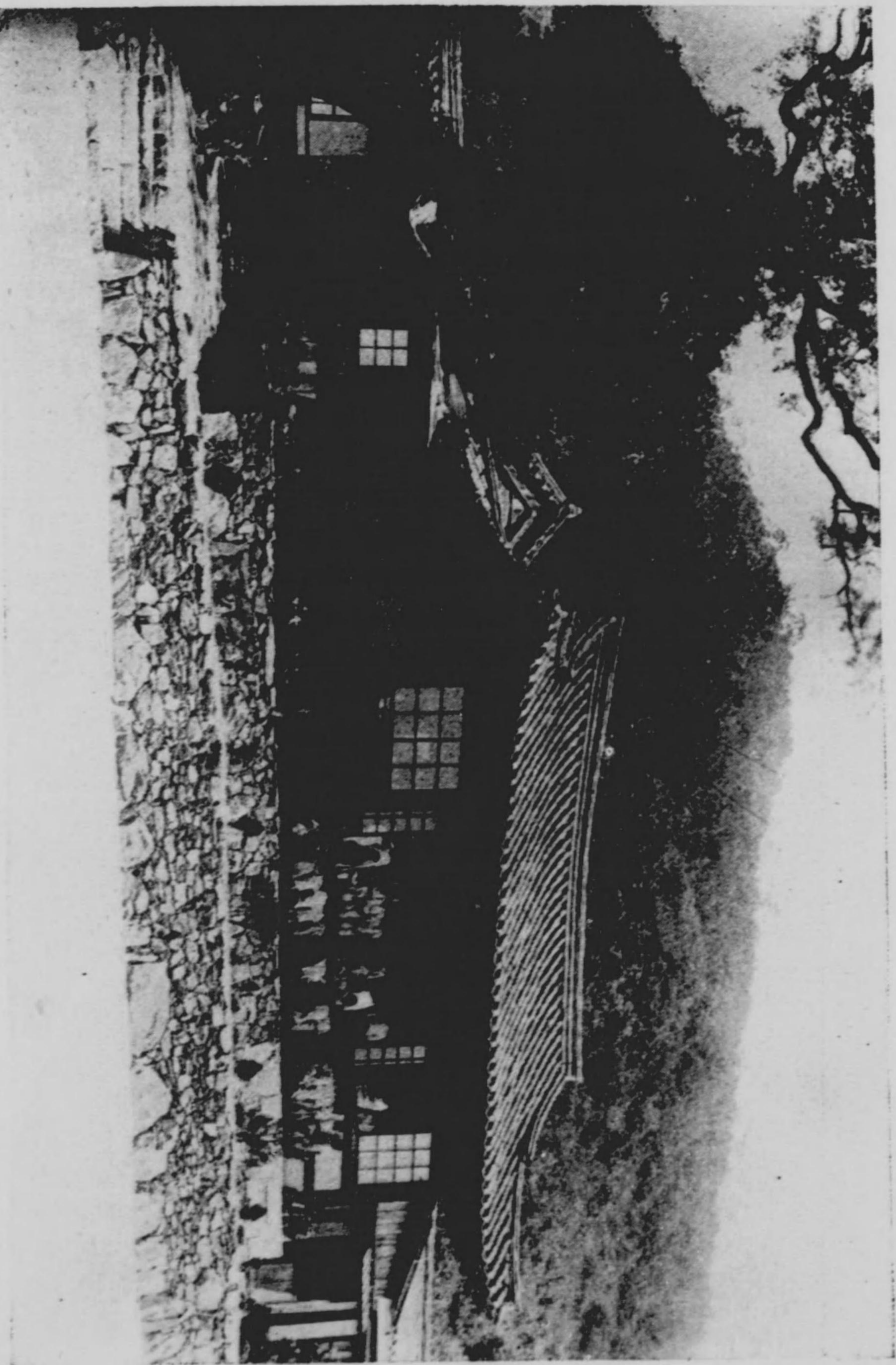
理髮部



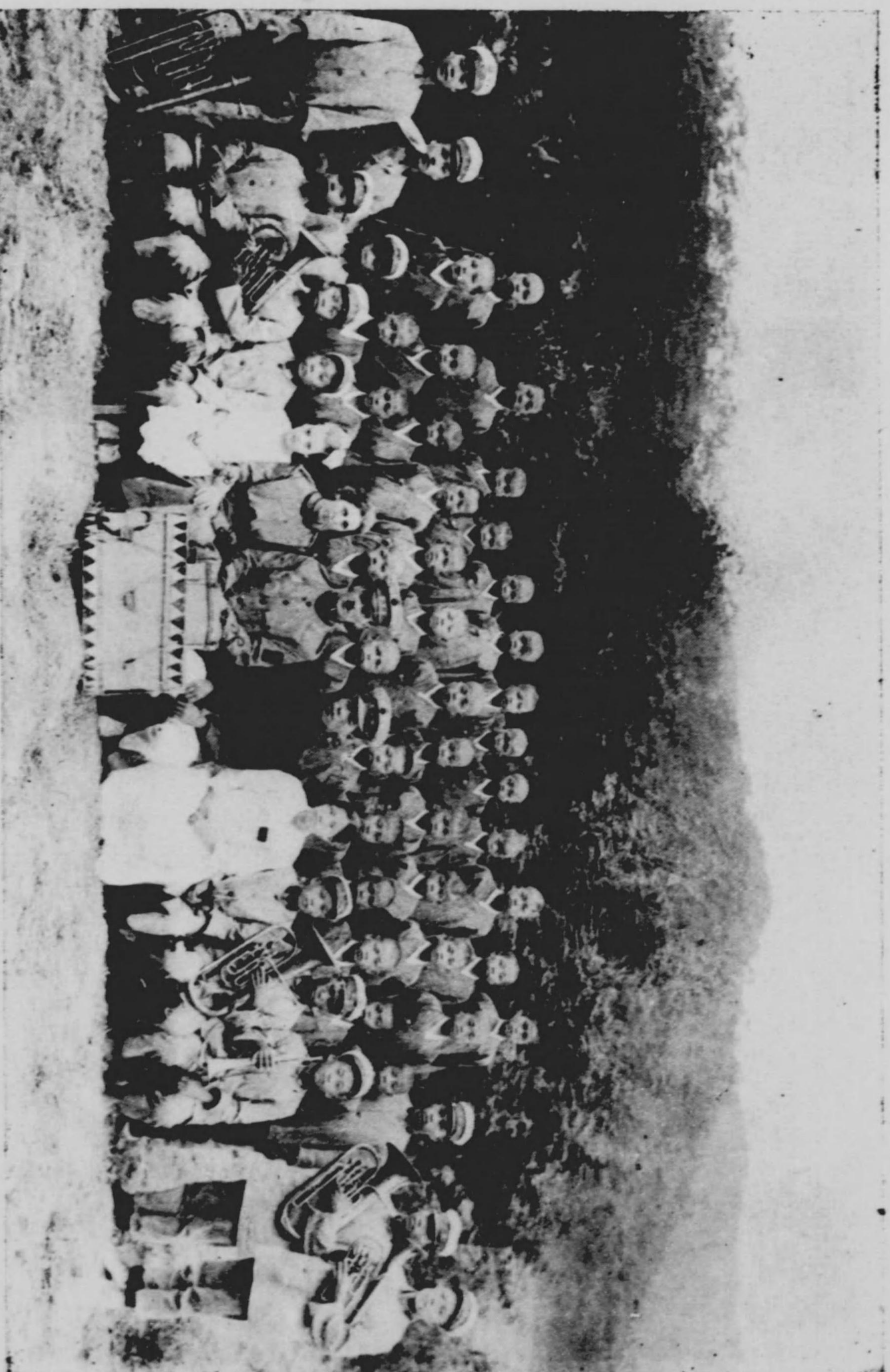
和光園各部



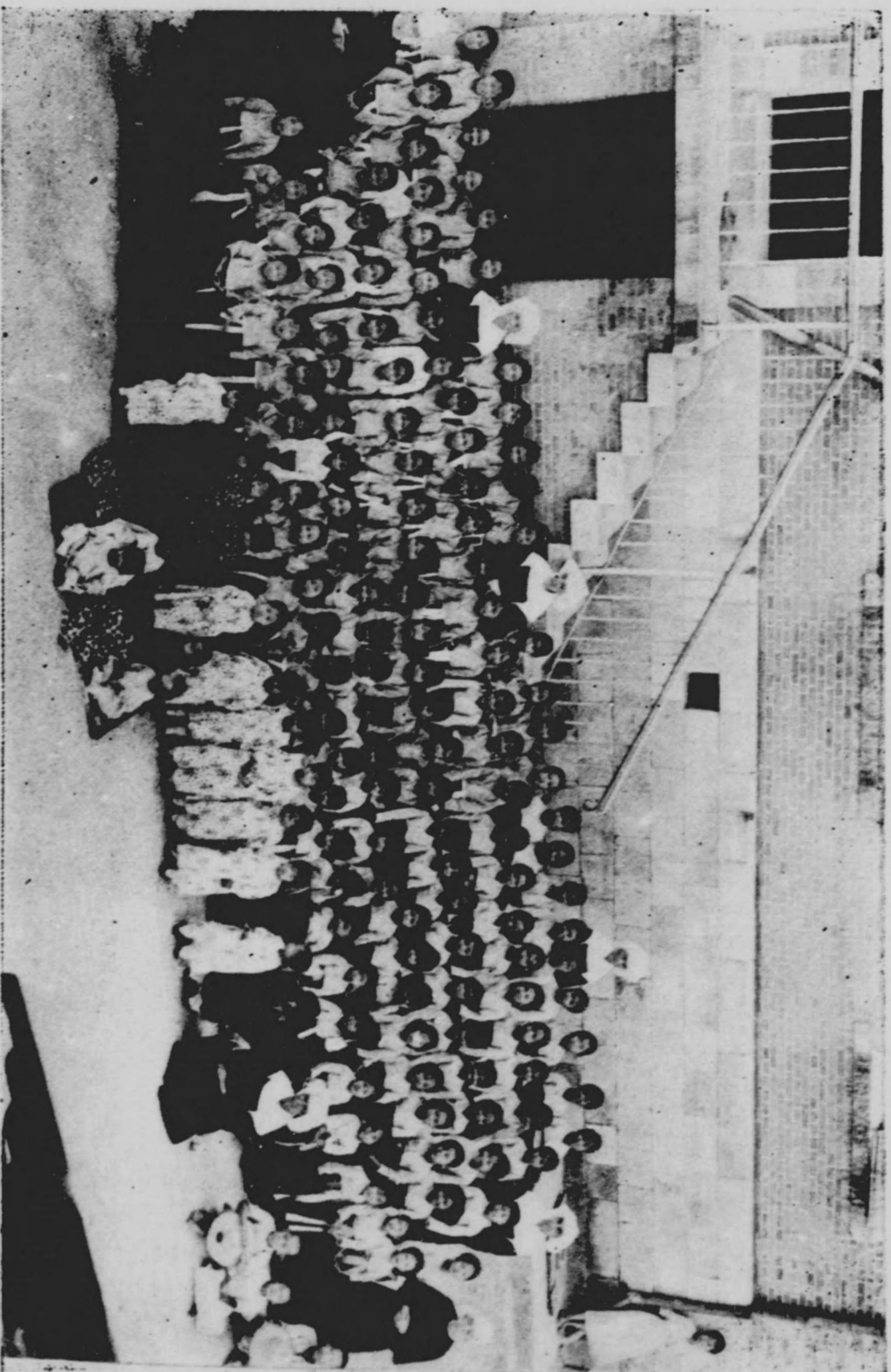
京 城 府 北 園 公 設 市 場



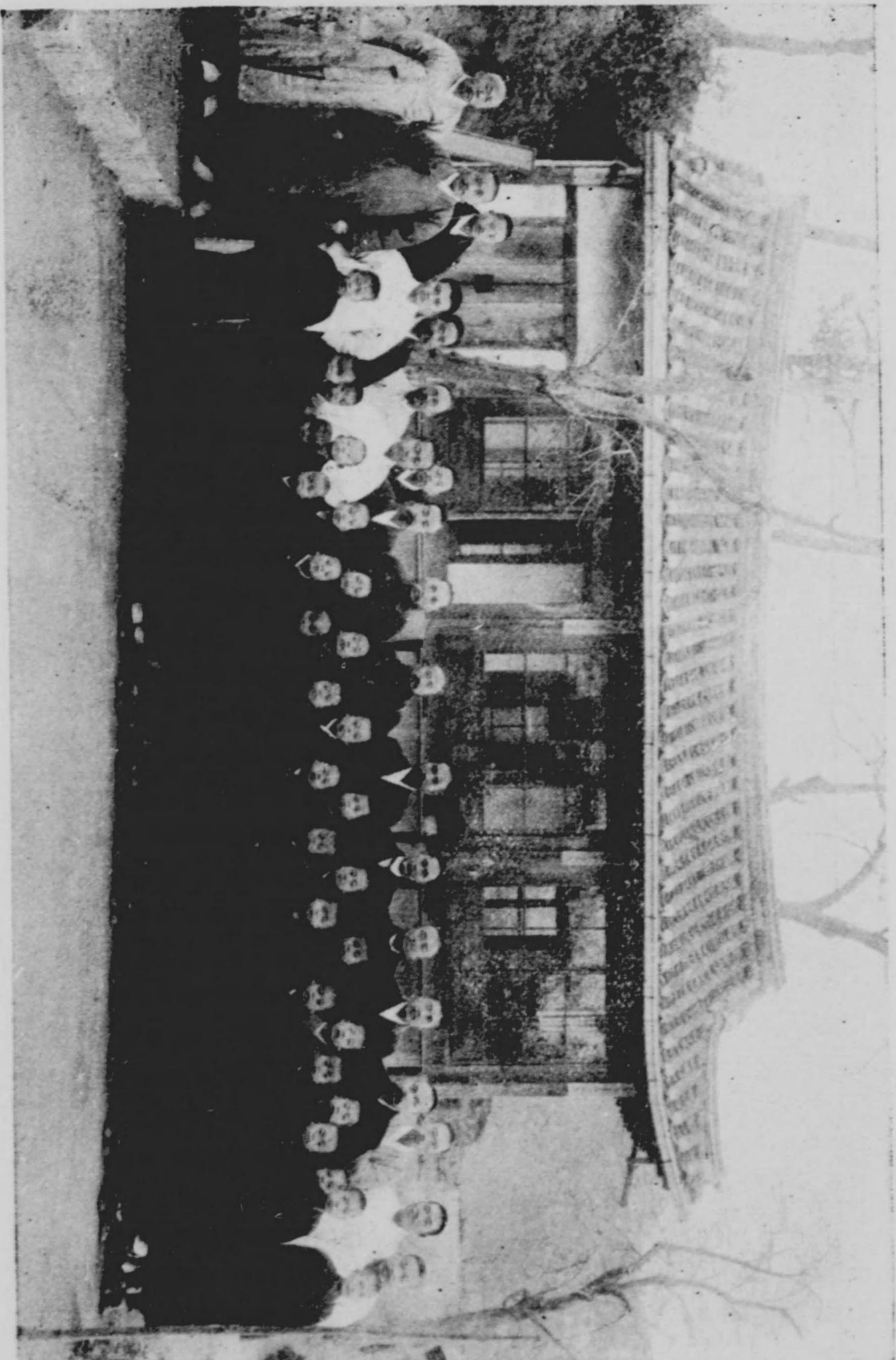
鎌 倉 保 育 園 京 城 支 部



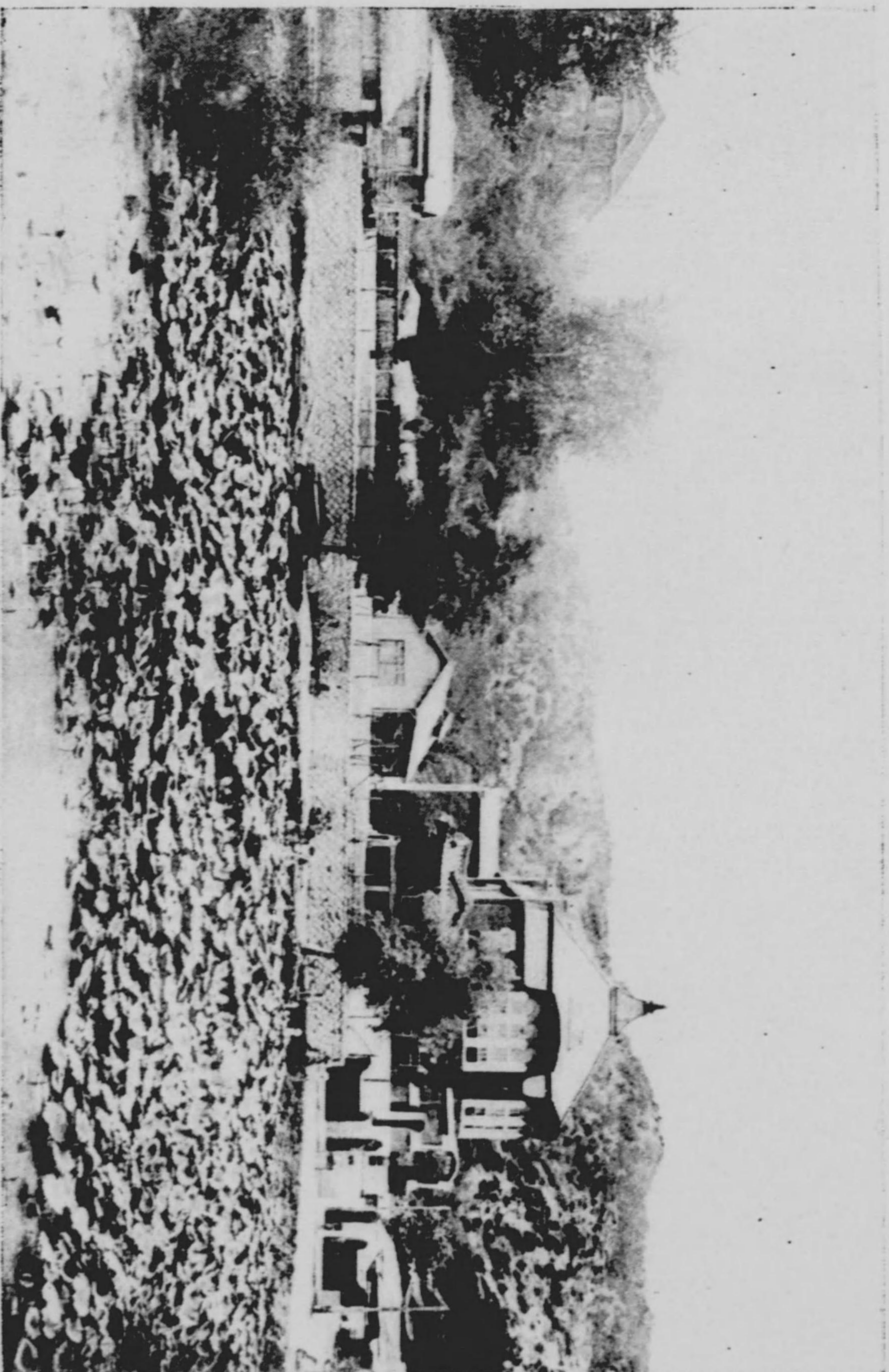
救世軍育兒第一



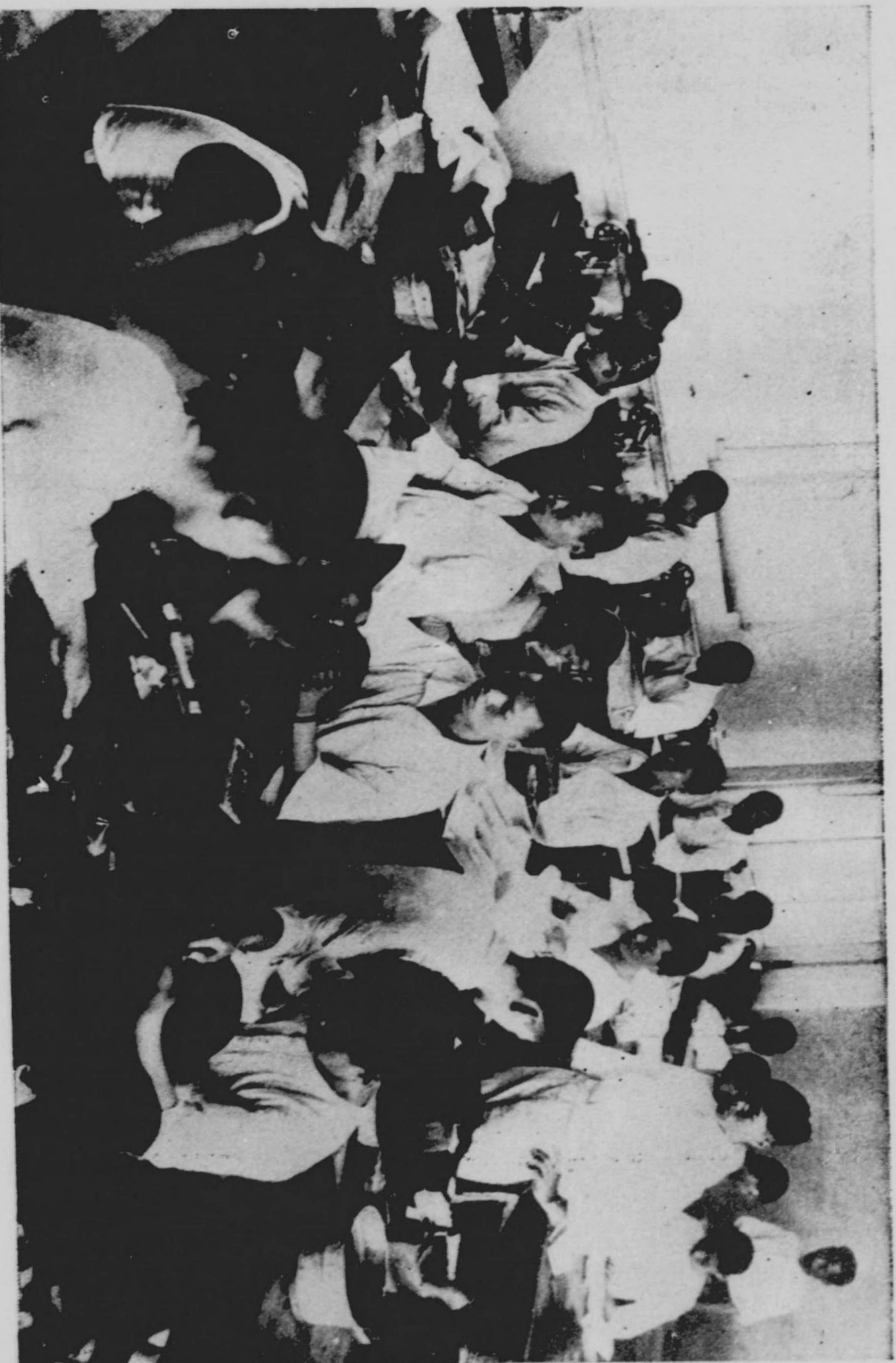
天主教會孤兒院



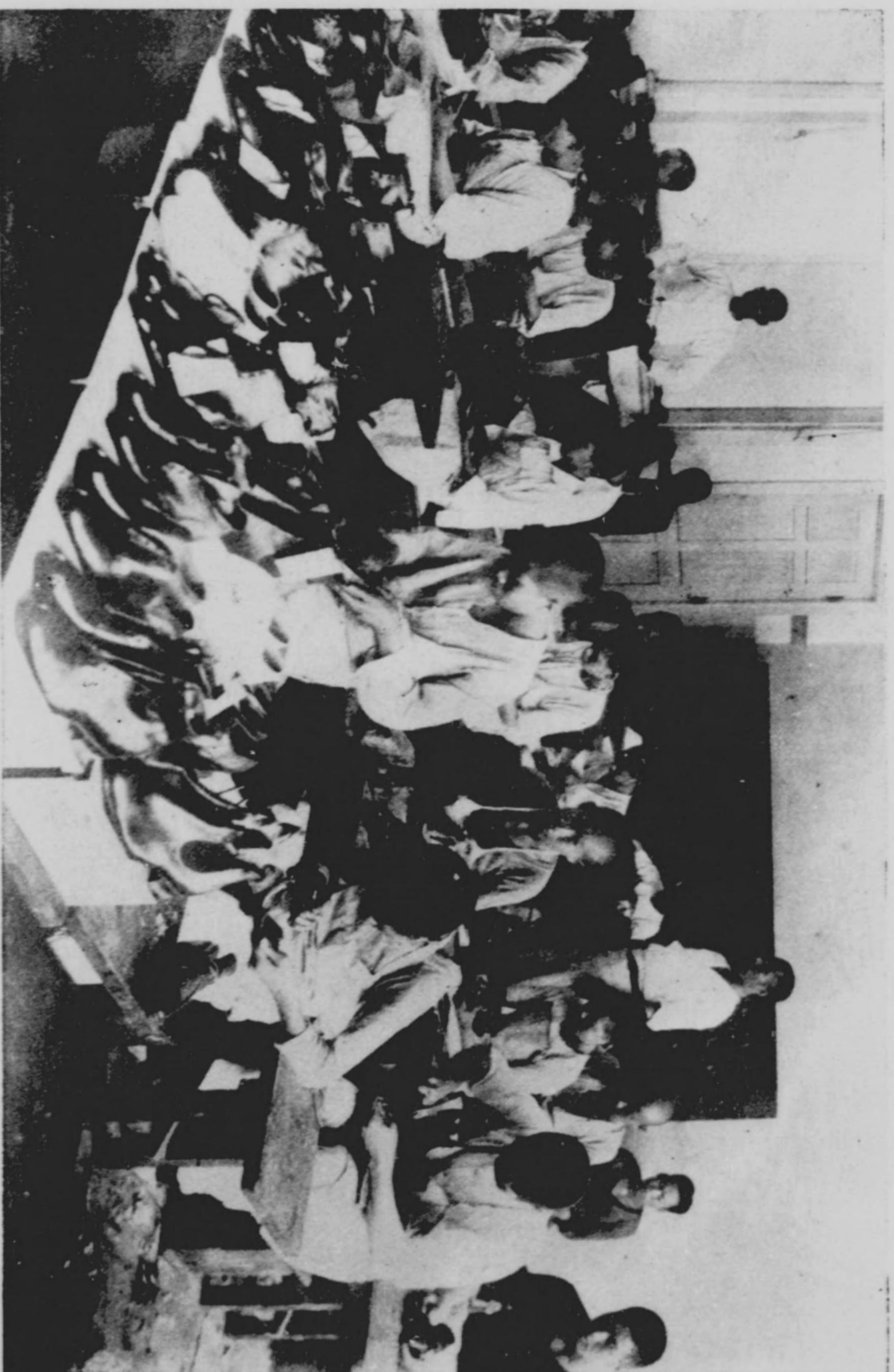
財團法人北京城保育院



向會館全景



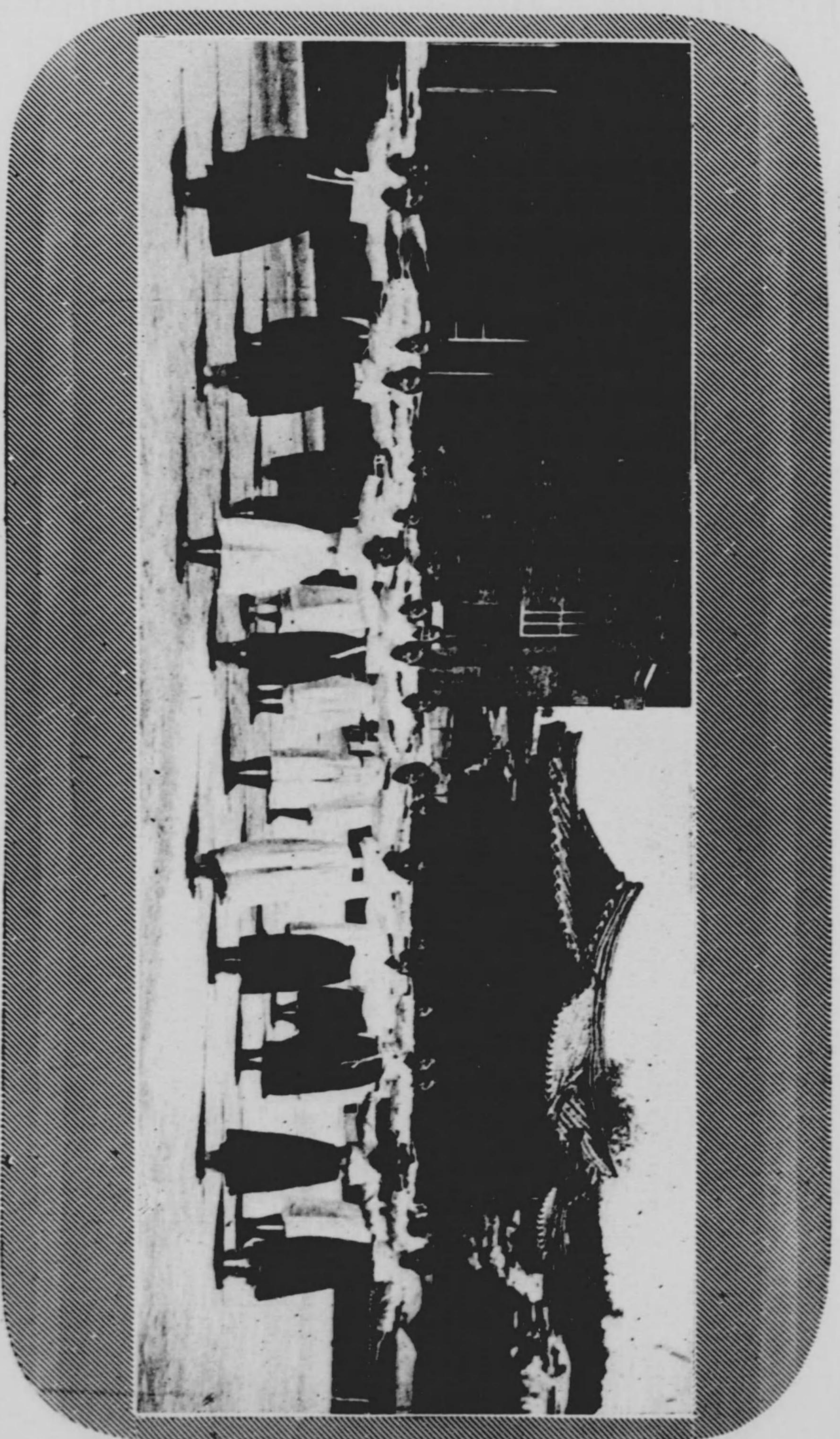
室習實科服洋部業產館會上向



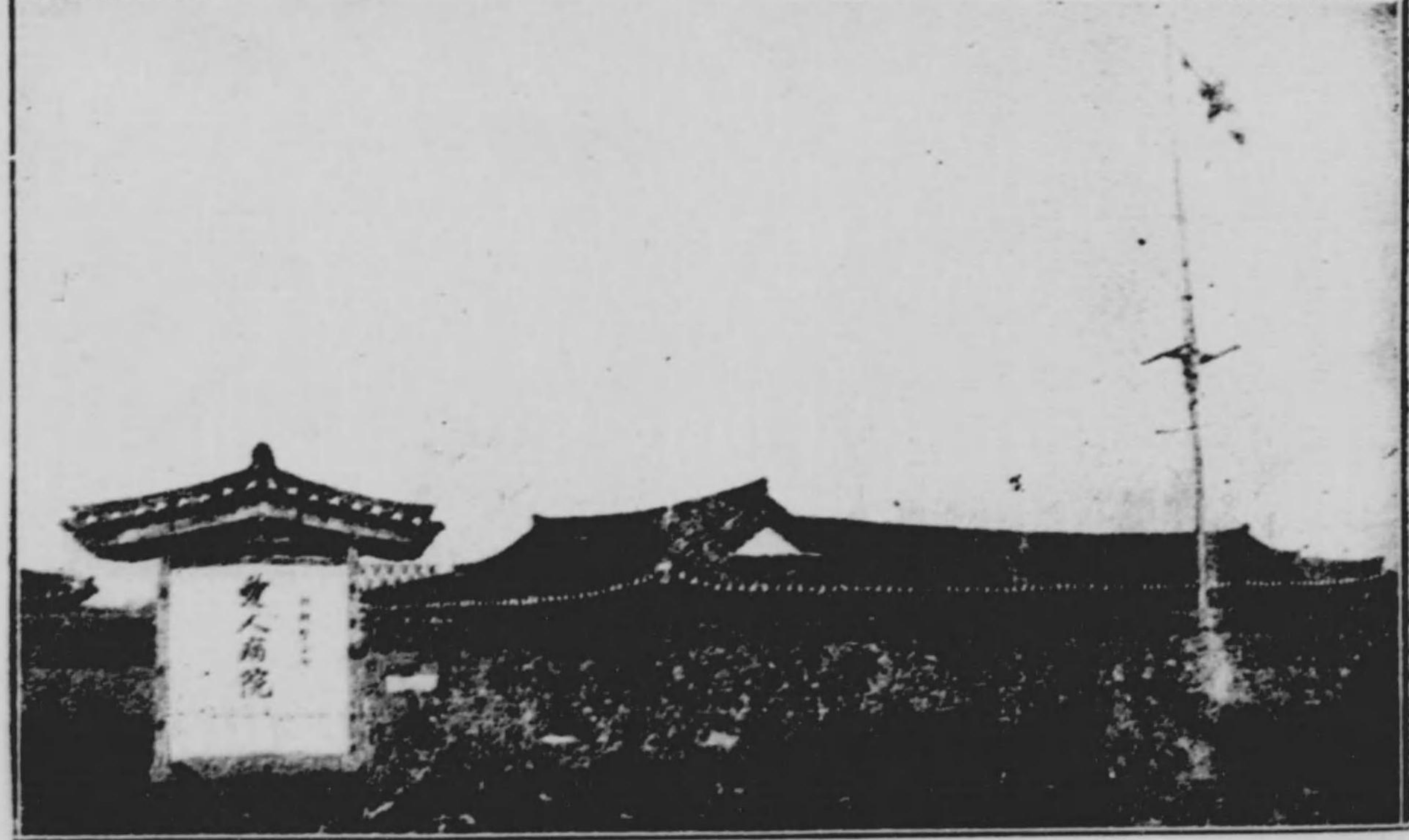
室習實科靴洋部業產館會上向



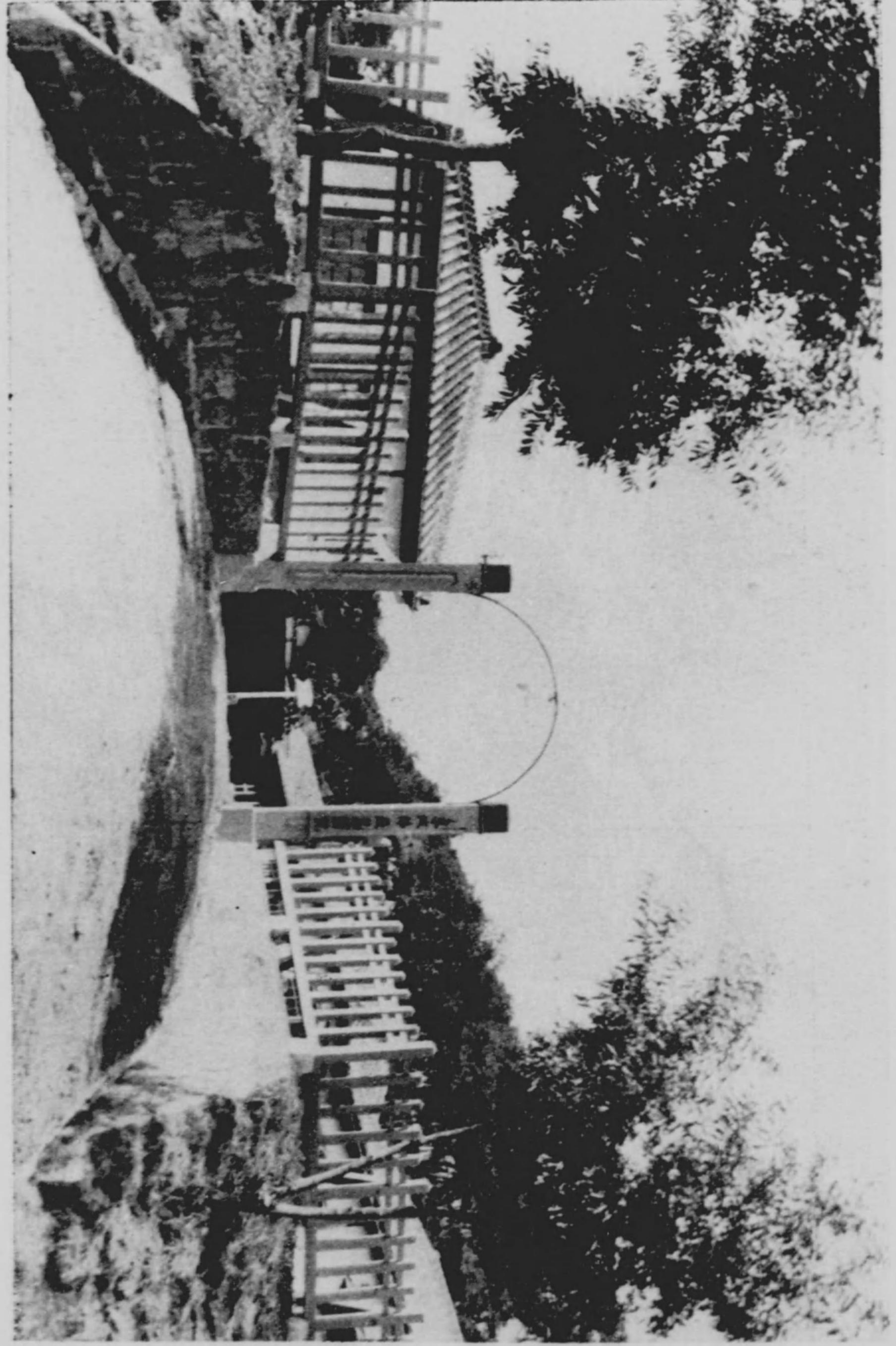
室習實校學藝技子女館會上向



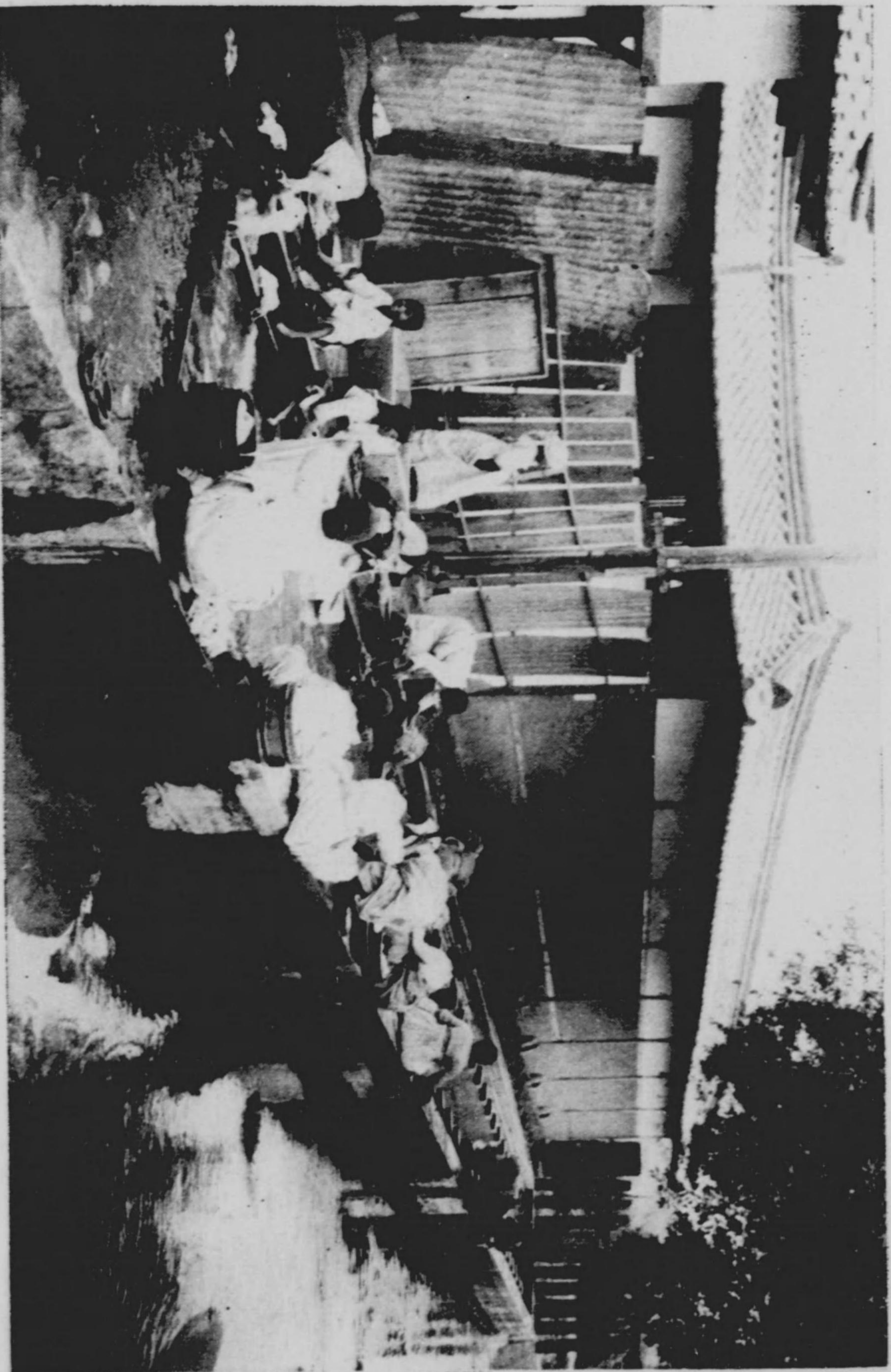
操體上向子女館會上向



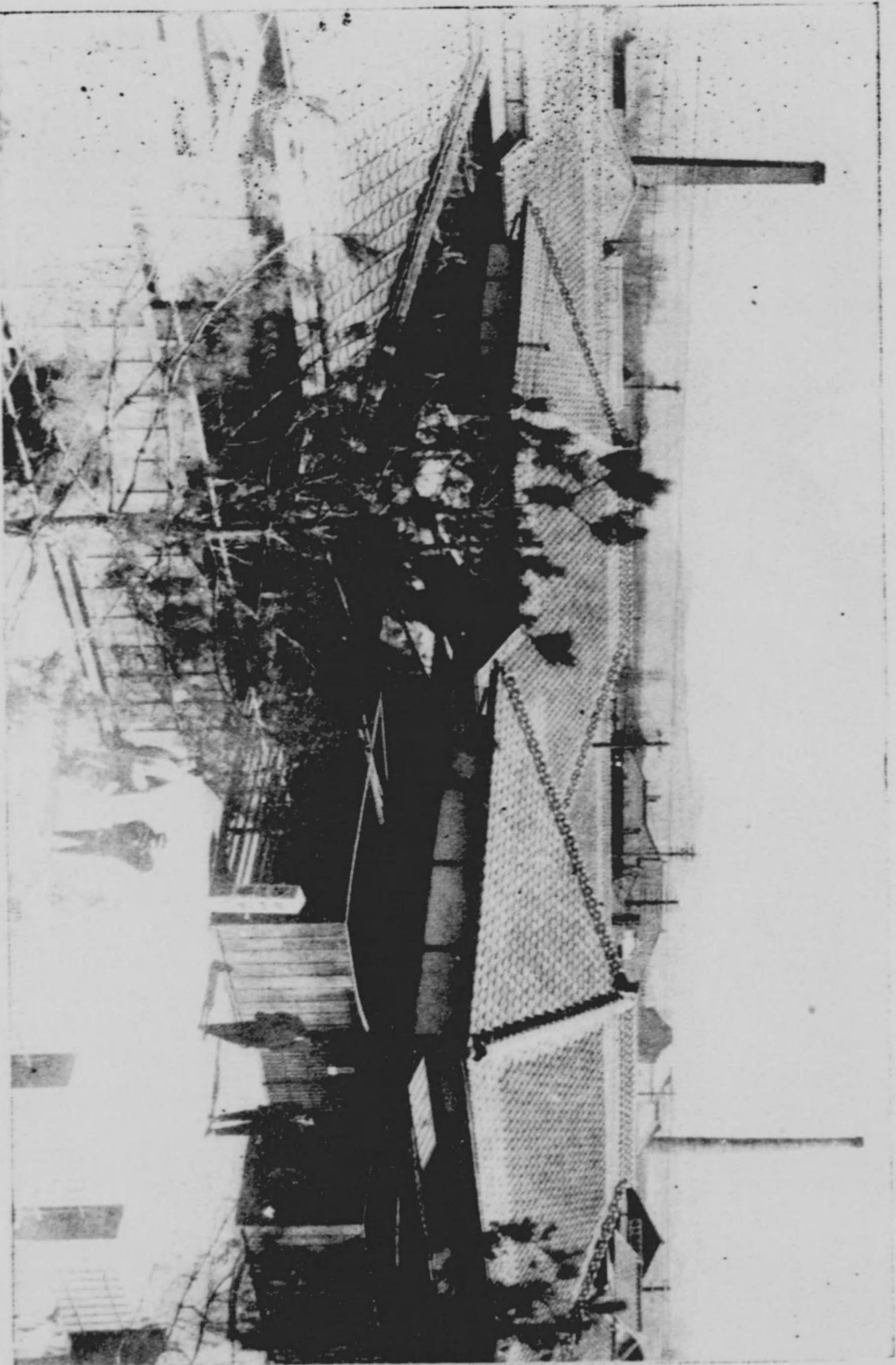
室術手科外院病同上 院病人愛下



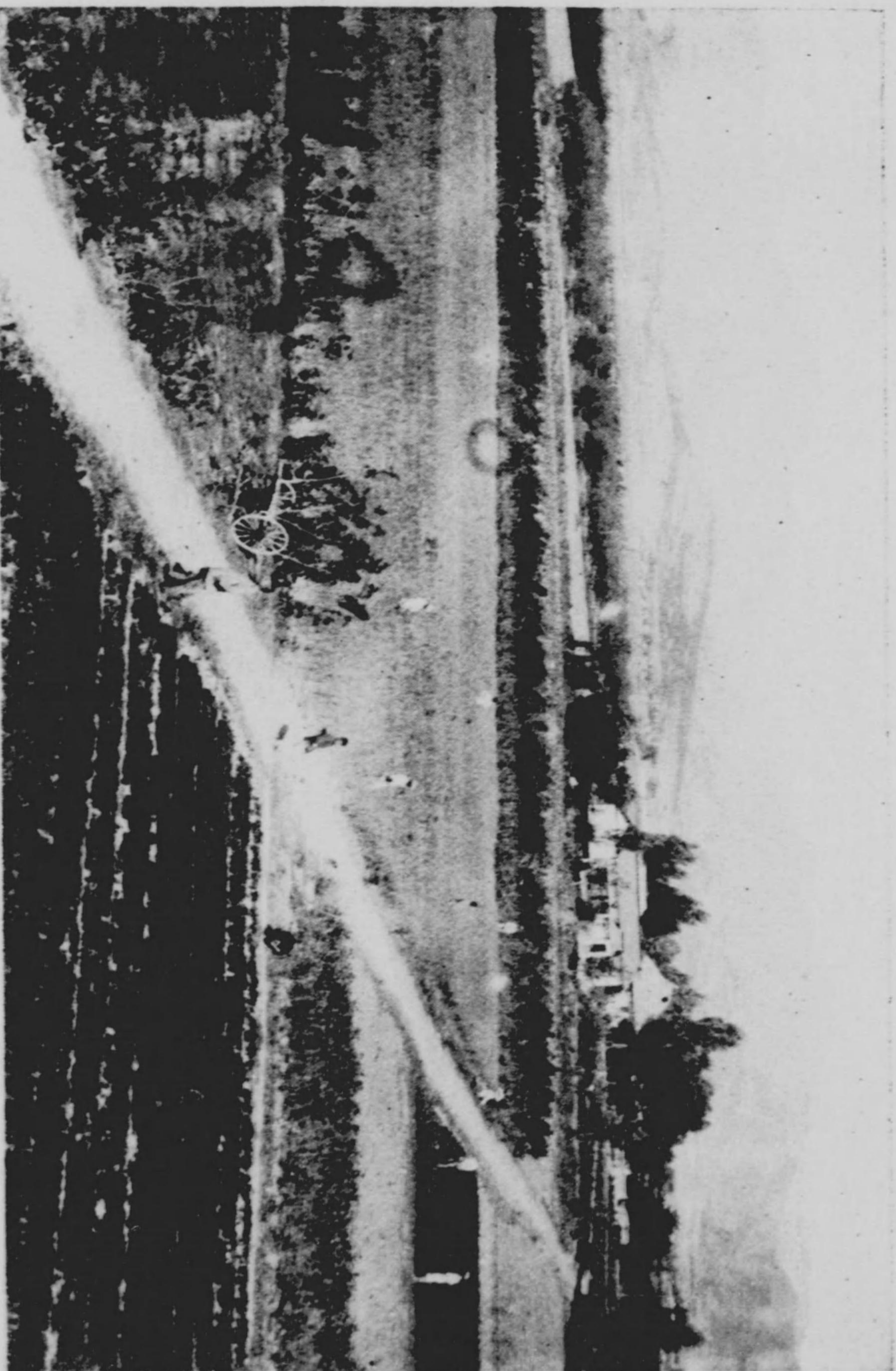
所療診費實設附會濟慈教佛城京



大邱府德山町設洗灌場



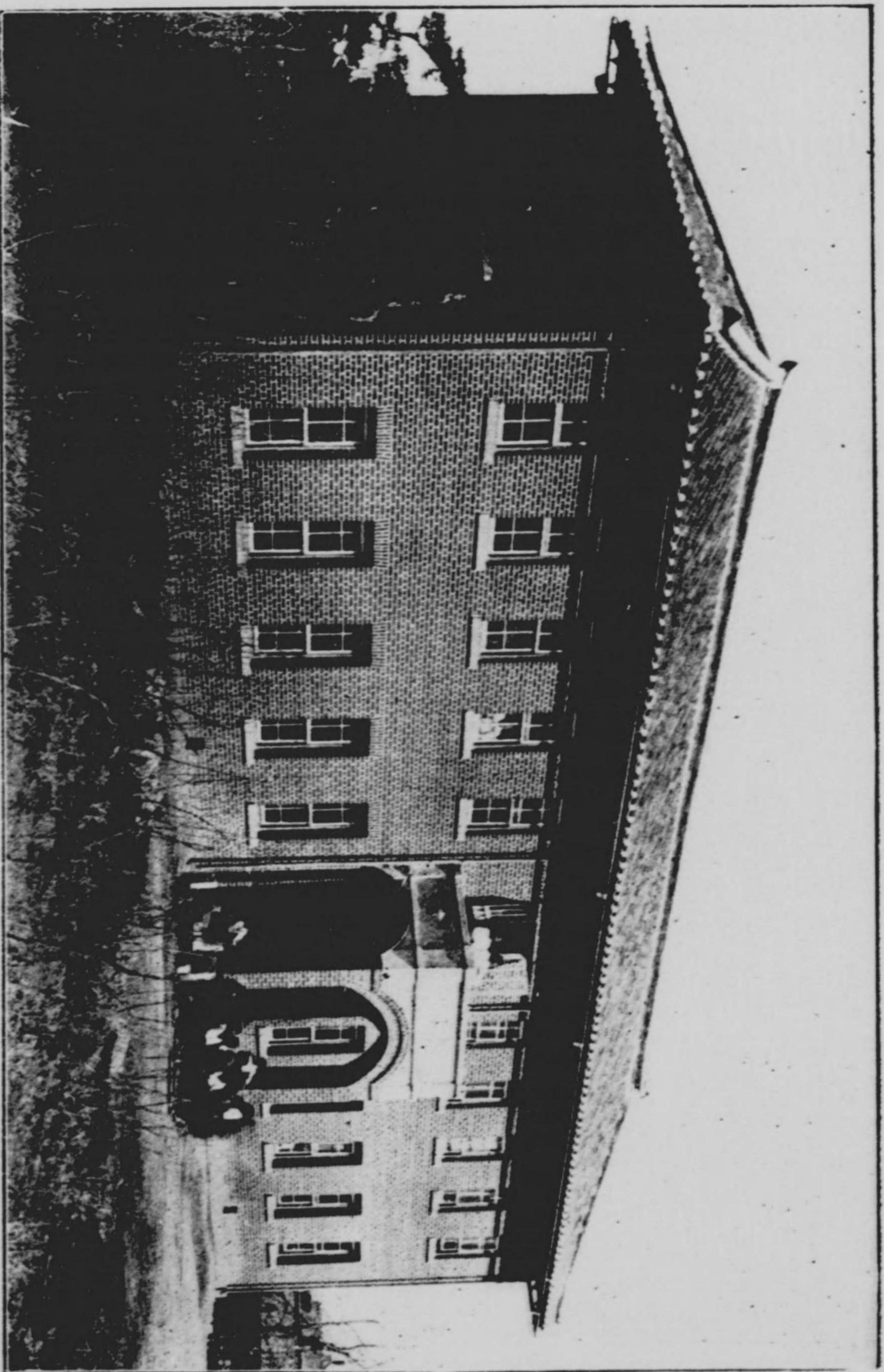
大邱府營住宅



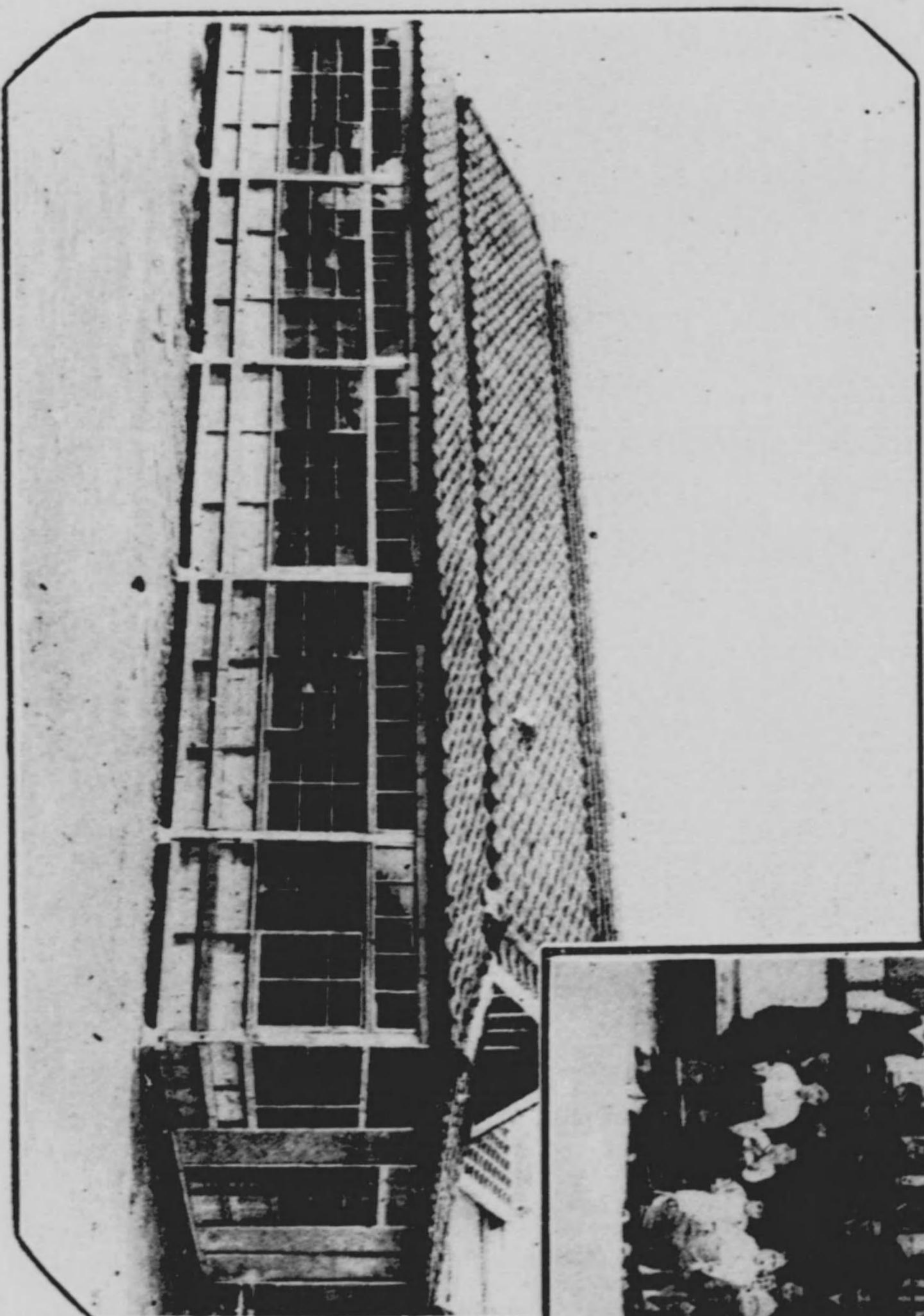
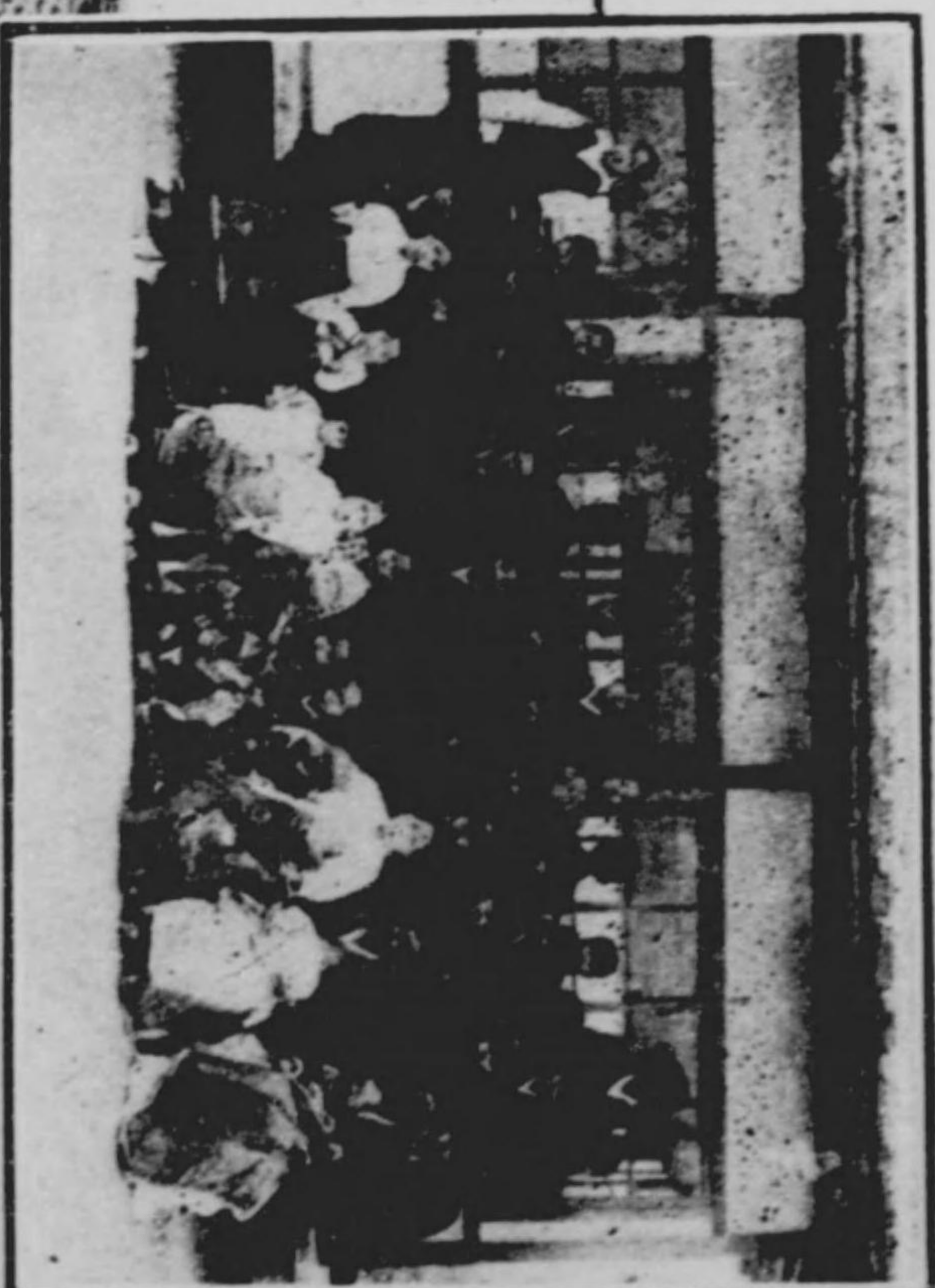
朝鮮扶植農園附屬耕作地



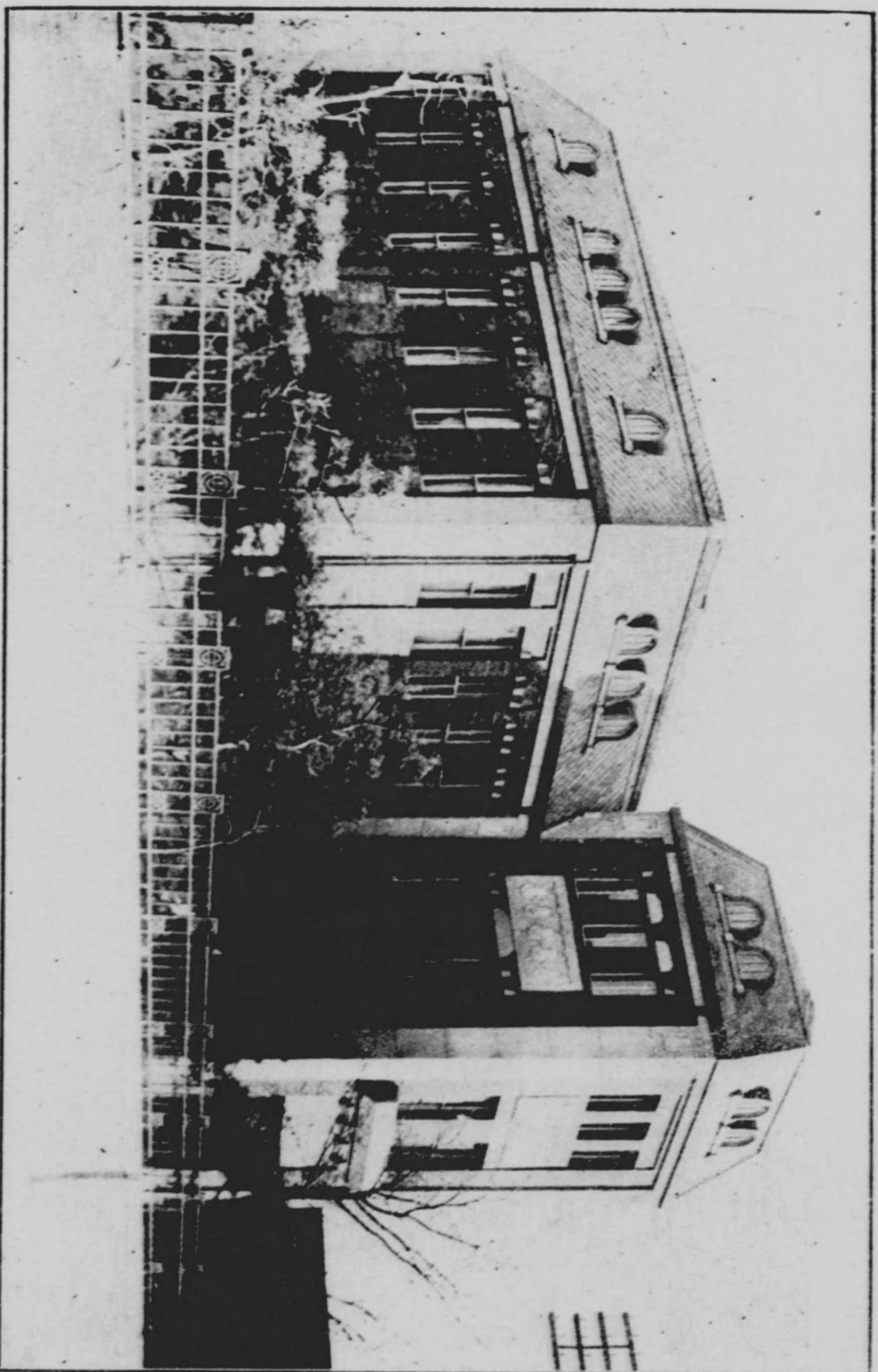
天主教修女附設孤兒院



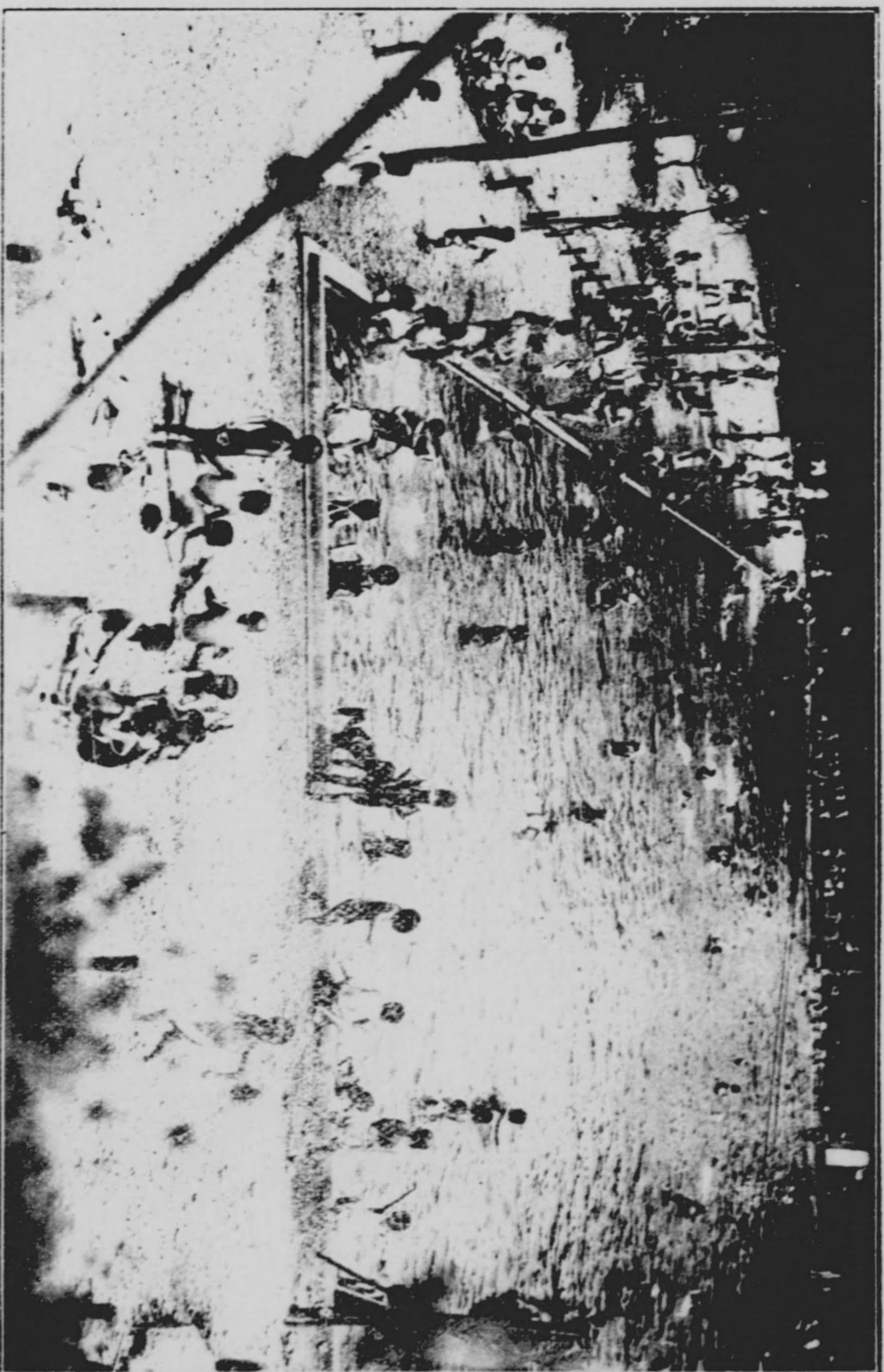
大 邱 癩 病 院



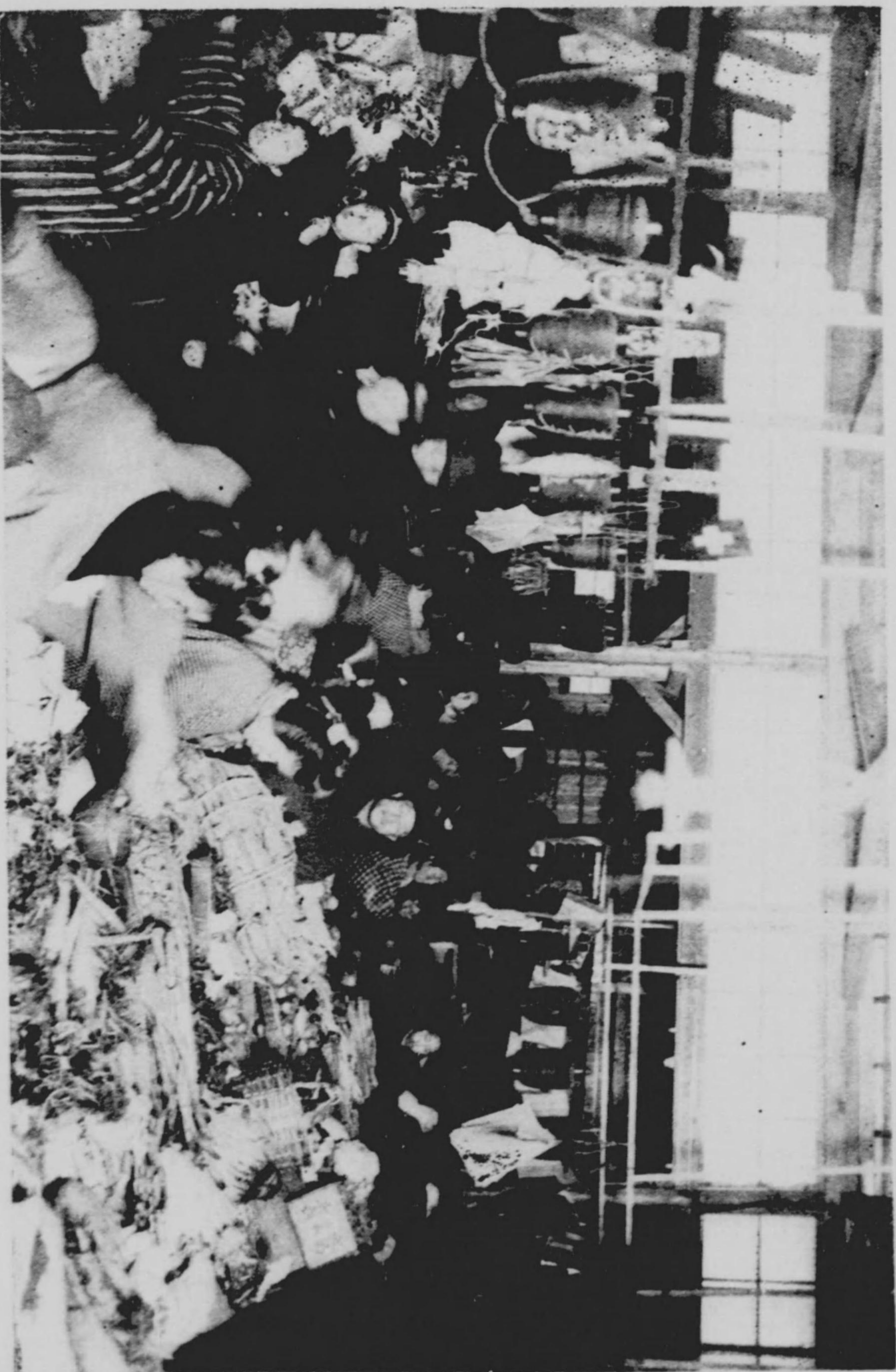
遼 北 救 濟 會 家 族 立 職 員 及 收 容 兒



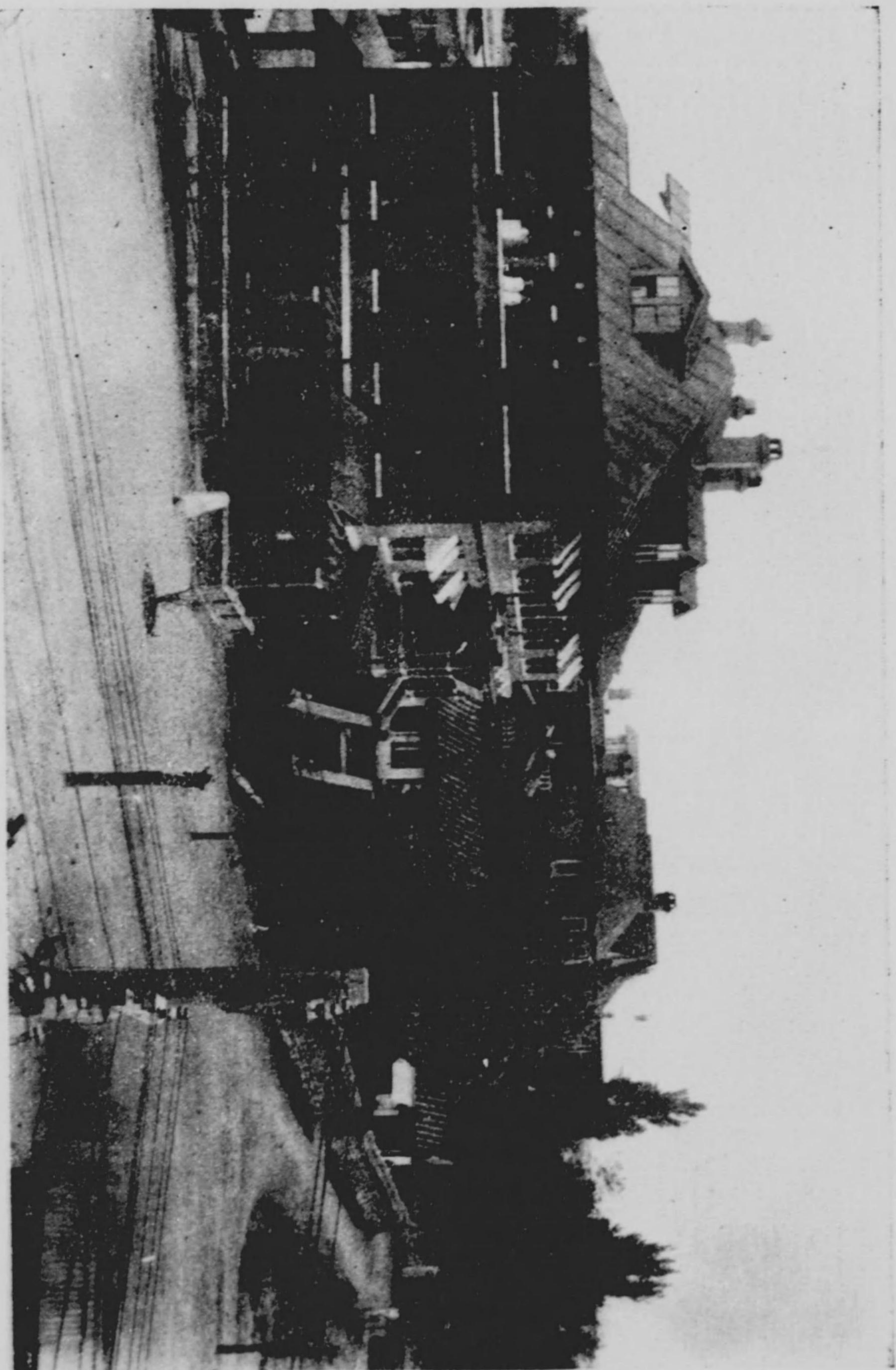
大 邱 府 立 圖 書 館



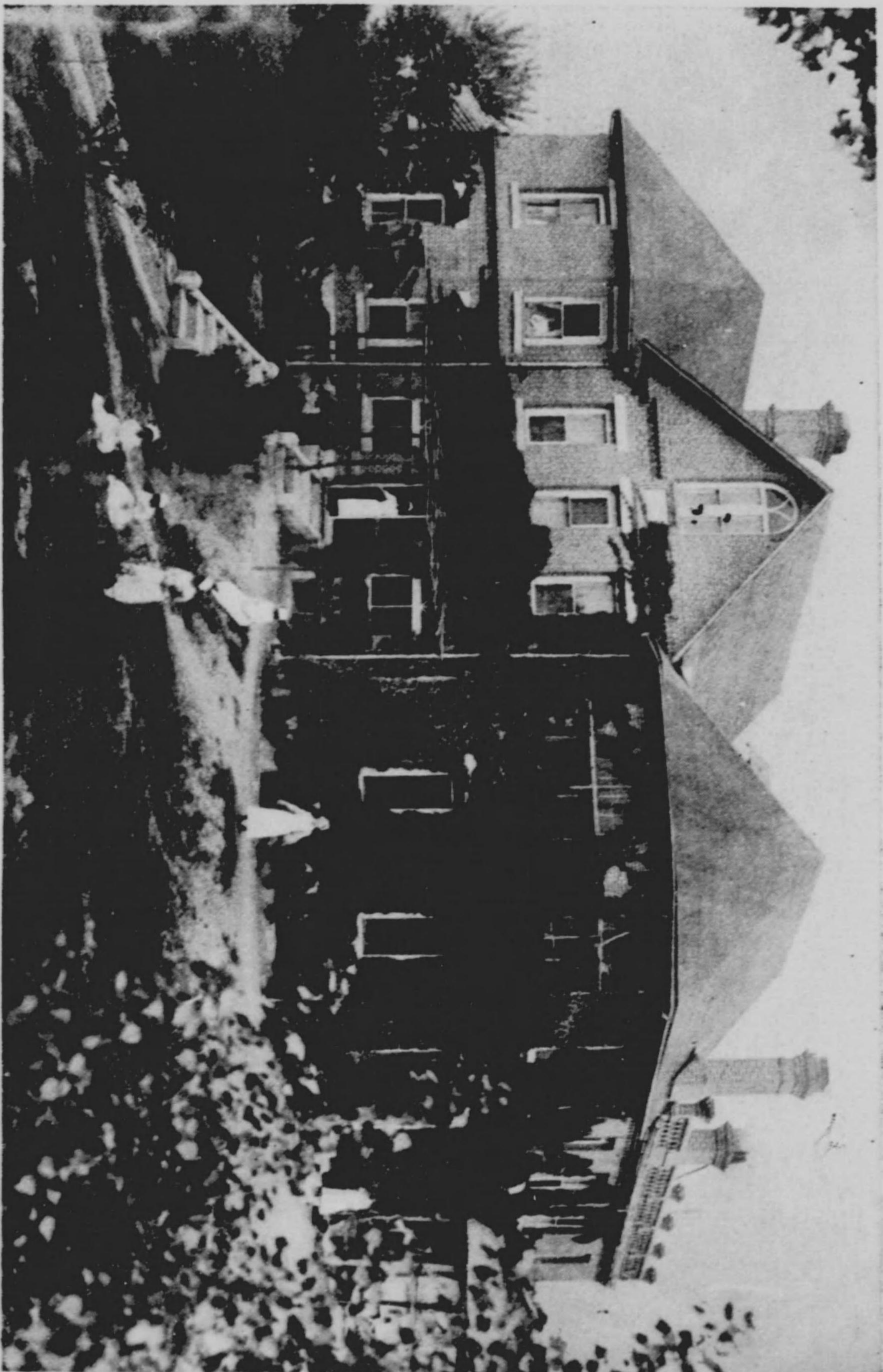
大 邱 公 設 水 泳 場



釜山富平町公設市場



平壤合基醫院 (男子患者室)



平壤聯合基督教醫院 (婦人患者室)



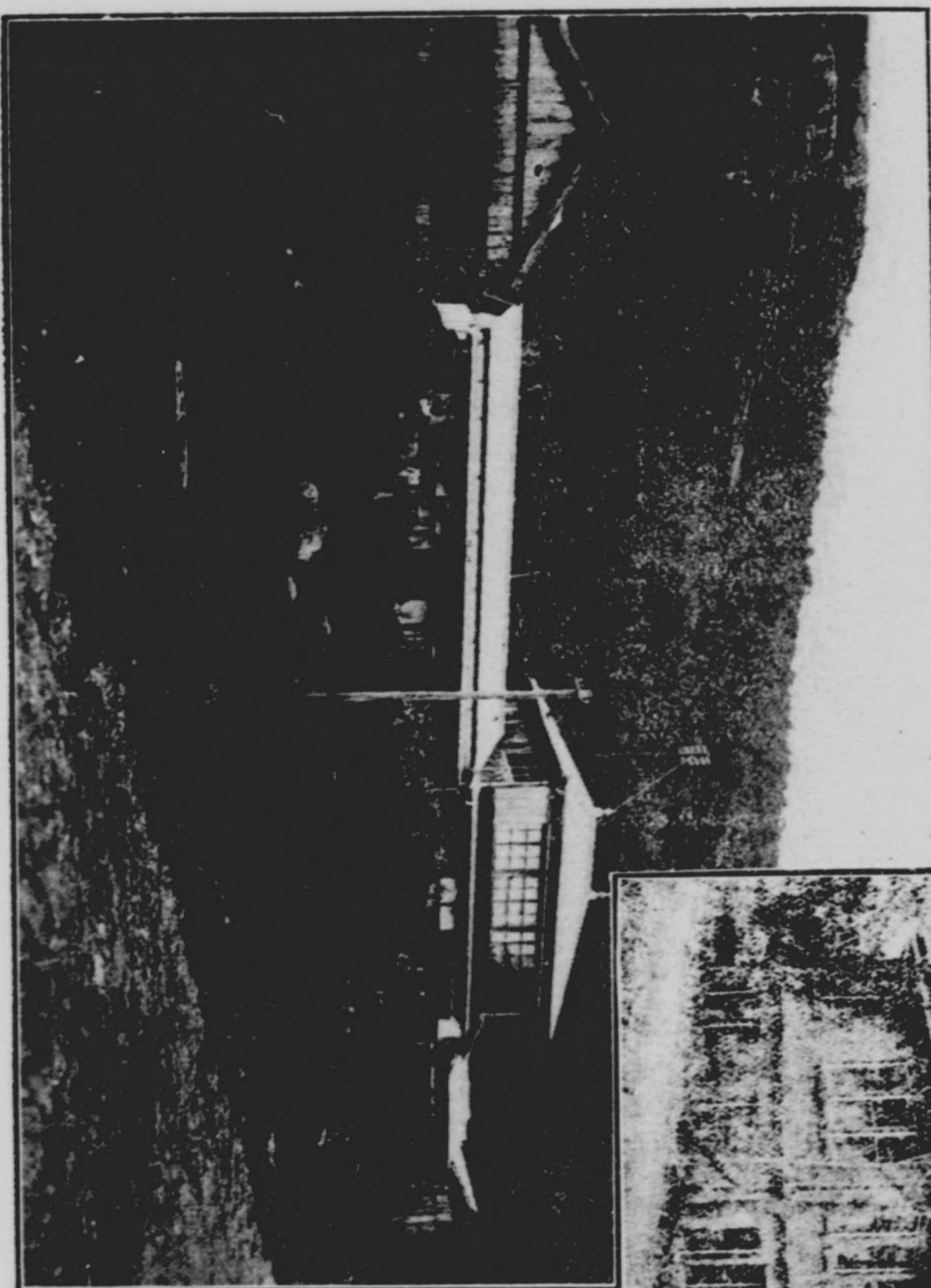
平壤救活醫院



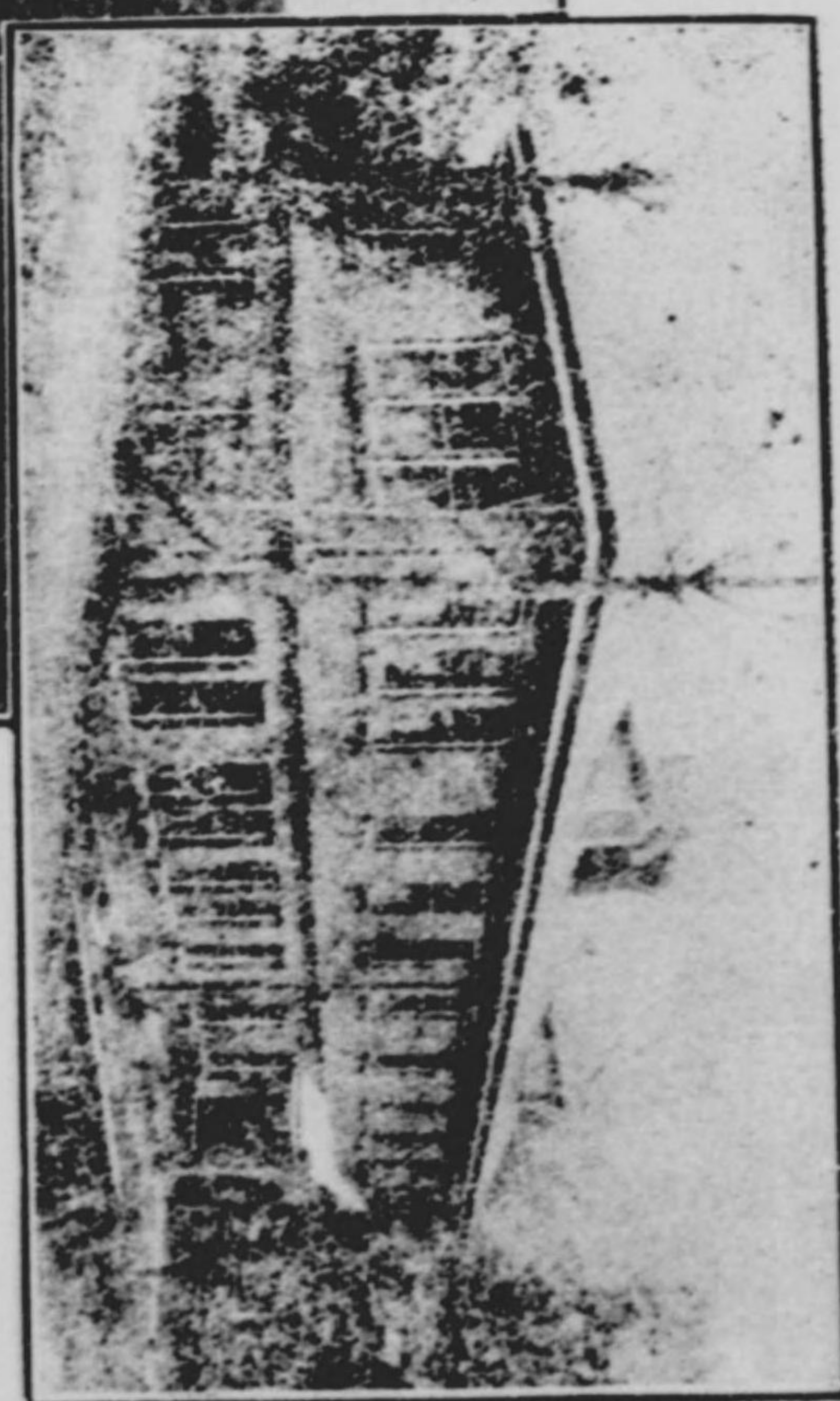
蘇民醫院棟



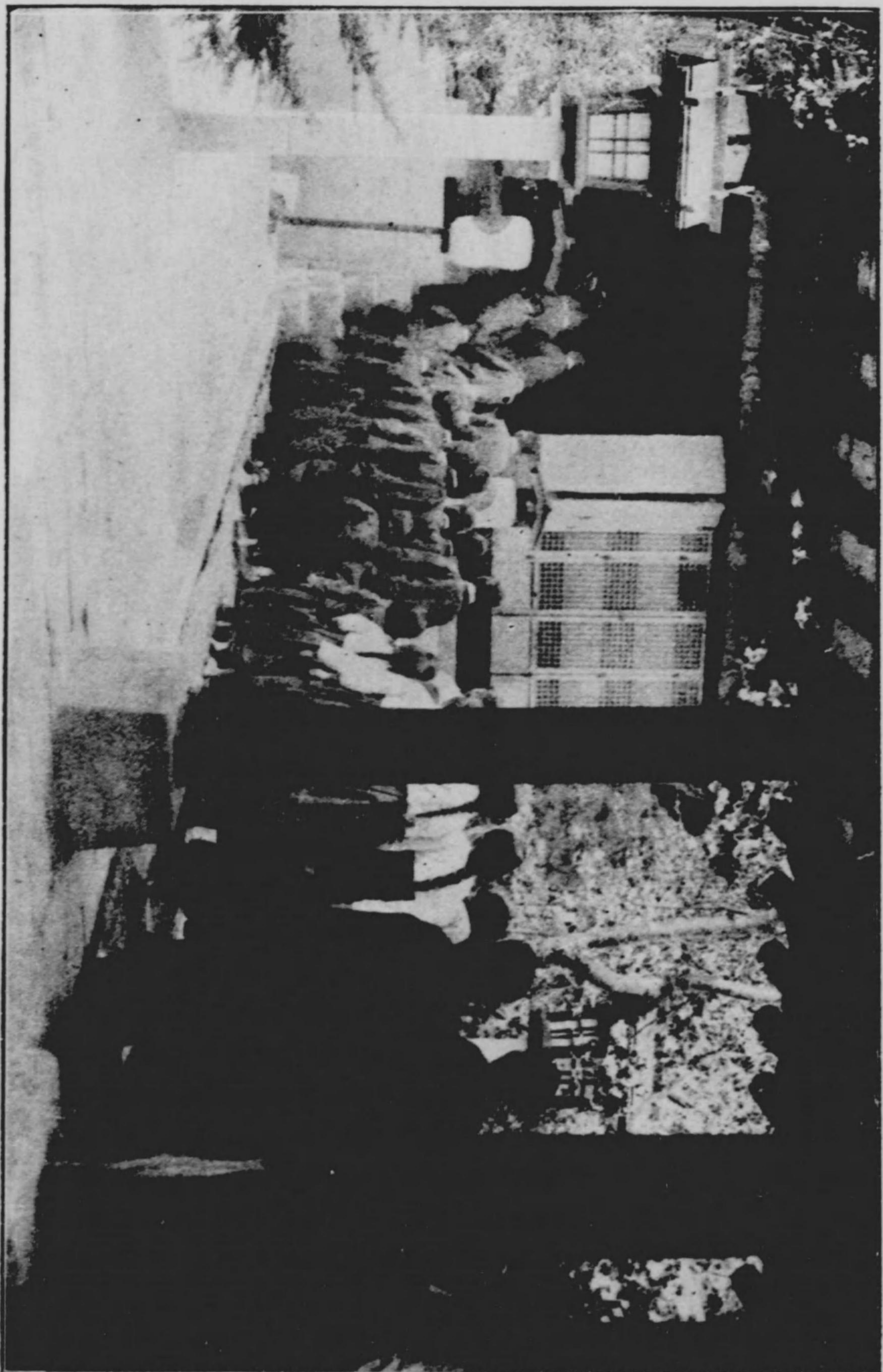
會疆自田大道南清忠



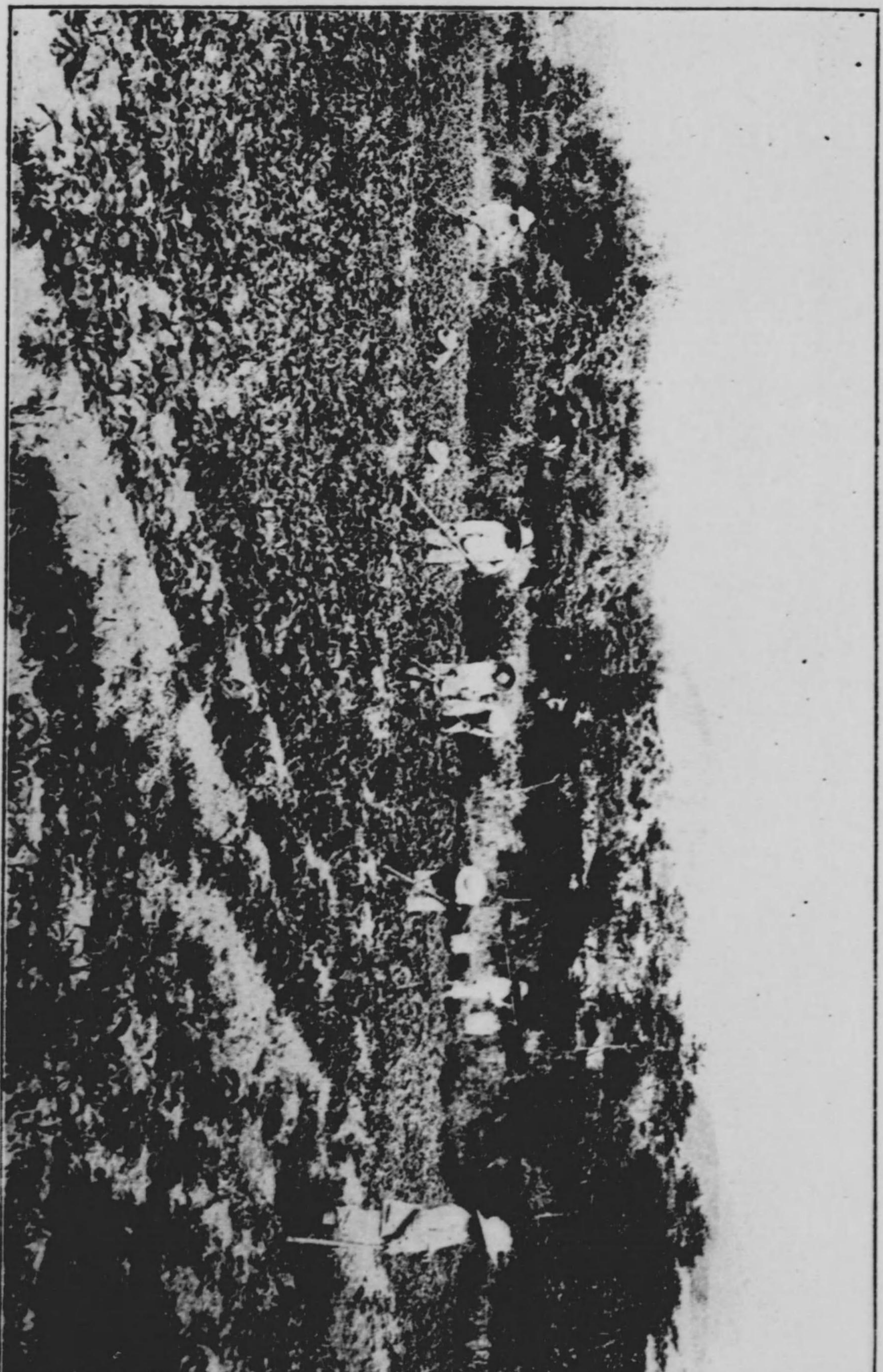
景全會成輔山釜人法團財



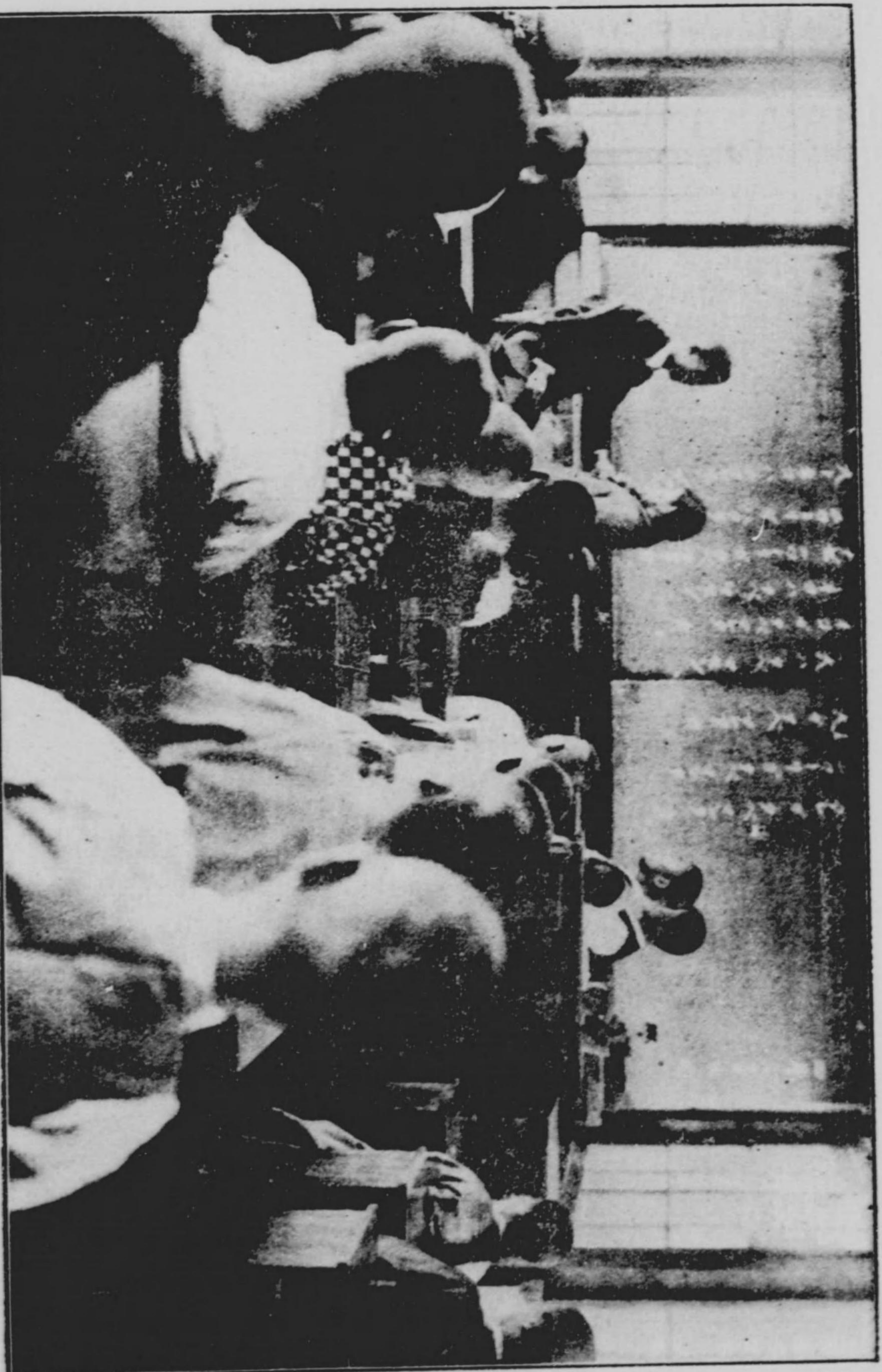
景全面外院病安順



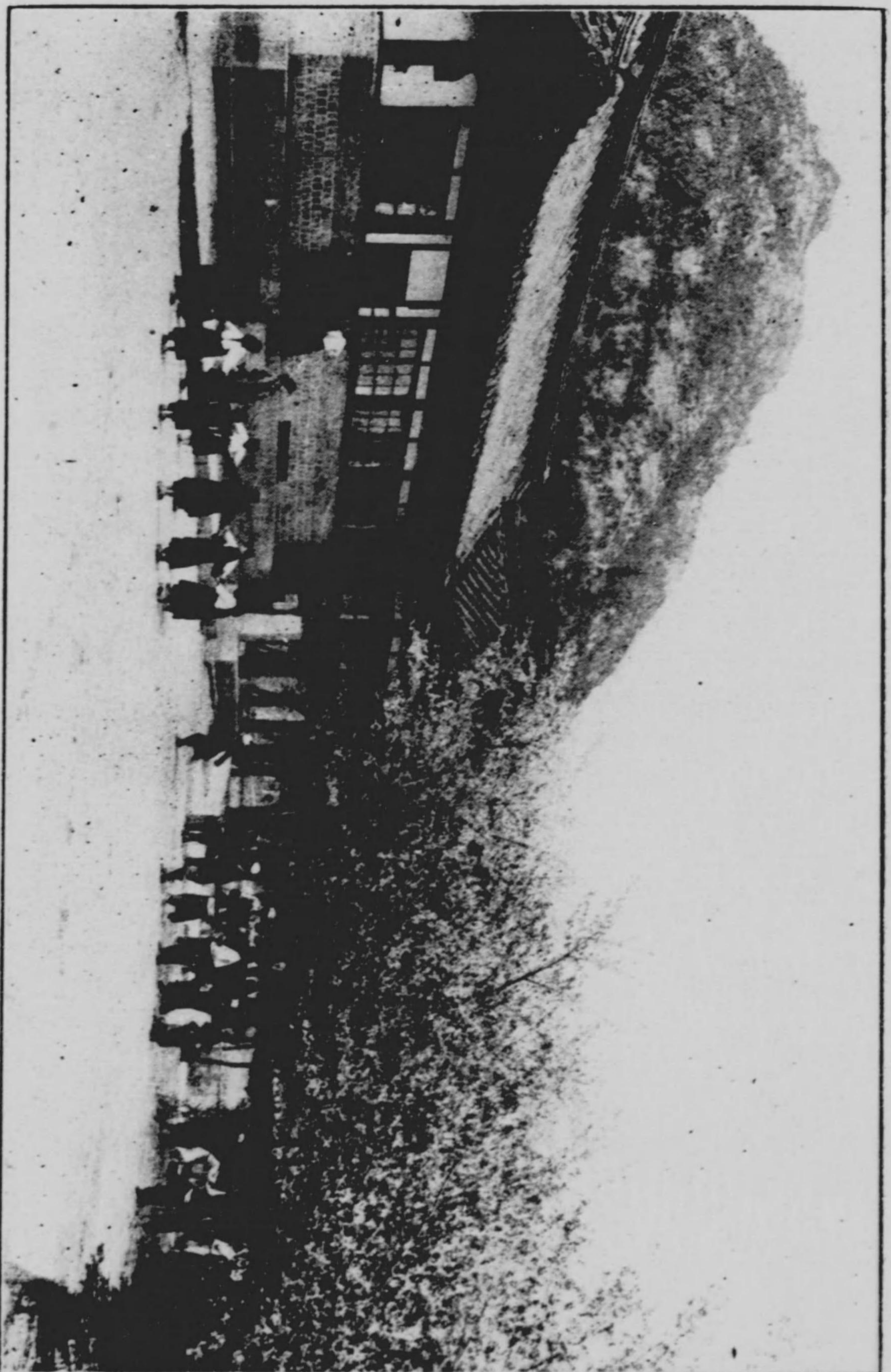
詣參宮神大內構部育養院生濟



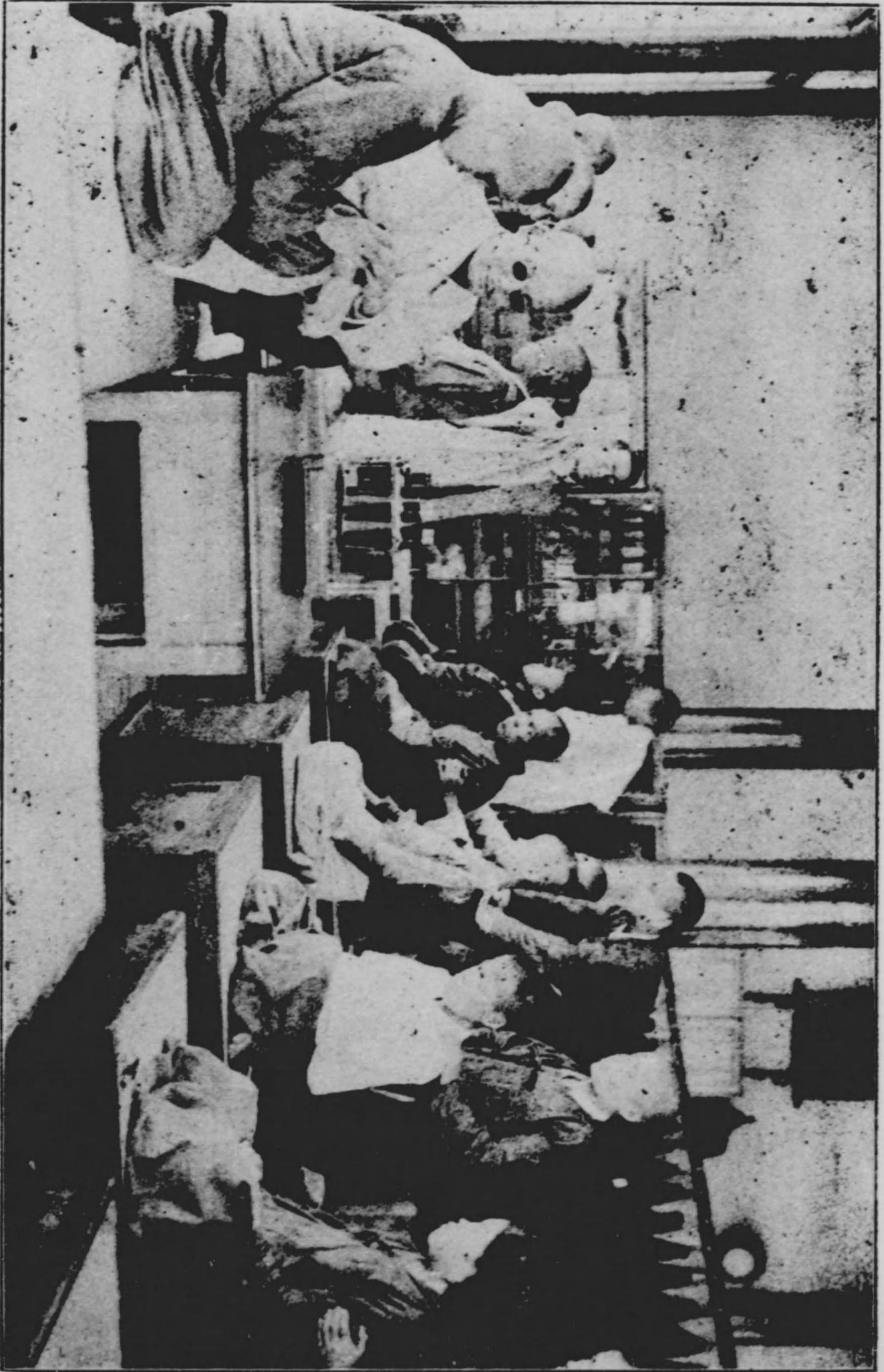
習實作畑場農院生濟



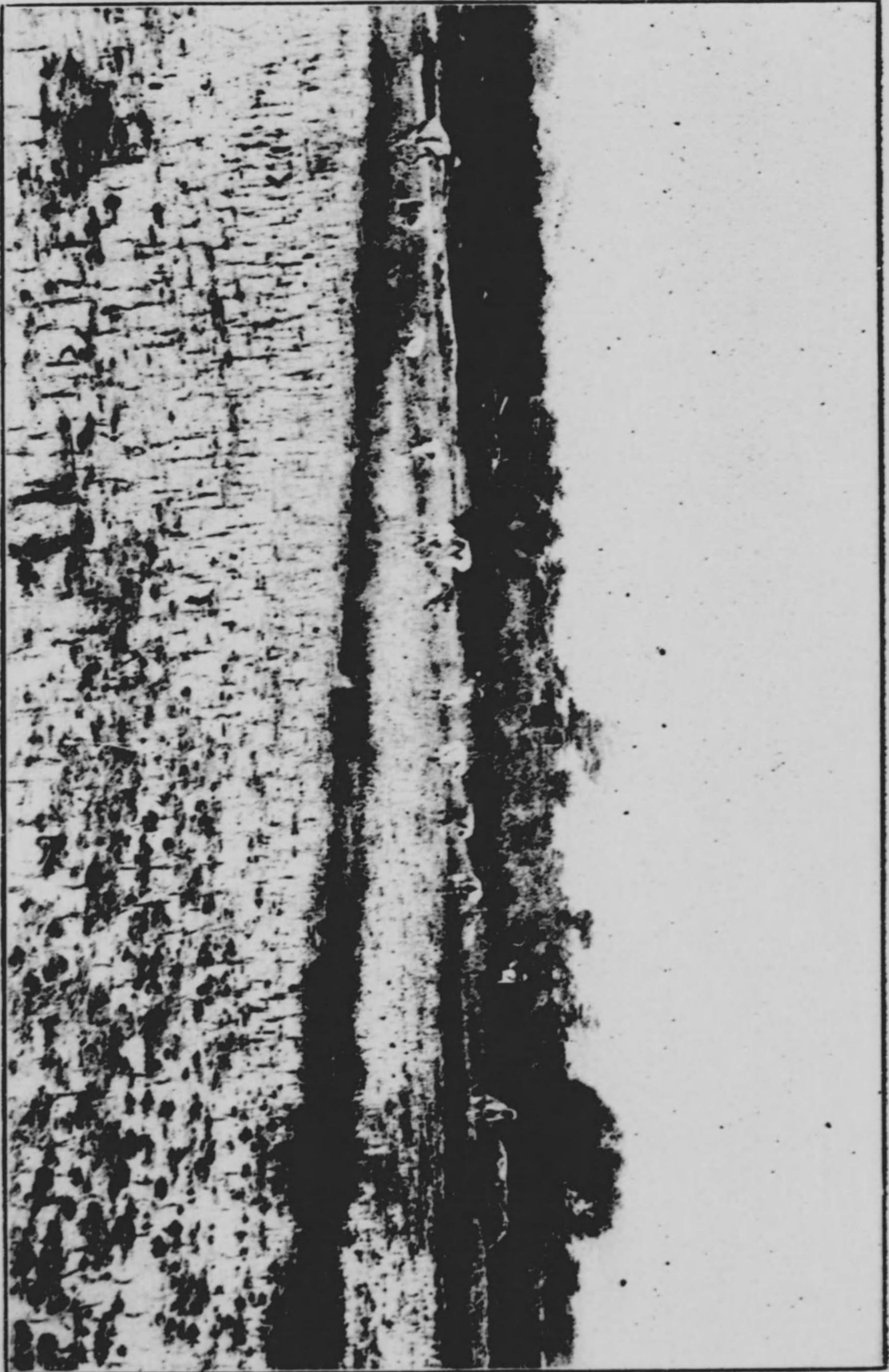
授教音發生聾部聾盲院生濟



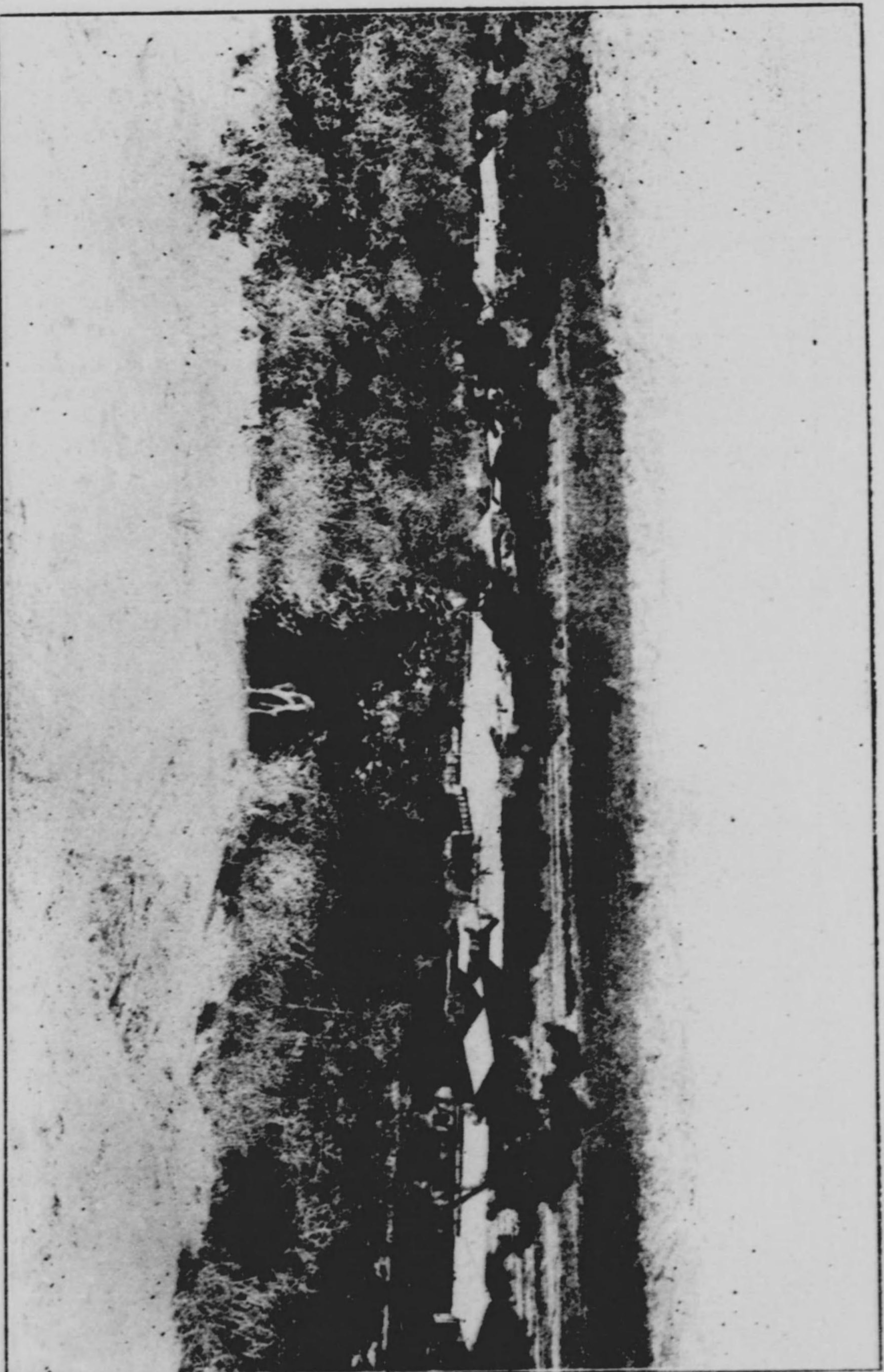
戲遊の兒院部育養院生濟



習實按鍼生盲部噎盲院生濟



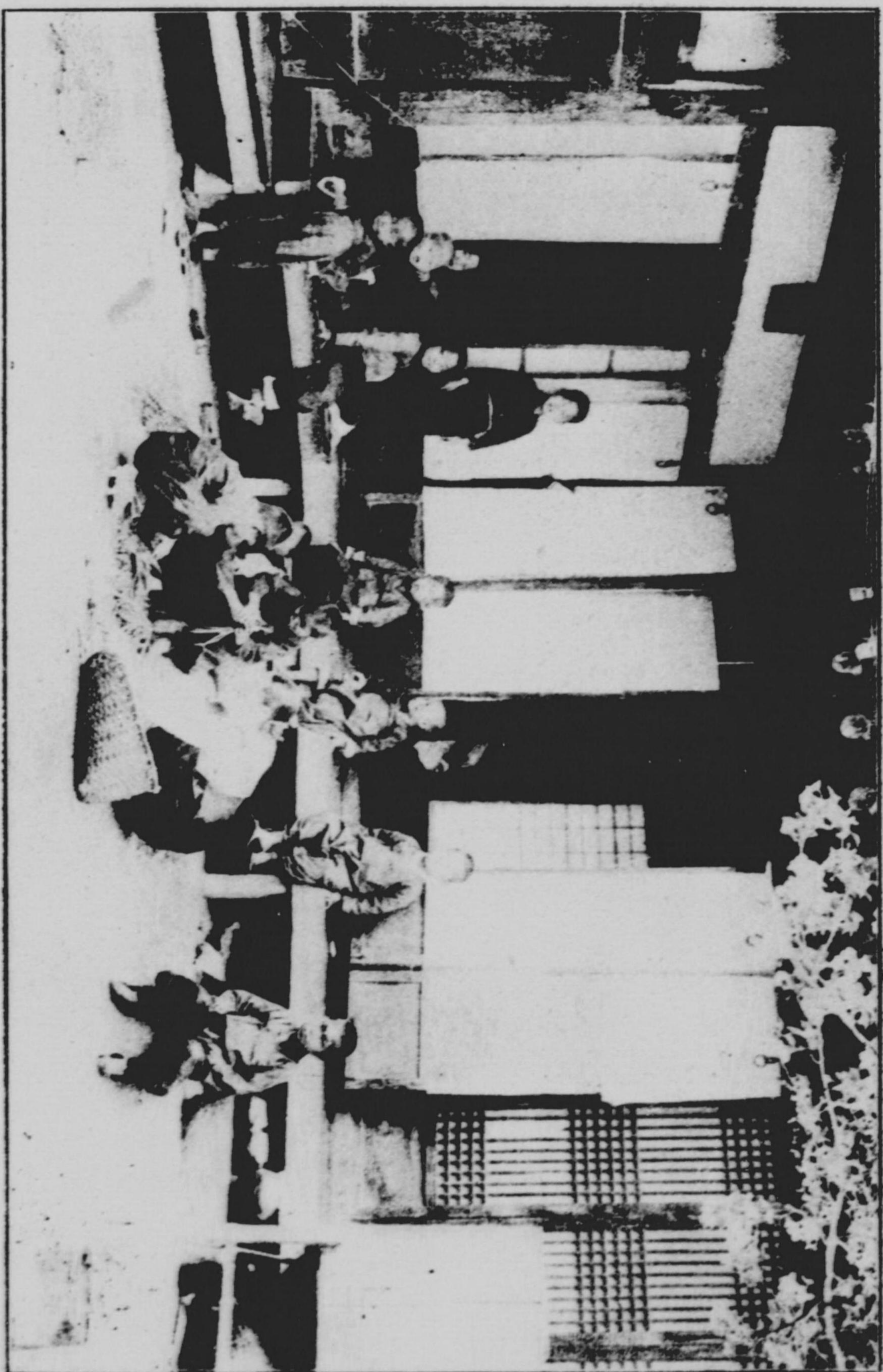
習實田水場農院生濟



濟生院農場の全景



濟生院盲部生洋服裁縫



濟生院養育部兒宿舍

凡例

- 一、本書は朝鮮に於ける各種社會事業團體に就き其の所在地沿革組織及維持の方法並事業の概況を記述したるものなり
- 一、本書は大正十三年十月發行したる朝鮮社會事業要覽につき補正を加へたるものなり
- 一、本書編纂の順序は各種事業別に從て列記せり
- 一、附録として朝鮮に於ける救濟制度の沿革を掲記せり

昭和二年七月

朝鮮總督府内務局社會課

目 録

第一章 社會事業連絡研究機關

朝鮮社會事業研究會

..... 一頁

京畿道社會事業調查委員會

..... 三

慶北社會事業研究會

..... 三

第二章 社會事業經營助成機關

サルタレル財團

..... 四

韓鎭達財團

..... 五

第三章 防貧事業

第一項 委員制度

大邱府町内組合

..... 六

平壤府人事相談所

..... 八

第二項 隣保事業

和光教園……………一三
 財團保隣會……………一五
 財團朝鮮扶殖農園隣保事業部……………一七

第三項 人事相談

京城府人事相談所……………一八
 和光教園相談部……………二〇
 仁川婦人人事相談所……………二〇
 釜山府人事相談職業紹介所……………二一
 釜山府人事相談所(私設)……………二一
 群山私立人事相談所……………二二
 平壤府人事相談所……………二三
 元山府人事相談所……………二三
 咸興面人事相談所……………二四

清津府人事相談所……………二四

第四項 公設市場

京城府明治町公設市場……………二五
 京城府龍山公設市場……………二六
 京城府花園町公設市場……………二七
 京城府瑞麟洞公設柴炭蔬菜市場……………二八
 京城府安國洞公設市場……………二九
 京城府敦義洞公設市場……………二九
 京城府東大門公設市場……………三〇
 群山府公設市場……………三〇
 全州面公設市場……………三一
 大邱府公設市場……………三二
 釜山府富平町公設市場……………三四
 釜山府南濱公設市場……………三五

馬山府富町公設市場	三五
馬山府扇町公設市場	三六
平壤府壽町公設市場	三七
平壤府幸町公設市場	三八
平壤府司倉公設市場	三九
元山府公設市場	三九
清津府公設市場	四〇

第五項 公設浴場、公設理髮場及公設洗濯場

仁川府共同洗濯場	四一
群山府公設浴場	四二
群山府公設理髮場	四三
群山府公設洗濯場	四四
木浦府公設洗濯場	四五
大邱府公設洗濯場	四五

東萊面公衆浴場(溫泉)	四六
朝鮮鐵道局公益浴場(溫泉)	四七
鎮海面公設浴場	四八
統營面共同洗濯場	四九
蓮井面公益浴場(溫泉)	四九
平壤府公設浴場	五〇
中和面公益浴場	五一
新義州府公設共同洗濯場	五三
義州面公設浴場	五四
義州面共同洗濯場	五六
江陵公設浴場	五六
沙月洞共同浴場	五七

第六項 簡易食堂

大邱府公設市場附設簡易食堂	五八
---------------	----

釜山府共同食堂(職業紹介所附設).....五八

第七項 公益質屋

全州公益質屋.....五九

群山府公益質屋.....六〇

光州公益質屋.....六一

第八項 公設住宅

京城府漢江通公設住宅.....六二

京城府蓬萊町公設小住宅.....六三

京城府黃金町公設小住宅.....六四

京城府橋北洞勞働住宅(私設).....六五

公州面公設住宅.....六五

木浦府公設住宅.....六七

大邱府公設住宅.....六七

海州面公設住宅.....六八
清津府公設住宅.....七〇
釜山府營住宅.....七〇

第九項 宿泊救護

和光教園勞働宿泊所.....七三

仁川府公設共同宿泊所.....七四

釜山勞働共濟會.....七四

平壤府公設宿泊所.....七四

第十項 職業紹介

京城府人事相談所內職業紹介所.....七六

和光教園紹介部.....七六

仁川府職業紹介所.....七六

仁川基督教青年會職業紹介所.....七七

社會奉仕會……………七七

釜山府職業紹介所……………七八

釜山勞働共濟會……………七九

平壤府職業紹介所……………八一

第十一項 授 産

鐵道局授産部……………八三

第四章 兒童保護事業

第一項 兒童相談所

第二項 感化教育

朝鮮總督府永興學校……………八六

官川孤兒院……………九一

第三項 孤貧兒の養育

朝鮮總督府濟生院養育部……………九二

財團法人鎌倉保育園京城支部……………九四

和光教園學園部……………九六

救世軍育兒ホーム……………九六

天主教會孤兒院……………九七

財團法人京城保育院……………九九

天主堂附屬孤兒院……………一〇四

公州救濟院……………一〇五

孤兒及貧困者收容所……………一〇六

瑞山孤兒救濟會……………一〇七

金堤救濟院……………一〇七

財團法人朝鮮扶植農園……………一〇九

天主教教修女院附設女子孤兒院……………一二

慶北救濟會……………一三三

晋州佛教婦人會……………一一五

財團日本育兒院平壤支部……………一一六

平壤孤兒救濟會……………一一八

愛國婦人會春川支部……………一一九

第四項 徒弟又は勞働者の教育

和光教園夜學部……………一二〇

向上會館……………一二〇

昌寧勞働夜學會……………一二二

馬山福壽寺夜學會……………一二二

安息致會附屬義明學校……………一二三

第五章 特殊教育事業

嶺南心眼共濟院……………一二四

朝鮮總督府濟生院盲啞部……………一二五

平壤盲啞學校……………一二七

朝鮮盲啞協會……………一二八

第六章 施藥救療事業

朝鮮總督府醫院……………一三〇

道慈惠醫院及道立醫院……………一三四

官立及道立醫院の貧民施療……………一三九

公 醫……………一三九

道地方費の救療事業……………一四〇

日本赤十字社朝鮮本部……………一四一

京城佛教慈濟會……………一四七

贊化病院施療部……………一四八

セブランス病院施療部……………一四九

仁川府施療所……………一五〇

愛人病院	一五〇
蘇民醫院	一五一
群山耶蘇教病院	一五二
美國長老教濟衆院	一五三
大邱回生病院	一五五
晉州培敦病院	一五七
海州救世病院	一五八
載寧濟衆院	一五八
平壤聯合基督病院	一五九
平壤救活院	一六〇
順安安息教會附屬順安病院	一六一
東洋合同鑛業會社附屬病院	一六二
私立宣川美東病院	一六四
原州瑞美監病院	一六六
元山府救世病院	一六七

咸興濟惠病院	一六八
光州濟衆病院(癩病患者收容所)	一六九
小鹿島慈惠醫院(癩病患者療養)	一七〇
大邱癩病院	一七一
癩病隔離院	一七二

第七章 窮民救助事業

第一項 窮民救助

恩賜賑恤資金	一七四
仁川慈善會	一七四
仁川朝鮮人慈善會	一七五
窮民救濟所	一七五
林川窮民救濟會	一七六
求禮弘濟院	一七七

釜山慈養教社	一七七
馬山婦人慈惠會	一七八
北三面救濟會	一七九
京城佛教慈濟會行旅病人救護所	一八〇
仁川佛教悲田院	一八〇
清州博仁會(行旅病人救護)	一八一
大田佛教慈濟會(行旅病人救護)	一八二
全州矯風會(行旅病人救護)	一八二
群山行旅病人收容所	一八三
順天面失業青年共濟會	一八四
大邱行旅病人救護所	一八四
晉州行旅病人收容所	一八五
平壤廣濟會(行旅病人救護)	一八六
鎮南浦行旅病人救護所	一八七
春川行旅病人救護所	一八七

元山行旅病人救護所	一八八
清津行旅病人救護所	一八九
羅南行旅病人救護所	一九〇

第二項 罹災救助

恩賜罹災救助基金	一九一
各道に於ける臨時恩賜金凶歉救濟費	一九一

第三項 養老

宣川養老院	一九二
平壤養老院	一九三

第八章 出獄人保護事業

京城救護會	一九四
開城大成會	一九五

忠北有隣會	一九五
公州慣業院	一九七
大田自彊會	一九八
全州有終會	一九九
群山誠之會	二〇〇
光州有隣會	二〇一
木浦成美會	二〇一
大邱常成會	二〇二
安東辛酉會	二〇五
金泉尙善會	二〇六
晉州扶掖館	二〇七
釜山輔成會	二〇八
馬山保護會	二〇九
海州濟美會	二〇九
瑞興保全會	二一〇

平壤保護會	二一〇
鎮南浦獎善院	二一一
平北保護會	二一七
春川保護會	二一九
咸興博仁會	二二三
元山保護會	二二三
清津免囚保護會	二二三

第九章 社會教化事業

本府の社會教化事業	二二五
道地方費の社會教化事業	二二六
京城府立圖書館	二二七
鐵道圖書館	二二七
仁川府立圖書館	二二九
大邱府立圖書館	二三〇

第十章 雜

愛國婦人會朝鮮本部……………三三一

附錄

第一章 社會事業連絡研究機關

◎朝鮮社會事業研究會

所在地 京城府廳内

設立 大正十年四月十一日

沿革 本會は朝鮮に於ける社會事業の連絡並之が改善發達に關し調査研究を試み社會事業に對する一般人心の作興振起を圖る目的を以て社會事業關係者及斯業に興味を有する官民百餘名主唱の下に設立したるものにして最初事務所を京城府南山町日本赤十字社朝鮮本部の構内に置きしが大正十年六月京城府廳内に移轉したり。

組織 會員組織にして別に會長を設けず幹事制度を以て運用機關とす現在會員數特別會員三十四名普通會員二百四名計二百三十八名あり。

維持 會費及官廳の補助金並篤志者の寄附金を以て維持す昭和二年度の經費豫算五千三百四十四圓なり。

事業 本會設立以來の事業狀況を示せば左の如し

- (イ) 例會及講演會の開催 毎月一回例會(必要ある場合は別に臨時會)を開催し社會事業に

關する意見を交換し又は研究の結果を發表し或は名士を聘して講演會を開催す創立以來會を重ねること三十餘回に及べり。

(ロ) 雑誌の發刊 大正十二年五月より毎月一回機關雜誌を發行し會員、全道、府並斯業團體に配布しつゝあり。

(ハ) 人事救護 人事救護費として毎月二十圓宛を京城府人事相談所に委託し窮困者の救護を圖りつゝあり大正十五年度に於ける救護人員六十餘名なり。

(ニ) 孤兒慰安會 大正十一年四月に孤兒四百餘名を仁川月尾島に、十二年五月昌德宮秘苑に、十三年四月獎忠壇に、十四年 月 に、十五年 月 に於て孤兒の慰安會を開催せり。

(ホ) 社會事業講習會 大正十一年九月内務省、朝鮮總督府、滿鐵會社其の他より斯界の名士を招聘して講師となし京城府天然洞向上會館に於て第一回社會事業講習會を開催したるが全鮮各地よりの出者席二百餘名に上れり。

(ヘ) 朝鮮人青年内地視察團 大正十二年三月朝鮮人青年有力者三十二名を以て内地視察團を組織し往復二十六日間を費し九州地方に於ける優良農村及青年團體並文化的施設を視察せしめ朝鮮人青年の指導啓發に資したり。

(ト) 大正十三年七月に生江孝之氏を大正十五年に戸田帝大教授を招聘し社會事業講演會を

開催せり。

◎京畿道社會事業調査委員會

所在地 京畿道廳内

設立 大正十年十二月一日

沿革 京畿道管内に於ける社會事業の振興を圖らむが爲京畿道廳員の發議に依り設立したるものなり。

組織 京畿道廳職員中より委員を定め内務部長之が委員長たり。

維持 前記の如き組織なるを以て別に維持費を要せず。

事業 隨時開會し京畿道管内に於ける社會事業に關する調査研究を爲し又民間有志者に臨時調査委員を囑託し毎年一回特別會を開き斯業に關する調査研究を爲しつゝあり。

◎慶北社會事業研究會

所在地 慶尙北道地方課内

設立 昭和二年二月十一日

沿革 社會事業を研究し並社會事業關係者相互の親睦を圖り以て斯業の改良發達に資せむ爲社會事

業獎勵金御下賜恒例日たる紀元の佳節をトし慶北海道内社會事業關係十九團體の代表者等會合協議の上本會を設立せり。

組織及維持 慶尙北道社會事業關係者たる正會員及本會の趣旨を賛し加入の篤志者たる賛助員を以て組織す本會は右會員會費(毎月二十錢)を以て維持す。

- 事業
- (1) 隔月一回例會を開き社會事業に關する談話を交換し又は研究調査の發表を爲すこと。
 - (2) 社會事業に關する知識の普及並獎勵援助を爲すこと。
 - (3) 其他理事會に於て必要と認めたる事業。

第二章 社會事業經營助成機關

◎サルタレル財團

所在地 朝鮮總督府内務局社會課内

設立 大正五年六月十九日

沿革 佛人「マリー、エリザベー、デジレー、サルタレル」は亡兄「ビエル、マリー、サルタレル」の遺志に依り内地及朝鮮に於ける慈善教育等博愛事業を目的とする財團法人を設立する爲大正四年以後平安北道昌城鑛山に於て有する鑛業權の存續期間内毎年同鑛山より生ずる純益中

「マリー、エリザベー、デジレー、サルタレル」が收得すべき權利を有する金額の百分の六十の半額を出捐することとし其の委任に依り寄附行爲を定め財團法人の設立を見るに至れり。

組織 財團法人なり 役員として理事一名監事二名主事二名及評議員四名あり理事及監事は朝鮮總督之れを選任し評議員は朝鮮總督の承認を受け理事之を囑託する規定なり。

維持 本財團の維持經營は基本財産より生ずる利子及寄附金其他の收入を以て之に充つ。

事業 内地及朝鮮に於ける慈善救済教育及感化に關する事業を助成し來れり。
大正十五年度支出したる金額は五千八百圓にして助成せられたる事業團體は二十四箇所に及びたり。

◎韓 鎮 達 財 團

所在地 京城府光化門通一番地

設立 大正十一年六月十三日

沿革 朝鮮内に於て防貧、救貧及教化に關する社會事業を行ひ又は之を助成する目的を以て韓鎮達の設立したるものなり。

組織 財團法人にして役員として理事二名監事四名主事三名評議員若干名を置く。

維持 財團の維持費は基本財産より生ずる利子及一般寄附金を以て支辨す。
事業 未だ事業に着手するに至らず。

六

第三章 防貧事業

第一項 委員制度

◎大邱府町組合

所在地 慶尙北道大邱府

設立 内地人組合は大正十年五月中鮮人組合は大正十一年九月中編成完了

沿革 大邱府なる人格者は府の自己の分子たる各町の自治的發達を期し各町たる分子は一面府の補助機關として府行政の發達を期すると共に町内に於ける防貧及窮民救助事業を兼攝せんとするの必要上之が組織を見るに至りたるものなり。

組織 一箇町若くは數箇町聯合し又は一箇町内數組合に分ち若くは一箇町内内鮮合同のものど分立のものどありて各町内住民を以て組織せられ各組合に總代、副總代、會計、委員等の役員を置く
維持 本組合の經費は各組合員の負擔となすを原則とする處なるも組合の事業役員配置等の狀況に

依つて各町區々になり全然經費を要せざる向もあり又は僅少の經費なるときは總代の自辨を以て維持せるが如き或は有志の寄附に依り或は組合基本財産の収益より支出せるもの等ありて各町毎に異なれり然れども多くは毎月町費として各戸より等級に應じて徴收し之れに依り維持せるもの最も多し。

事業 本組合は事業の大要を大略左の標準に依りて遂行することに制定せり（町内規約準則第五條 抜萃）。

- 一 祝祭其ノ他町内共同シテ執行スヘキ事項ノ指揮及傳達
- 二 法令告示等ノ周知ニ關スル事項
- 三 種痘其ノ他傳染病豫防及一般衛生並保健ニ關スル府事務ノ補助
- 四 町内街路溝渠ノ改修其ノ他土木ニ關スル府事務ノ補助
- 五 町内窮民及其ノ救濟ニ關スル調査
- 六 町内住民ノ移動ニ關スル調査
- 七 町内住民ノ親睦、矯風、勤儉及納税ノ獎勵
- 八 町内ノ施設ニ關シ必要ナル事項ニ付キ官憲ニ對スル意見若クハ希望ノ提出

七

◎平壤府人事相談所

所在地 平壤府廳内

設立 大正九年六月四日

沿革

本所は大阪府方面委員制度に則り設置したるものにして府内を數區に分ち各區に委員長一名委員若干名書記一名を配置し中央部(平壤府廳内)に主任者を置き各區を統一指導す最初府内を八區に分ちしも大正十一年四月以來四區に集約し更に同十二年四月より二區に集約せり。

組織

平壤府の經營する所にして専ら内務課社會係に於て取扱ひつゝあり。

維持

平壤府費を以て維持經營す。

事業

本所設立以來に於ける事業の概況を示せば左の如し

處理事項

年次	件別							計
	人事上	生活上	商業上	労働上	法律上	其他		
大正九年	100	42	34	22	1	1	200	
大正十年	92	24	55	72	1	1	245	
大正十一年	54	59	20	27	14	100	264	

年次	件別							計
	居住移住届	出生死亡届	就籍轉居届	婚姻離婚届	戶籍謄本下附訂正願	手紙其他		
大正十二年	45	5	2	30	3	101	253	
大正十三年	82	40	1	58	8	43	250	
大正十四年	101	22	3	55	1	6	288	
大正十五年	24	12	10	33	1	40	211	

戶籍取扱件數

年次	件別							計
	居住移住届	出生死亡届	就籍轉居届	婚姻離婚届	戶籍謄本下附訂正願	手紙其他		
大正九年	236	19	155	16	48	2	585	
大正十年	501	233	76	54	210	576	1,650	
大正十一年	326	133	44	33	337	556	1,417	
大正十二年	130	83	27	29	208	272	788	
大正十三年	64	7	15	7	25	16	158	
大正十四年	59	67	9	3	159	167	468	
大正十五年	56	43	2	2	123	16	353	

細民調査及救助

年次	種別及戶口		種別		細民恩賜被救恤金	府費による被救助者
	第一種	第二種	戶數	人員		
大正九年	48	273	1	1	1	55
大正十年	26	345	1	1	1	55
大正十一年	26	345	1	1	1	55
大正十二年	26	345	1	1	1	55
大正十三年	26	345	1	1	1	55
大正十四年	26	345	1	1	1	55
大正十五年	26	345	1	1	1	55

大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	大正十五年
四	五七	九三	一〇三	一五七	一五四
二六	一四六	三三二	三九三	四七五	四六七
七九八	四九一	一〇〇	二五三	三五	五七
三、三六三	一、五八	五三	六四	九七	一、五九一
五	五	二	二四	八	八
五	七	一三	二九	一〇	九
七、三六〇	三三、〇六〇	三三、三八〇	二六、三九〇	二六、四九六	二六、二八〇
二七	三	二七	二九	三五	二九
五	六	四	三〇	三五	二九
一八四、〇〇〇	一九四、〇〇〇	八六、四〇〇	一九六、〇〇〇	二〇五、〇〇〇	二九五、〇〇〇

一〇

第一條 人事相談所ノ設置區域ヲ左ノ通り定ム

第一區 箕林里、慶上里、倉田里、上需里、鏡濟里、薛岩里、新倉里、釵貫里、里門里、

新陽里、大察里、巡營里、履鄉里、館後里、竹典里、鹽店里、真香里、衙廳里、景昌里、

上水口里、下水口里、將別里、鷄里、陸路里、磚九里、水玉里

第二區 巖町、南山町、南門町、山手町、泉町、旭町、大和町、壽町、港町、濱町、賑町、

櫻町、本町、黄金町、柳町、橋口町、若松町、紅梅町、竹園町、西町、東町、南町、幸

町、八千代町

第二條 人事相談所ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ町里内有志者中ヨリ府尹之ヲ囑託ス

第三條 人事相談所ハ府廳内ニ係員一名ヲ置キ相談ニ應ズ

第四條 人事相談所ハ區域内ノ狀況ヲ詳ニシ大凡左ノ調査及實行スルモノトス

一 區域内ノ一般的生活状態ヲ調査シ之カ改善向上ノ方法ヲ攻究スルコト

二 生活困難又ハ救護ヲ要スト認ムルモノハ先ツ其原因ヲ調査シテ其原因ヲ除去シ若クハ

其救濟方法ヲ攻究シ之カ徹底ニ努ムルコト

三 生計職業紹介其他各般ノ人事關係ニ付相談ヲ乞フ

四 諸届出ノ屬行ニ注意シ其届書ハ無料ニテ作成スルコト

五 區域内ノ勸業、教育、衛生、風紀等ニ注意シ殊ニ年少者ニ對シテハ格段ノ視察ヲ加フ

ルコト

第五條 人事相談所ノ調査攻究ニ依ル事業ノ實施ハ主トシテ公共團體公益法人等ハ篤志者ノ

施設ニ俟ツモノトス

第六條 人事相談所ハ其ノ事業ノ遂行ニ資スル爲メ關係アル官衙學校並公私團體、醫師、宗

教家等ト常ニ密接ナル聯絡ヲ保持スヘシ

第七條 人事相談所ニ於ケル事務ノ聯絡統一ヲ圖ル爲各人事相談所委員長聯合會ヲ開ク

聯合會ハ各人事相談所委員長ヲ以テ組織シ毎月第二金曜日午後四時ヨリ府廳ニ於テ之ヲ開

催ス

第八條 各區ニ於テハ毎月一回以上委員會ヲ開催ス

委員會ハ委員長及委員ヲ以テ組織シ區内ニ於ケル事業ノ實施並ニカ發展ニ關シテ協議スルモノトス

第九條 人事相談所従事員ハ所定ノ徽章ヲ帶用ス

平壤府人事相談所執務規程

第一條 委員長ハ毎日一定時間事務所ニ出勤シ諸般ノ指揮ヲ爲スヘシ

第二條 委員ハ可成時々事務所ニ出勤シ委員長ヲ補佐スヘシ

第三條 委員長事故アルトキハ其指名シタル委員之ヲ代理ス

第四條 書記ハ委員長及委員ノ指揮監督ヲ受ケ一切ノ執務ヲ爲スヘシ執務ハ敏速正確ヲ期スヘシ

第五條 書記ハ人事相談所ノ事業ノ性質ニ鑑ミ凡テ懇切ヲ旨トシ溫和同情ヲ以テ執務ニ従事シ苟モ輕卒粗漏ノ行爲アルヘカラス

第六條 書記ノ執務ハ多ク他人ノ身上ニ關スル事項ナルヲ以テ一切秘密ヲ旨トスヘシ

第七條 書記ハ事務所ヲ管理シ備品及書類等保管ノ責ニ任スヘシ

第八條 書記ハ疾病其ノ他ノ事由ニヨリ缺勤セムトスルトキハ當日出勤時間前ニ其旨委員長

ニ届出ツヘシ

第九條 書記ハ日曜祭日等ノ休日ト雖モ事務ノ都合ニヨリ執務スヘシ

第十條 書記辭任ノ際ハ一切ノ事務ヲ後任者又ハ委員長ノ指名シタルモノニ引繼ヲ爲スヘシ

第二項 隣保事業

(隣保事業、貧兒教育、徒弟教育、勞働宿泊、人事相談、職業紹介、簡易食堂、細民調査等)

◎和光教園

所在地 本部、京城府觀水洞一〇二番地

支部、京城府鍾路通三丁目二七番地

設立 大正九年十二月二十五日

沿革 大正二年三月淨土宗開教院が現在本園の本部たる京城府觀水洞一〇二番地の土地二百六十坪及四間に八間の三階建校舎を購入して淨土宗教友會を組織したるが本園の濫觴にして次で青年夜學會、日曜子供會等を開始せり

大正九年六月に至り觀水洞の外に鍾路通三丁目二七番地官有建物及土地を借入れ茲に勞働宿泊所を開始し荻野順導を擧げて園の主事たらしめ篤志家福永政次郎と相圖り現在に於ける和光教園の組織を完成するに至れり。

組織 個人經營設立者は京城本町三丁目淨土宗開教院住職久家慈光なるも園一切の業務は主事荻野
順導に依りて行はれつゝあり。

維持 一般寄附金、官廳補助金を以て維持經營するも主たる維持出資は京城南大門通福永政次郎の
醸金する所なり而して昭和二年度の經費豫算五萬一千二百十八圓なり。

事業 學園部

- (イ) 和光學校 貧兒並不就學兒童を收容し之に普通教育を授けつゝあるが現在兒童數五百
二十名ありて男子部女子部に分ち十一學級に編制し十五名の教員教養に従事し居れり。
- (ロ) 實習夜學校 晝間労働其の他の職業を有し就學し得ざる青年男女に補習教育を施しつ
ゝあるが現在二學級に分ち二十二名を收容し居れり。

教化部

- (イ) 和光教會 佛教の教義に基き一般民の教化に努め居れるが大正十五年度會員四百五十
名延人員二千八百八十二名ありたり。
 - (ロ) 和光日曜學校 毎日曜日に兒童を集め訓話、お伽話、遊戲、唱歌等を授け教化に努め
つゝあり、大正十五年度實人員一千十名延人員四千九百九十一名なり。
- 廉賣部 廉價供給事業の一助として現在は學用品一切の需に應じつゝあり。

調査部 隣保事業に關する資料を得るため附近細民の生活状態を調査しつゝあり。

労働宿泊部 無宿の労働男子に限り一泊五錢を徴して宿泊せしむ所内に浴場を設けて隔日に
入浴せしめ且つ労働具を備付けて之を貸與する等相當の保護法を講じ又慰安を與ふる爲に
は時々活動寫眞、蓄音器會等を開催し尙新聞雜誌の回覽、修身訓話等をなし宿泊者の修養
を圖りつゝあるが一日平均百名の宿泊者あり。

職業紹介部 初め宿泊者に對してのみ職業の紹介を爲したるが大正十一年七月専務事務員を
置き一般の紹介を開始せり毎月受付件數百餘に達し内約半數を就職せしめつゝあり。

相談部 人事百般の相談に應じつゝあるが就中民籍手續、代書代辨、衣食住に關する事項最
も多く毎月處理數二百件以上に達す。

食堂部 初め宿泊者中事情窮迫せる者に對し事務所に於て給食せしも大正十一年十二月簡易
食堂を設けて一食十三錢朝夕二回二十五錢を以て一般労働者に供給し居れり。

理髮部 宿泊人及學園兒童に對して無料利用せしめつゝあり。

◎財團法人保隣會

(兒童保護、隣保事
業、住宅救濟等)

所在地 京城府樂園洞百八十九番地

設立 大正十一年十二月二十三日

沿革 本會は大正十年四月侯爵朴泳孝、金宗漢、金周容外十八名の發起に依りて住宅難の救済を目的として住宅救済會を組織し京城府橋北洞に一戸二間より成る簡易住宅七十五戸を建設して下層民の住宅難を緩和し來りたるが更に隣保事業及兒童保護事業を經營することとし大正十一年十二月二十三日組織を變更して財團法人と爲し以て今日に及べり。

組織 財團法人にして現在役員は理事五名監事三名評議員若干名なり。

理事長朴泳孝、理事李覺鍾、金一善、金教聲、徐光前、監事劉文煥、金漢睦、洪斗憲

維持 釀金及寄附金並家賃を以て維持經營す。

昭和元年十二月末日現在資産

堡一千百十六坪 價格 約六千圓

建物 同 約一萬五千圓

事業 本會の現に經營し又は近く經營せむとする事業左の如し

一 細民部落の隣保事業

- (イ) 普通學校に入學し得ざる兒童のために書堂を開設して簡易なる教育を施す。
- (ロ) 右書堂を中心として無料代書、部落民懇親會を開催して衛生職業慰安等の方面より部落の改善を期す。

落の改善を期す。

二 兒童保護

- (イ) 分娩、育兒に關する迷信惡風の矯風
 - (ロ) 兒童虐待の防止
- 以上は専ら宣傳に依り之を行ふ。

三 住宅難の救済

- (イ) 簡易住宅を建設して住宅難に苦しめる貧困者を收容す。
- (ロ) 簡易住宅は低廉なる賃料を徴收して家屋の維持修繕其の他附隨事業費に充つ。

◎朝鮮扶殖農園隣保事業部

財團法人朝鮮扶殖農園は從來育兒事業に努めつゝありしが大正十一年一月評議員會の決議に依り本法人寄附行爲の目的に隣保事業として夜學、施藥、人事相談、副業獎勵を追加し現在夜間附近の鮮童に普通學科を教授しつゝあり(人員四十二名)尙本園に於ては地方の中堅となるべき解顔面青年會を組織せしめ本園より田一反歩畑一反歩の無料貸附を行ひ農事改良副業獎勵風俗改善を計らしめつゝあり。

第三項 人事相談

◎京城府人事相談所

所在地 京城府明治町

設立 大正十一年八月一日

沿革 一般民衆の人事上の相談に應じ且職業の紹介等を爲す目的を以て設営したるものにして設置以來些したる變遷なくして今日に及べり。

組織 京城府の經營にして主幹、府書記及囑託各一名並雇員四名を置き事務を處理しつゝあり。

維持 府費を以て維持經營す。

事業 人事相談部、職業紹介部、住宅紹介部、副業紹介部、結婚紹介部の五部に分ち處理しつゝあるが大正十五年中の成績左の如し。

第一表

人事相談成績 (十五年自一月三十一日)

種別	内地人		朝鮮人		計
	男	女	男	女	
人事上	三	五	一	二	六
生活上	四	五	一	二	六
商業上	四	一	一	一	六
労働上	一	二	二	三	六
法律上	三	一	六	二	六
其他	三	一	一	一	六
計	一六	一三	四	三	三六

其他 結婚紹介三八件 住宅紹介一三二件

第二表

職業紹介成績表 (昭和元年中) 京城府人事相談所

職業名	求人		就職		就業	
	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人
工業及鑛業	三五	一	七一	一	一〇	一
土木建築	一五	三	五五	一	八	二
商店	四〇	一	四五	二	九	七
農林業	四	一	二	一	二	二
通信運輸	一五	三	四	一	三	一
計	一〇九	六	一四一	六	二〇	一三

戸内使用人	五	四三	四七六	二八七一、〇七四一、三六一	八九	二五三	三四二	四一五	一、二〇一、五五	三三	一四二	一六四	二七四	八九三	一、一六六
雜業	一八七	五三	二四〇	三三七	二四	三六一	三六二	五七	四三九	七五	一一	七六	二五	八七	二五
合計	七二	五五一、二四七一、九三六	一、二六〇三、〇九六	一、二二三	三三五	一、四四七五、五三一、一七五	六六八八	二二三	一七三	三六六一、四〇七	九三三	二、三三〇			

京城府人事相談所設置規程

- 第一條 府ニ人事相談所ヲ置ク
- 第二條 本所ニ主幹ヲ置キ府書記ヲ以テ之ニ充ツ
- 第三條 主幹ハ府尹ノ命ヲ受ケ所務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮ス
- 第四條 所務ノ處理ニ關シテハ所又ハ主幹ノ名ヲ以テ照會往復ヲ爲スコトヲ得
- 第五條 本所ニ評議員若干名ヲ置ク
- 第六條 評議員ハ學識經驗アル者ヨリ府尹之レヲ囑託ス
- 第七條 評議員ハ本所ノ事業ヲ援助シ又ハ諮問ニ應スルモノトス

◎和光教園相談部 (第三章防貧事業の第二項隣保事業和光教園の項に收録す)

◎仁川婦人人事相談所

所在地 京畿道仁川府山手町一丁目メソヂスト教會内

設立 大正十年十月十七日

沿革 大正十年六月中貧困無職の婦人救護の目的を以て基督教婦人矮風會仁川支部主唱の下に設立したものなり。

組織 會員組織。

維持 篤志者よりの寄附を以て維持經營す。

事業 貧困無職の婦人を救護し且つ之に對し職業の紹介を爲しつゝあり。

◎釜山府人事相談職業紹介所 (本章第十項職業紹介の項に收録す)

◎釜山府人事相談所

所在地 釜山府寶水町一丁目百三十二番地ノ三

設立 大正十二年八月四日

沿革 一般民衆の身上相談其他個人的關係より生ずる諸種の紛争解決其他簡單なる諸届書の代書を爲し以て一般の利便を計る爲釜山府職業紹介所に附設經營せり。

組織 釜山府の經營管理に屬し府吏員二名雇一名を置き職業紹介所事務と兼ね處理せしめつゝあり。

維持 地方費補助金と府の一般歳入を以て維持す。
 事業 大正十五年一月より昭和元年十二月に至る一箇年間の事業成績左の如し。

人事相談件数(種別)表

種別	内地人		朝鮮人		外国人		合計
	男	女	男	女	男	女	
人事上	三	六	一	五	一	三	三
生活上	二	一	一	一	一	二	二
商業上	二	一	一	一	一	二	二
労働上	一	一	一	一	一	一	一
法律上	一	一	一	一	一	一	一
其他	二	二	一	二	一	四	四
計	二	九	一	九	一	四	元

◎群山私立人事相談所

所在地 群山府全州通四六妙心寺布教所内

設立 大正十一年十一月一日

沿革 妙心寺布教擔任者に於て開設し布教所の建物内に於て取扱ふ。

組織 布教擔任者大紫磨無禪専ら事務を處理す。

維持 特志家の寄附金及布教所員の托鉢收入を以て維持し前年度の歳出經費三百九十二圓四十錢とす。

事業 人事相談職業紹介を主とし無料宿泊、診療費給與、施藥等を爲す本年度実績左の如し。

人事相談	職業紹介	無料宿泊	診療費給與	施藥	其他
七人	一五人	五人	一人	一人	一人

◎平壤府人事相談所

(第三章防貧事業の第一項委員制度)
 (平壤府人事相談所の項に收録す)

◎元山府人事相談所

所在地 咸鏡南道元山府春日町元山府廳内

設立 大正十一年四月二十一日

沿革 大正十一年四月五日道訓令人事相談事務取扱規程に基き設立せるものにして一般民衆の人事

上の相談及職業上の紹介を爲す目的を以て設營今日に至れり。

組織 元山府の經營にして府尹掌理し外に主任一名係員若干名を以て事務を處理しつゝあり。

維持 一般府費を以て維持經營す。

事業 職業紹介人事上の相談居住上の紹介を爲しつゝあり開所以來大正十五年中に於ける取扱數五十件なり。

◎咸興面人事相談所

所在地 咸鏡南道咸興郡咸興面東陽里咸興面事務所

設立 大正十一年四月二十一日

沿革 大正十一年四月五日道訓令人事相談事務取扱規程に依り設立

組織 咸興面の經營にして面長掌理し外に主任一名係員若干名を以て事務を處理しつゝあり。

維持 一般面費を以て維持經營す。

事業 開所以來大正十五年三月末に於ける取扱數三件なり。

◎清津府人事相談所

所在地 咸鏡北道清津府敷島町清津府廳内

設立 大正十二年四月一日

沿革 從來當地有隣會の事業として經營しつゝありしを大正十二年四月府の經營に移したるものなり。

組織 府の管理に屬し府尹は所長として事務を總理し外に事務員一名を置き庶務を處理せしむ。

維持 府費を以て維持經營す。

事業 無料にて一般民衆の人事上の相談並職業の紹介を爲しつゝあるが大正十五年中に取扱たる件數六件あり。

(附記)人事相談所に關する特設のものは前述に過ぎざるも全道に於ける警察官署の多くは何れも警察官をして人事其他の事項を取扱はしめ居れり。

第四項 公設市場

◎京城府明治町公設市場

(日用食料)
(品廉賣)

所在地 京城府明治町二丁目二十五番地

設立 大正八年十二月二十四日

沿革 異常に昂騰せる日用食糧品及其他必需品の價格の調節を計り低廉なる日用品を供給し以て一

般市民の生活安定を圖らむがために設立したるものなり。

組織 京城府の經營する所にして府廳に市場監督一名を常置し各市場の管理に任せしめ監視員を
(二市場毎に一名)配置し専ら市場販賣品に對する價格の指定及清潔狀況を監視せしめ尙ほ卸
價格及市中の小賣價格の調査に當らしむることゝ爲せり。

維持 市場使用料及府費を以て維持經營す大正十四年度支出經費八千九百三十三圓なり。

事業 現在敷地五百坪を有し店舗數十七戸(建坪百三坪)にして生活必需品を供給しつゝあるが利用
者多く昭和元年度に於ける賣上高四十五萬九千三百六十五圓を算す。

公設市場設置當時は諸物價騰貴の際なりしを以て一般市價と市場販賣價格とは三割以上の差
を示したるも其の後市價は市場相場に牽制せられ漸次低落して接近するに至れり茲に於て市
内の小賣商人は商策を弄し一部商品を犠牲に供して廉賣を試み市場に對抗したるも何等市民
に反響する所なきを以て遂に此の種のもの中止し今日に於ては市場價格は常に市價の標準
を示すに至れり。

◎京城府龍山公設市場

(日用食料
品廉賣)

所在地 京城府漢江通三番地

設立 大正十一年十月十二日

沿革 大正九年九月京城府京町十一番地に場屋を設け廉賣に努めたるも其の位置適當ならざりし爲
同十一年九月二十五日限り之を閉鎖し同年十月十二日現在の場所に新築移轉したるものにし
て専ら物價の調節に當り居たるも大正十二年十一月二十一日類焼に遭ひ施設物全部を焼失せ
り仍て之が再興を計り同年十二月十二日より開場今日に至る。

組織 京城府の經營する所にして市場に監視員を配置し市場内の整理監督に當らしめ居れり。

維持 市場使用料及府費を以て維持經營す。

事業 大正十五年度に於ける賣上高は十七萬二千三十六圓にして現在事務所一戸店舗數十五戸(建
坪百一坪)市場坪數は二百八坪なり。

◎京城府花園町公設市場

(日用食料
品廉賣)

所在地 京城府花園町百七番地

設立 大正九年十月二十一日

沿革 物價を調節し低廉なる日用品を一般市民に供給する爲めに設立せるものなり。

組織 京城府の經營する所にして市場監視員を置き専ら市場販賣品に對する價格の指定清潔法を監

維持 視せしめ又は卸價格及市中の小賣價格の調査に當らしむることゝ爲せり。

事業 市場使用料及府費を以て維持經營す。
大正十五年度に於ける賣上高は二十四萬一千七百七十六圓にして店舗數十四戸（建坪七十五坪）市場坪數二百九十一坪あり。

◎京城府瑞麟洞公設柴炭蔬菜市場

所在地 京城府瑞麟洞四二ノ一

設立年月 大正十四年九月二十四日

設備ノ狀 敷地八百二十四坪、仲价人控所煉瓦建三坪あり。

大正十四年度に於ける事業の狀況

物價調節の趣旨に基き低廉なる燃料及蔬菜を一般市民に供給し尙路傍販賣を制止し市場に於て販賣する目的にて仲价人十四名を置き賣買の仲价をなさしめ常に吏員を派して監督せしむ因に大正十四年の賣上高二七、五一六圓なり。

大正十五年度事業及豫算

事業としては前年と異なることなし、豫算は明治町市場經費參照。

◎京城府安國洞公設市場

(薪炭 廉賣)

所在地 京城府安國洞三十七番地

設立 大正九年五月七日

沿革 低廉なる薪炭等の燃料を一般市民に供給する目的を以て設立せるものなり。

組織 京城府の經營する所にして市場に監視員を配置し之れが管理に當らしめ居れり。

維持 市場使用料及府費を以て維持經營す。

事業 大正十五年度に於ける賣上高は一萬八千三百三十九圓にして市場坪數六百四十九坪あり。

◎京城府敦義洞公設市場

(薪炭 廉賣)

所在地 京城府敦義洞百三番地

設立 大正九年十二月二十七日

沿革 物價調節の趣旨に基き低廉なる燃料を一般市民に供給するために設立せり。

組織 京城府の經營する所にして市場に監視員を配置し市場内の整理監督に當らしめつゝあり。

維持 市場使用料及府費を以て維持經營す。

事業 昭和元年度に於ける賣上高は三萬三千九百七十七圓にして市場坪數七百二十坪あり。

三〇

◎京城府東大門公設市場 (蔬菜廉賣)

所在地 京城府鍾路通五丁目一〇四番地

設立 大正十二年六月一日

沿革 低廉なる蔬菜を一般市民に供給する目的を以て設立したるものなり。

組織 京城府營にして市場に監視員を配置し場内の整理監督に當らしむ。

維持 市場使用料及府費を以て維持經營す。

事業 昭和元年度に於ける賣上高四萬二千二百九十八圓にして市場敷地百二十七坪なり。

◎群山府公設市場 (日用品廉賣)

所在地 全羅北道群山府明治町通

設立 大正十年九月一日

沿革 物價を調節し低廉なる日用品を供給して市民の生活安定を期するために設立す。

組織 群山府の直營。

維持 建物維持の爲め要する費用は府費を以て支辨し其の他は使用者に於て支出す大正十五年度の豫算は歲出金五十圓とす。

事業 府は販賣品及其の價格を指定し販賣人總代を定め總代より毎月の販賣高を報告せしめ府職員毎月一回以上各店舗の販賣狀況に付視察して適宜の指導監督を爲せり大體に於て一般市價に比し一、二割方安價なるを以て中流以下に於て利用者多し店舗數八戸にして總建坪數七十五坪なり大正十五年中の賣上高八萬一千二百十圓とす。

◎全州面公設市場 (日用品廉賣)

所在地 全羅北道全州郡全州面大正町三丁目

設立 大正十二年四月十六日

沿革 低廉なる日用品を販賣し市内物價を調節せしむる目的を以て設立せるものなり。

組織 全州面營。

維持 面費を以て維持するも小破修繕等は販賣人に於て之を爲す。

事業 店舗を九戸に區劃し建坪六十坪を有す販賣人に無料貸付し販賣物品及其の價格は面長の承認を受けしめ時々面職員をして視察監督を爲さしむ大體に於て市價に比し一、二割安價なるを

以て中流以下の利用多く大正十五年中賣上高七萬四千一圓とす。

◎大邱府公設市場 (日用品 廉賣)

所在地 慶尙北道大邱府東門町十三番地ノ一

設立 大正九年九月一日

沿革 歐洲大戰後一般物價騰貴の影響を受け大邱府に於ける物價は京釜線中最も高價を示し市民の生活を脅威すること大なりしより之が調節策として道地方費補助七千圓に府費二千圓を加へ合計九千圓を以て本市場を設置せるものなり。

組織 大正九年七月二十日大邱府條例第十二號公設市場條例の下に組織經營す今其條例の要旨を摘取せば

本場ハ公衆ニ對シ日用必需品ヲ廉價ニ供給スル目的ヲ以テ設立ス、販賣スル商品ノ種類及販賣者ハ府尹之ヲ指定ス、商品ノ價格ハ府尹ノ承認ヲ受クヘキコト、商品ノ價格ハ見易キ箇所ニ揭示スルコト、販賣ハ凡テ現金取扱ノコト、府尹ハ必要ト認メタルトキハ販賣ノ指定ヲ取消スコトヲ得ルコト等にあり。

維持 府費を以て維持す。

大正十三年度豫算左の如し。

公設市場費	一、九五九圓
敷地賃借費	五五六・五〇
監督員給	一、〇二〇・〇〇
臨時人夫賃	一一二・〇〇
電燈料	一四八・五〇
慰勞金	一〇二・〇〇
修繕費	一〇〇・〇〇
雜費	二〇・〇〇

事業 本市場は木造百二坪の平屋建にして場内に十四店舗あり府より信用ある商人を指定し販賣せしめつゝあるが賣品はあらゆる日常必需品を網羅し居れり而して是等商人よりは水道料、營業稅、店舗の賃賃、共用電燈料等を徴收せず凡て府費より支辨する代り各店の販賣價格は府吏員をして監督せしめ可成低廉に販賣せしめつゝあり、販賣高は一日五、六百圓を上下し大正十二年度賣上高は二十二萬圓に達せり本市場開設以來市内商人は之れと對抗上自然薄利にて販賣せざるを得ざるに至り物價索制上多大の効果を現はしつゝあるのみならず道内に於け

る標準相場として廣く採用せられつゝあり。

◎釜山府富平町公設市場

(日用品
廉賣)

所在地 慶尙南道釜山府富平町二丁目七十七番地

設立 大正四年九月

沿革 明治四十三年六月中一般市場として開設したる日韓市場及本市場の前身にして大正四年九月府營に移し設備其の他に改善を加へ大正十一年市場周囲の道路六百四十一坪を市場區域内に編入し大正十三年更に百二十一坪を増加し大正十五年是等路面をコンクリートに改め上屋の改修又は増築をなし屋外店舗には全部一定の販賣員を設くる等面目を一新せり。

組織 釜山府の經營にして府條例を以て市場管理規則を定め専任府書記一名事務員二名を置き事務の任に當らしむ。

維持 市場使用料を徴收して維持す。

事業 當市場は市場用地として一千二百九十七坪を有し内建坪三百十一坪にして店舗數屋内百二十二屋外三百計四百二十二を有し一般府民の利用頗る多く市場出入者一日平均七千人賣上高平均一日六千圓内外に達す。

◎釜山府南濱公設市場

所在地 釜山府本町一丁目^{二九}番地_{四七}

設立 大正十三年八月二十五日

沿革 民有地百六十五坪及木造瓦葺二階建百三十一坪餘を料金年額五千七百九十圓にて賃借し充當せり。

組織 釜山府の經營とす。

維持 使用料を徴し其の收入を以て維持す。

事業 當市場は店舗總數百六十八を有し開設日尙淺きも一日の入場者一千三百人内外にして賣上高平均一日一千三百六十圓内外とす。

◎馬山府富町公設市場

所在地 馬山府富町(舊馬山)

設立 大正十三年九月一日

沿革 舊馬山市場は韓國併合前より朝鮮人商人陰曆五、十の日に集合し道路の兩側に店を張り市日

には殆ど交通を杜絶する状態に在りしを以て府營となすの必要を認め從來の市場の中心點を包含し敷地二千二百二十八坪を買收し之に平家住宅附百二十六坪を建築し内方に上屋九十四坪を設け路傍の賣店を收容し面目一新するに至れり。

組織 馬山府の經營とす。

維持 本市場は大正十二年に於て府債四萬圓を起し之を經營せるものにして償還財源並維持費は使

事業 當市場の賣上高一日平均六百有餘圓にして陰曆五、十の市日の賣上は三千圓を下らず。

◎馬山府扇町公設市場

所在地 慶尙南道馬山府扇町

設立 大正十二年十二月二十五日

沿革 本市場は大正十二年釜山に於て開催せられたる水産共進會建物の一部を買收し此の材料を以て本館八十一坪を建築せるものにして外に賣店二十五坪スレート葺平屋建一棟と合し經費三千九百餘圓を費し開場するに至れり。

組織 馬山府營。

維持 府費による。

事業 店舗數五十七を有し市場價格は一般市價に比し約二割安なるを以て利用すもの多し。

◎平壤府壽町公設市場

(日用品 廉賣)

所在地 平安南道平壤府壽町三十三番地

設立 大正九年四月一日

沿革 物價の暴騰は一般府住民の生活を脅威し其の安定を失はしめむとする狀況を呈せるを以て日常必需品の供給を低廉ならしむべく大正九年度に於て府内壽町外二箇所に公設市場を設置せり。

組織 平壤府の直營にして府内務課勸業及社會事業係に屬し府廳内に專任事務員を置き市場取締及物價の調査に任じ府廳内に市場係主任を置き各市場の事務監督に當らしむ。

維持 府費を以て維持經營す大正十五年度豫算二千六百九十五圓。

事業 公設市場に於ては一般市價に比し平均一割乃至二割方低廉なるを以て一般小賣市場亦相當低落し府住民の蒙る利益尠からず殊に穀類の如き從來當府は全道に於て常に高價を唱へつゝありしに現在は低落を見るに至れり。

市場販賣人の指定に就ては可成生産者又は卸商人を指定する方針を採り販賣品に付ては同市場に於て同一種類のものに二店舗或はそれ以上を指定し可成獨占的營業を避け居れり。市場指定人に與へたる特點として府の營業税を免除し内地より輸入する貨物に對しては鐵道當局と交渉の上運賃の割引を爲すこと等にして市場に於ける廉賣を容易ならしむ。市場を利用することの不便なる町里に對しては毎月六回巡回市場を開くことあり。店舗數十六戸にして大正十四年一月より昭和元年十二月までの賣上高は十二萬三千五百八十八圓二十八錢なり。

◎平壤府幸町公設市場 (日用品 廉賣)

所在地 平安南道平壤府(幸町三八番地 南町三九番地)
 設立 大正九年十月三十一日
 沿革 日常必需品の供給を低廉ならしめ府内住民の生活安定を期する爲に設立せり。
 組織 壽町公設市場に同じ。
 維持 壽町公設市場に同じ。
 事業 店舗數は十三戸にして大正十四年一月より昭和元年十二月まで賣上高は九萬四百六十七圓三十五錢を算す其他は壽町公設市場に同じ。

◎平壤府司倉公設市場 (日用品 廉賣)

所在地 平安南道平壤府倉田里二百四十三番地
 設立 大正九年七月二十二日
 沿革 物價を調節し低廉なる日用品を府内住民に供給するため設立せり。
 組織 壽町公設市場に同じ。
 事業 店舗數二十四戸にして大正十四年一月より昭和元年十二月までの賣上高は十五萬六千九百五十八圓八十五錢に達せり。
 本市場に於ては巡回市場を行はず其他壽町公設市場に同じ。

◎元山府公設市場

所在地 咸鏡南道元山府壽町一丁目七番地
 設立 大正十二年二月二十一日
 沿革 物價調節の趣旨に基き低廉なる日用品を供給して一般府民の生活安定を期するために設立せ

り。

組織 元山府の經營にして府尹之を管理し公設市場商人は府尹の指定したる商人にして販賣物品は
公定相場により現金引換とし監督員を置きて監督せしむ。

維持

場屋、水道、電話、間燈、中央照明電燈を府に於て設備し電燈料金は府費を以て支辨し店舗
一箇所付月五圓敷地一坪に付月一圓五十錢乃至二圓の使用料を徴收す大正十五年度豫算七
百九十九圓なり。

事業

開設以來一般小賣相場を牽制して低下せしめ府在民の市場利用者漸次増加す店舗十七箇所に
して昭和元年末に於ける賣上高六九、四〇二圓なり。

◎清津府公設市場

所在地 咸鏡北道清津府敷島町

設立 大正十一年十二月

沿革

物價調節消費節約獎勵の目的に於て府營日用品の公設市場設置の切要なるを認め大正十一年
十一月市場用家屋を建築し同年十二月開場せり。

組織

府の經營管理に屬す。

維持

店舗一戸に付月額七圓以内の使用料を徴し市場に關する調査費建物保存費其他所要經費に
充當することとせり。

事業

市場店舗十六戸にして使用者は出願者中最も確實にして信用ある營業者を府に於て充分調査
選定の上認可し公定賣價を以て販賣せしめ係吏員を置きて之が取締を爲し市價の秩序を保ち
其の効果を擧ぐるに努めつゝ、あり實施後日淺しと雖も成績良好にして毎月相當の賣揚あり大
正十五年中賣上高五六、六四九圓商品種類は野菜、生魚、食料品、和洋雜貨、酒類、荒物、
薪炭、履物、米穀類なり。

第五項 公設浴場、公設理髮場及公設洗濯場

◎仁川府公同洗濯場

所在地 仁川府龍岡町一番地

設立 大正十一年四月一日

沿革

府民の洗濯上の便宜と衛生上の必要よりして在來井戸を利用して本施設を設けたるものな
り。

組織維持及 仁川府の管理に属し府費を以て維持す。
 事業 在來井戸を利用し之を中心として七十五坪の水溜を拵く其の周圍に長さ二尺、幅一尺五寸、厚さ六寸の洗濯石十五箇を置き一時に十五名を入れ得る設備を爲しあるが盛に朝鮮婦人間に利用されつゝあり。

◎群山府公設浴場

所在地 全羅北道群山府榮町

設立 大正十二年一月二十九日

沿革 始め群山府に於て經費三千八百圓を以て木造瓦葺平屋(建坪二十六坪)を建設し備人二名を常置し入浴料大人三錢小人二錢を徴收し直營せしが其の後設備の完成と共に浴客漸く増加し自足し得るに至れるを以て大正十三年度より府内湯屋組合をして従來の料金にて經營せしむるに至れり。

組織維持及 湯屋組合の管理に属し入浴料金を以て維持す。

事業 位置の關係上比較的朝鮮人労働者間に利用多し。

大正十五年度の成績左の如く、入浴料収入金千九百十八圓とす。

内地人	朝鮮人	計	一日平均入浴者
二三、九一〇人	五二、〇〇四人	七五、九一四人	二〇七人

◎群山府公設理髮場

所在地 全羅北道群山府榮町

設立 大正十二年一月二十九日

組織維持及 群山府公設浴場に附設し府内理髮營業組合に於て人選せる従業者に對し建物を無料使用せしめ水道料及營業税を免じ府の指定せる料金にて營業せしむ。
 事業 内鮮人間の顧客甚だ多く従業者三名にて忙殺されつゝあり。
 大正十五年度事業狀況及理髮料金左の如し。

事業狀況

理髮人員	一日平均	収入額	支出額
一〇、六八一 ^人	二九 ^人	二、八〇〇・〇〇 ^円	二、四〇〇・〇〇 ^円

ハイカラ刈	丸	刈	額	剃	小	供	丸	刈
三五 ²⁴		二〇 ²⁴		一五 ²⁴				一〇 ²⁴

◎群山府公設洗濯場

所在地 全羅北道群山府明治町通錦町大井洞

設立 大正十年七月

沿革 在來存したる四箇所の井戸に對し府に於て經費三百圓を投じて置石を据ゑる周圍は「セメント」の叩にし洗濯場を設置し更に大正十一年九月經費三百二十餘圓を投じて模範的洗濯場を新設せり。

組織 群山府廳の管理に屬す。

維持 府費を以て經營す。

事業 從來府内に適當なる洗濯場なかりしを以て公設洗濯場の設置は朝鮮人婦女子間の歡迎する所となり盛に利用せられつゝあり。

◎木浦府公設洗濯場

所在地 全羅南道木浦府

設立 大正十一年十月八日(南橋洞) 同十一月二十五日(溫錦洞)

沿革 從來府内に洗濯所の設備なく汚水溜又は水道栓等にて洗濯するの状態にて衛生上より見るも將た水道濫用の弊を矯むる上より見るも其の洗濯場の設置は必要缺くべからざる社會的施設と認めたるを以て大正十一年度に於て經費千七百七十餘圓を投じ二箇所を設置せり。

組織 木浦府廳の管理に屬す。

維持 府費を以て經營す。

事業 開設以來朝鮮人婦女子間に盛に利用せられつゝあり。

◎大邱府公設洗濯場

所在地 慶尙北道大邱府内市場北通(府有地) 德山町(民有地)二箇所に在り。

設立 大正十年三月(府内市場北通洗濯場)

大正十二年三月(府内德山町洗濯場)

沿革 大邱府内市街地整理の結果従来鮮人間に於て洗濯場所として使用しつゝありし箇所は多く溝渠に變じ鮮人側の不便少なからざると又従來の如く汚水溜にて洗濯するは極めて不衛生的なれば府の社會的施設として鮮人住民の多き方面に公設洗濯場を設置せしに使用者遠近より來集し成績良好なるを以て其の後更に一箇所を増設せしものなり。

組織 何れも府の直營にして常に監理人（副業的）一名宛を配置し朝夕の清掃其他取締に従事せしむ。

維持 府費を以て經營す大正十五年度豫算總額八百四十三圓なり。

事業 市場北通に最初設置せしものは長十三間幅二間のコンクリート製にして用水は水道の外河流を引き込み利用せしも設計不完全にして用水の疏通良好ならず汚水停滯の缺點あるに鑑み徳山町に増設せしものは設計に注意を拂ひ用水は電氣モーターを利用して井水を汲み上げ絶へず清水を供給する設計となしたれば水量豊富清潔にして洗濯場として理想的なり。

◎東萊面公衆浴場

所在地 慶尙南道東萊郡東萊面温泉里

設立 大正十一年十月二十七日

沿革 従來の浴場は釜山領事館時代朝鮮式建築物に多少の改造を加へたるに過ぎざるものにて之を個人に貸與し請負經營を爲さしめしが大正十一年十月二十七日より面經營に移し道地方費より補助金三千圓及面費九千餘圓計一萬二千餘圓を投じて新築せり。

組織 面營とす。

維持 普通入浴料一人一回三錢小人一錢家族湯四十分の使用料十五錢を徴收し以て維持經營の資に充て舊浴場に入浴するものは無料とす。

事業 面營に移してより入浴者年と共に増加し大正十四年度に於ては十萬八千人同十五年は十二萬を突破せり加之大正十五年に於て浴舎に大修繕を加へ鐵道局の承認を得て温泉の分譲を得たれば湯量豊富となりしにより一層浴客の増加を見るに至り大正十五年一月より十二月に至る入浴料金收入高三千三百四十七圓に達し一般民衆の利用狀況最良好なり。

◎朝鮮鐵道局東萊公益浴場（温泉）

所在地 慶尙南道東萊郡東萊面温泉里

設立 大正十年九月一日

沿革 元釜山瓦斯電氣株式會社の所有なりしも大正十一年九月南滿洲鐵道株式會社に於て之を買收

し大正十四年四月より朝鮮鐵道局の管理となる。

組織 朝鮮鐵道局の直營とす。

維持 入浴料を以て維持經營す。

事業 開設以來施設の完備と共に漸次浴客増加し一日平均三百人を算せり。

◎鎮海面公設浴場

所在地 昌原郡鎮海面慶和洞

設立 大正十四年一月二十一日

沿革 本浴場所在地は鎮海市街を距る東方約一里戸數六百の密集團地にして完全なる浴場の設備無く一般民衆の最も不便とせる所なりしを以て大正十三年面營浴場の設置を企劃し道地方費より三千圓の補助を受け面費一千五百三十餘圓を支出し總工費四千五百餘圓を以て建坪二十六坪餘の建築をなし大正十四年一月より開始するに至れり。

組織 面營にして浴場擔當者を定め實務に當らしむ。

維持 浴場擔當者より毎月納付金を徴し之に充つ。

事業 入浴料大人四錢小人二錢學生二錢と定め入浴日は現在にては隔日(奇數日)及市日とし大正十

五年中に於ける入浴者總數は二萬一千一百三十八人内朝鮮人利用者八割を占め一般民衆の利便頗る大なり。

◎統營面共同洗濯場

所在地 慶尙南道統營郡統營面大和町 一箇所

同 朝日町 一箇所

設立 大正十三年三月二十七日

沿革 當港には從來適當の洗濯場所なく鮮人婦女子は下水溝にて用を便じ又は遠く野外に出づるの外已む無き状態なりしが大正十三年二月經費千二百圓を投じ内八百圓を地方費補助四百圓は面費を以て充當し大和町、朝日町の二箇所を設置せり。

組織 面經營にして監理人一名を配置し取締に従事せしむ。

維持 面費を以て維持す。

事業 一般婦女子間の歡迎を受け利用者一日平均二百人を下らず。

◎蓮井面公益浴場 (温泉)

所在地 黄海道松禾郡蓮井面温水里百六十三番地
 設立及沿革 距今三百七十年前温泉を發見し其の後數年間洗濯場として使用し來りしが洞民井を穿ち茅屋を造りて沐浴場と爲したり爾來浴場附近に住宅を建設するものあり隨て隣郡各附近より集る浴客も漸次増加したるを以て附近より寄附金を募集し瓦葺の浴場を建設し今日に及びたり。

組織 從來は浴場は洞民の共同監理なりしが目下浴場改築の必要に迫られ之を組合組織とし資金を借入れ改築の計畫中なり。

維持 従前は温税と稱し入浴料を徴したるも浴場の修繕等を爲すに過ぎざりき組合組織後も借入金
 の償還に充つる爲入浴料を徴収するものとす。

事業 從來は殆ど自然の發達に委し特に社會的施設として見るに足るべきもなく設備不完全なりし爲附近隣の浴客を吸收するに過ぎざりしが本年中には改築工事も落成すべき豫定なるを以て相當其の效果を見るを得べしと信ず。

◎平壤府公設浴場

所在地 平安南道平壤府鷄里百三十六番地
 設立 大正十年一月十日

沿革 一般市内の入浴料は當時大人一人八錢朝鮮人經營のものにありては一人九錢にして一般下層生活を營むものによりては入浴を爲すもの極めて少數なる狀況なりしなり府に於ては一般衛生上の觀念を向上せしむる目的を以て公設浴場を設置し入浴料は大人四錢子供二錢とし大正十年一月十五日より開場せり。

組織 平壤府廳の管理に屬す。

維持 大正十三年四月一日以來營業を民間に委託す受託者は建物使用料として毎月三十圓を府に納付す營業に必要な物品、消耗品は受託者の負擔とし營業に依る収入は受託者の収入とす。
 事業 開設以來の事業成績左の如し。

年次	入浴人員	入浴料金
大正十三年	七五、〇一八	二、六七四・五〇〇
大正十四年	七三、一六二	二、六五〇・一四〇
大正十五年	九五、三六六	二、六六六・六四〇

◎中和面公益浴場

所在地 平安南道中和郡中和面樂民里

設立
沿革及
事業

大正十年十二月七日

中和邑内は戸數六百有餘人口三千餘人を有する大市場なるに從來浴場の設置なく邑民は常に之が設置を希望せしも湯屋營業に經驗を有する者なかりし爲容易に經營を企てず懸案に附せられ居たりしが逐年向上し來りたる衛生思想は遂に浴場設置の緊急なるを叫ぶに至り邑民全般の欲望となり一部に於ては面營を建議する者すら出づるに至れり面は正當なる時世の要求に應ずる爲之が設置を企圖せむとしたるも面營は面制の許さざる所なるを以て個人經營者を勸誘し適當なる希望者を得たるも浴場建設當初の費用多額を要するを以て獨力起業の困難なる事情を訴へ最初の建設費に對し一部の補助を願出たり因て面は精査の結果補助の必要を認め其の筋の認可を得條件を附し金七百圓を補助し浴場を建設せしめ大正十年十二月七日開業現に繼續中に在り而して今之が設置内容を示せば左の如し。

中和面補助浴場設備概要

- 一所 在 中和郡中和面樂民里
- 二 敷地面積 二百五十坪
- 三 建物の構造 日本式木造瓦葺平家建
- 四 建物總坪數 三十五坪

内譯

浴場 十六坪 (男の部八坪、女の部八坪)

焚場 六坪

經營者住宅 十三坪

内譯

- 五 建築費 二千五百圓
- 面費補助額 金七百圓
- 經營者投資額 金千八百圓
- 六 經營者住所氏名 中和郡中和面樂民里 加藤 小作
- 七 大正十五年度入浴人員並料金 七千五百人 四百三十一圓十錢
- 八 大正十五年度經費 二百五十圓

◎新義州府公設共同洗濯場

所在地 平安北道新義州府老松町
設立 大正十年六月二十日

沿革 朝鮮に於ては今仍概ね白衣を用ふるが故に朝鮮婦人の家庭用務の一半は洗濯のために費すの風あり河川池沼に近きものは往きて之を爲す者あるも然らざる者にありては不潔なる水溜或は細流の汚水等にて洗濯を行ひ衛生及風紀上より見て改善を要するものあるを以て新義州府に於ては工費千二百餘圓を投じ約三十人を收容し得べき洗濯場を設け朝鮮婦人の洗濯の爲に之を開放し以て一般朝鮮人間に於ける生活改善の一助と爲したり。

組織 新義州府の管理に屬す。

維持 府費を以て維持經營す。

事業 日に二百餘名の利用者あり。

◎義州面公設浴場

所在地 義州郡義州面西部洞一三三番地

設立 大正十二年六月一日

沿革及組織 當地は人口約一萬以上を有する市街地なるに衛生上最も必要なる浴場は民營一箇所あるのみなるを以て之を遺憾とし大正十二年義州面に於て社會事業として設置せるものなり。

維持 最近一箇年間の收支豫算額は歳入出共大正十四年度に於ては一、八七二圓にして之が維持方

法としては毎年度面豫算に經費を計上しあるも直營にては收支相償はざるを以て個人請負と爲し居れり。

事業 常用の番人及火夫各一名を置き且備品の備付其の他の設備をなし毎日午後三時より同十時迄の七時間一般の使用に供しつゝ居れり。

開設以來の成績

年度、別	區分	人員	一回料金	料金總額	備考
大正十二年度	大 小 洗 人 人	二五、一〇〇 一、七〇〇	〇・〇五〇 〇・〇七〇	一、三三・七	
大正十三年度	大 小 洗 人 人	二〇、〇〇〇 二、四〇〇	〇・〇五〇 〇・〇七〇	一、五九・〇	
大正十四年度	大 小 洗 人 人	二四、五〇〇 一、九八〇	〇・〇五〇 〇・〇七〇	一、八四・四	
大正十五年度	大 小 洗 人 人	三三、〇五〇 一、九〇〇	〇・〇五〇 〇・〇七〇	一、七六・八	
計				六、三六・三	

◎義州面共同洗濯場

所在地 義州郡義州面西部洞一三三番地

設立 大正十二年二月十一日

沿革及
組織 社會事業の一として義州面に於て設置せるものなり。

維持

本洗濯場には貯水所、釜、洗濯用石板等を設備し其の圍を「セメンコンクリート」にて堅めたるものにして工費千三百圓を投じ新設せしものなれば大なる破損なく尙萬一の場合を豫想し其の修理費として義州面豫算に毎年相當經費を計上し來れり、而して使用者に於ては曹達、薪、割木等を各自持參のことにし其の用水は同面に於て無料供給をなしつゝあり。

事業

洗濯用水は井の水を汲み上げ貯水し使用する爲常に用水不足を訴へ居るのみならず其の水質亦洗濯に不適當なるを以て面民より大なる歡迎を受け居らざるも將來は水道水を引用し設置の目的を徹底したき希望なり。

◎江陵公設浴場

所在地 江原道江陵郡江陵面本町

設立 大正十二年三月十七日

沿革 個人經營のものを買收して修理を加へ設備を完全にす。

組織 面經營。

維持 面費と一回大人六錢、小人三錢宛の入浴料の徴收を以て經營す。

事業 大正十二年四月十七日より開業以後月々相當の利益を得且一般の便利多く毎日入浴者平均百人に達する好成績なり。

◎沙月洞共同浴場

所在地 慶山郡南山面沙月洞

設立 大正十二年十一月

管理者名 安東祚、朴在汝

經費及
維持 燃料其の他雜費は入浴者の共同負擔とし浴場修繕は當該洞民の共同負擔とす。

事業

大正十五年入浴者表

種別	延年入浴者數	入浴者平均數	収入入浴高料	備考
朝鮮人 男 女	一〇九五 五五	一 五 三人	—	洞内二箇所を設置せり一は安東 一は村在汝管理せり

第六項 簡易食堂

◎大邱府公設市場附設簡易食堂

所在地 慶尙北道大邱府東門町十三番地ノ一
 設立 大正九年九月一日
 沿革 中流以下の府住民に簡易に食事を供給し生活の便に資せむがため開始せり。
 組織 大邱公設市場内に附設經營す。
 事業 規模小なること府の東部に偏在する不便により一部の需用に應ずるに過ぎず。

◎釜山府共同食堂 (職業紹介所附設)

所在地 慶尙南道釜山府寶水町一丁目一三二番地
 設立 大正十二年十一月二十五日
 沿革 職業紹介の附帶事業として失職者下級労働者の便益を計らんがため釜山府職業紹介所に附設せるものなり。
 組織 釜山府直營。
 維持 一般府費を以て維持經營す。
 事業 開設以來一般民衆の利用者多く定食料金(朝食十五錢晝、晚各十七錢)にして一般に歡迎せられ一日平均七、八十人の攝食者あり。

第七項 公益質屋

◎全州公益質屋

所在地 全羅北道全州郡全州面大正町三丁目
 設立 大正九年十月十五日
 組織及維持 道地方費臨時恩賜金三千圓を無利子を以て經營者に貸付け營業者は此の資金及自己の出資を

以て營業し道の指定する條件に隨ひ其の貸出に關する制限は一人に付貸付限度金二十圓以下とし利率は月二十圓迄三步十圓迄四歩とし流失期限を三箇月とす。

指定經營者 李 致 仲

事業 主として中流以下の階級に利用せられつゝあり。

大正十五年中に於ける成績左の如し。

入 質		受 質		流 質		入質に對する流質歩合	
件數	金額	件數	金額	件數	金額	件數	金額
二、六五九	七、七〇、一五〇	一、九七七	六、三三〇、〇〇〇	一〇	五、〇〇〇	・〇〇四	・〇〇八

◎群山府公益質屋

所在地 全羅北道群山府明治町通五十一番地

設立 大正九年十二月二十一日

組織及維持

道地方費臨時恩賜金四千圓を無利息にて經營者に貸付け經營者はこの資金及自己の出資を以て營業し道の指定する條件に隨て經營するものとす貸出限度金額十圓にして利子月四歩以下

とし流質期限を三箇月とす。

指定經營者 茶野 兪 次郎

事業 中流以下の階級に利用せられ相當の成績を收めつゝあり。

大正十五年度に於ける成績

入 質		受 質		流 質		入質に對する流質歩合	
件數	金額	件數	金額	件數	金額	件數	金額
八、六五七	二、七三、二六〇	五、八五三	一、四、三六、〇〇〇	六二七	一、二六五、九〇〇	・〇七三	・〇九

◎光州公益質屋 (全羅南道指定質屋)

所在地 全羅南道光州郡光州面須寄屋町三百九十八番地

設立 大正十一年九月

沿革 下級生活者の爲め低利資金の融通に使せむがため大正十一年度地方費より其の資金として五千圓を貸付し光州郡光州面錦町朱賀永をして之を經營せしむることとし大正十一年九月十三日業務を開始せしめ同十四年十一月須寄屋洪承杓に對し經營せしめたり。

組織 道地方費より資金五千圓を前記朱賀永に三箇年間の期限を以て無利息にて貸付し相當條件の

下に之を經營せしむるものとす。

而して其の貸出資金は一口二十圓以下とし利子は所在地に於ける一般質屋業者の定むる利率の半額以下流質期限は六箇月（普通質屋は三箇月）とし以て下級生活者の生活安定の一助たらしめむとす。

維持 經營に要する費用は一切業務者の負擔とす。

事業 業務開始以來細民は低利資金の融通に少なからず利便を得つゝあり今業務開始以來昭和元年

十二月末日迄の成績を見るに貸出件數七千三百六十件貸出金額三萬九千六百三十二圓餘回收件數五千四百四十五件回收金額二萬九千六百九十九圓餘現在貸出件數一千三百六十四件貸出金額九千八百六十圓とし此の間利子收入三千二百四十七圓とす。

第八項 公設住宅（營利を目的とせざる私營住宅を含む）

◎京城府漢江通公設住宅

所在地 京城府漢江通三番地

設立 大正十年八月十四日

沿革 大正九年以來中流以下の市民は住宅難に伴ふ家賃昂騰の爲に生活に支障を及ぼし中には改築

又は地上權等の關係上家主より明渡の要求に遇ひ又市區改正學校建築に依り毀され其の住居に苦しみ或は全家族下宿を爲し或は知人の家に同居し其の困窮絶頂に達し悲惨なる状態を呈せり是の状況に乘じ不正家主或は思惑者に於ては此機會に暴利を得んが爲新に貸家を建築して一疊に對し二圓五十錢乃至三圓の高率なる家賃を徴し借家人の不利益は甚しき状態を呈するに至れり依て京城府に於ては住宅難を緩和し以て一般府民の生活の安定を得せしめんが爲め特に困難を感じつゝある中流以下の爲に大正十年八月十四日漢江通に三十六戸三坂通に四戸の家屋を新築したり入宅申込者多數にして其の選定に困難を感じたる結果一定の入宅資格標準に基き直ちに入宅せしめたり爾來府民一般に歡迎され空家を生じたることなく現在に至れり。

維持 府費を以て維持す昭和二年度に於ける住宅經營費は各地の住宅を併せ二千五百二十二圓なり

◎京城府蓬萊町公設小住宅

所在地 京城府蓬萊町四丁目百四十八番地

設立 大正十年十月二十五日

沿革 住宅不足により困難せる一般朝鮮人勞働者の爲に建設したるものにして大正十年十月竣工二

十八戸あり本住宅は温突式にして朝鮮人の居住に便ならしめ尙長屋内の衛生入退者及び破損箇所の報告等一般の管理を爲すために管理人一人を常置す本長屋完成と同時に入宅希望者多数にして非常に歓迎せられ現在に至るも空家を生じたることなく良成績を収め府内の住宅難を幾分たりとも緩和しつゝある状況にあり。

維持 府費を以て維持經營す。

◎京城府黄金町公設小住宅

所在地 京城府黄金町六丁目

設立 大正十年十二月二十四日

沿革 住宅不足により困難せる一般朝鮮人労働者の爲に大正十年十月六十戸を建築せり本住宅は温突式にして朝鮮人の便宜に供し尙長屋内の衛生入退及び破損箇所の報告等一般の管理を爲すために管理人二人を常置して居住の便宜を圖りつゝあり。

本長屋完成と同時に入宅希望者多数にして非常に歓迎せられ現在に至るも空家を生じたることなく良成績を収め府内の住宅難を幾分たりとも緩和しつゝある状況にあり。

維持 府費を以て維持す。

◎京城府橋北洞労働住宅 (私設)

所在地 京城府橋北洞四番地ノ一

設立 大正十一年十二月二十三日

沿革 本會は京城に於ける住宅難の爲めに路頭に迷へる貧窮者を救済する目的を以て大正十年四月中侯爵朴泳孝、金周容、金宗漢等の主唱に依りて設立せられたるものにして大正十一年十月二十三日組織を變更して財団法人保隣會と改稱し從來の住宅難救済の外隣保事業及兒童保護事業をも經營することゝ爲せり。

組織 財団法人にして役員は理事五名、監事三名、理事長朴泳孝、理事李覺鍾、金一善、金教聲、徐光前、監事劉文煥、金漢睦、洪斗憲。

維持 篤志家の寄附、會員贖出金並住宅より収入を以て維持經營す。

事業 京城府橋北洞四番地ノ一に敷地一千百十六坪を得大正十一年八月朝鮮建瓦葺百六十二間内住宅七十五戸(二戸二間)及附屬舍十二間を建設し之に事情最も窮迫せる貧困者を收容せり。

◎公州公設住宅

所在地 忠清南道公州郡公州面錦町
 設立 大正十一年十一月二十五日
 沿革 住宅難緩和のため建設したるものにして特に沿革として記述すべき事項なし。
 組織 公州面の管理に属す。
 維持 建築資金五萬圓は之を殖産銀行公州支店より十五箇年賦償還年利八分五厘にて借入れ家賃収入を以て償却し管理費亦該収入を以て支辨するものとす。
 事業 開設の當初は水道其他の設備整はざりし爲空家若干を存したるも大正十四年再び家賃値下と共に諸設備整ひたるを以て普く利用さるゝに至れり。
 棟數及居住者戸口左の如し。

區分	棟數、戸數	家賃定額	居住者	
			戸數	人口
甲	三三	三〇四	三〇	三三人
乙	三六	六	三	三三人
丙	六三	三	六	七

◎木浦府公設住宅

所在地 全羅南道木浦府京町二丁目五番地
 設立 大正十三年三月
 沿革 土地の發展に伴ひ人口の増加と共に住宅難の聲起れるを以て之が緩和を圖り一面家賃の調節を計らむがため之が經營を爲すに至れり。
 維持 府費を以て維持經營す。
 事業 大正十二年度府費六千二十圓及地方資補助三千圓計九千二十圓を以て(甲)十四坪五合建四戸(乙)十二坪五合建二戸を建築せり家賃は甲十五圓、乙十二圓なり。

◎大邱府公設住宅

所在地 慶尙北道大邱府南旭町(瓦葺内地式六戸一戸當十四坪半) 家賃一箇月二十一圓
 同 (同) 一二戸一戸當十二坪半) 家賃一箇月十八圓
 同 東雲町(同) 同
 設立 大正十一年三月三十一日

沿革 大邱府に於ては近年人口膨脹の結果住宅缺乏し家賃の昂騰甚しきより之が緩和策として大正十年道地方費補助及殖産銀行より年賦借入金をして建設せしものなり。

組織 大邱府直營にして専任事務員一名を置き管理せしむ。

維持 殖産銀行に對する年賦償却金及其他的經費は家賃収入及府費より支辨す。

事業 大正十五年度社會事業費中府營住宅費豫算總額五、七〇六圓なり。

市街の中央に位置し比較的設備完備し家賃廉なるに依り開設以來空家を生じたる事なく利用狀況良好なり。

◎海州公設住宅

所在地 黃海道海州郡海州面上町

設立 大正十一年十二月十六日

沿革 海州面邑内に於ては近時住宅の拂底甚だしく爲に困難を感じる向尠からず延て教育産業に影響し且つ邑内の發展を阻止するの虞なしとせず面當局は之に鑑み住宅建設の急務なるを認め大正十年度經費二萬四千三百圓（内七千五百圓地方費補助、一萬六千八百圓起債）を以て建築計畫を以て認可を経て大正十一年十二月建設を了せり其の棟數甲號三棟（一棟建坪）六戸乙號

七棟（一棟建坪）十四戸なり。

海州面の經營に屬す。

組織 甲號一戸月額十八圓乙號月額十二圓の家賃を徴收し之を以て維持す。

維持 設置以來殆んど空家を生じたることなく常に多數の申込者あり家賃に於ても延滞するものなく成績良好にして幾分住宅の緩和をなし得たるを信す。

事業 大正十三年度豫算

收入の部

三、一七四圓

基本財産收入

支出の部

八〇〇圓

修繕費

一二五圓

保險料

七三圓

家屋稅

四〇圓

借地料

二、〇〇三圓

借入金費

計 三、〇四一圓

◎清津府公設住宅

所在地 咸鏡北道清津府壽町及府及府内各所に散在

設立 大正十一年十一月

沿革 土地の發展に伴ひ人口激増の結果住宅の拂底を來したれば之が救済の必要を認め府債を起し府營住宅を經營するに至れり。

組織 起債額七萬圓は年々貸家料収入に依りて二十箇年間に償還するの計畫にして既設の住宅は全部需用せられ貸家料の収入確實にして經營上困難を感ずることなし。

維持 貸家料を徴し維持經營す。

事業 現在三十九棟六十六戸を有し五種に區分す甲五棟五戸家賃定額二十五圓、乙十棟十戸同二十圓、丙五棟五戸同十圓、丁十七棟三十四戸同八圓、戊二棟十二戸同四圓にして開始以來空家を生じたることなく利用狀況良好なり。

◎釜山府營住宅

所在地 釜山府中島町二丁目十八番地ノ一 十三戸

同 草梁町六百六十四番地 二十三戸

同 大新町四百二十三番地ノ三 三十五戸

同 同 九百八十番地 四十四戸

設立 大正十四年四月一日

沿革 釜山府の人口は逐年増加しつゝある折柄大正十四年四月慶尙南道廳移轉と共に人口激増住宅益々拂底横暴なる一部の貸家主は此機に乗じ家賃を値上げするもの等あり一般民衆の住宅難を見るに至れるを以て釜山府に於ては家賃の調節住宅の緩和を計らん爲茲に公設住宅の建設を爲すに至れり。

組織 府債を以て建築經營し低額屋賃貸となし其貸借關係事務は府の直接管理下に置かる而して其住宅賃與は府民の職業の如何を問はず貸付規定に該當するものは借家申込書を提出し借家證書を差入れることによつて借家することを得而かも貸付規定を遵守することによつて永住することを得るものなり。

● 事業 事業収入を以て維持し尙不足は府の一般會計より支出し之に充當せり。

事業 前記四箇所共何れも住宅地區として閑靜なる位置にありて木造平屋瓦葺にして其の總戸數百十五戸建坪一、三三四、五五坪工費一二〇、一四〇圓六一錢を費せり其施設概要左の通り。

區別	戸數	棟數	家賃定額	一戸當建坪	一戸當疊數
甲	四	四	二八四	七・五〇	一九・五〇
乙	四	二	二五	一四・七〇	一七・〇〇
丙	四	三	三八	一四・七〇	一七・〇〇
丁	二	二	二六	二二・七五	一四・五〇
戊	二	二	二五	二二・七五	一四・五〇
計	一五	一四	一〇	八・六〇	九・五〇

府營住宅の屋賃は其の設備と位置とによつて斟酌査定され總じて其屋賃は府内の賃屋評價より遙かに低價而かも疊建具炊事場等の設備完備し疊替襖の修繕等は居住者との半額負擔とし電燈料水道料は居住者の負擔とす且つ住宅附屬として共同物干場及同塵箱共用水道栓並通路街燈をも設備するなご極力居住者の公益を計れり。

第九項 宿泊 救護

◎和光教園勞働宿泊部

所在地 京城府鍾路三丁目二十七番地

設立 大正九年十二月二十五日

沿革 本宿泊部は大正九年十二月鍾路三丁目二十七番地に開設したるものにして勞働者の保護を目的として施設し最初は宿泊人少かりしも日を重ぬるに隨ひ増加し同十年二、三月頃より満員に達せるも尙申込者多く一方警察側よりの依頼も多數にして建物の狭き爲其の收容に支障を感ずるに至れり故に大正十一年二月定員五十名の收容力を九十名收容すべく増築をなし其の要求に應ずる様施設せるも之亦漸次増加して直ちに満員の盛況を呈せり。

組織 個人經營 管理者 萩野順導

維持 宿泊料を基礎とし其の他篤志者の寄附金及國庫補助並地方費の補助を以て維持經營す。

事業 宿泊人員毎夜百人内外にして常任事務員二名を置き一夜五錢宛宿泊料を徴して勞働者を宿泊せしむ所内に浴場、理髮所等を附設して無料使用せしめ尙慰安を與ふる爲時々活動寫眞會、

蓄音機會等を催すと共に修身訓話を爲し宿泊人の修養を圖りつゝあり。

◎仁川府公設共同宿泊所

所在地 京畿道仁川府栗木里五十八番地

設立 大正九年八月五日

沿革 大正九年八月五日舊仁川面會議所建物を府制實施と共に府に於て引續き之を利用し細民の共

同宿泊を爲さしむる目的を以て事業を開始し以て今日に及ぶ。

組織 公設にして仁川府廳の管理する所なり。

維持 府費を以て維持經營す。

事業 本宿泊所は朝鮮式建物にして五十名の收容力を有す事務員及小使並賄人各一名を置き宿泊料

一泊五錢食費一食十二錢を徴し細民を宿泊せしめつゝ、あるが昭和元年度平均宿泊人員十九名なり。

◎釜山勞働共濟會 (本章第十項職業紹介の項に收録す)

◎平壤府公設宿泊所

所在地 平安南道平壤府鷄里百三十六番地

設立 大正十一年五月一日

組織及維持

府直接の經營に係り府費を以て維持し居りしが大正十四年四月一日より經營を民間に委託し建物使用料として月十圓を府に納付せしむ營業に必要な經費は受託者の負擔とし營業に依る収入は受託者の収入とす。

事業

本宿泊所は木造瓦葺平家建にして宿泊室、事務室、宿直室、賄入室等何れも溫突室とせり炊事場、便所、廊下等を合せ建坪總數六十一坪半にして宿泊定員は六十名なり宿泊所には指定賄人を置き宿泊人の賄を請負はしむ現在の宿泊料は一人一泊六錢にして賄料は一食十錢とす開設以來に於ける事業成績左の如し。

自大正十一年五月一日宿泊人員一千七百二十七人宿泊料八十五圓三十一錢

自大正十一年十二月末日宿泊人員七千七百七十九人宿泊料二百八十六圓十六錢

自大正十二年一月一日宿泊人員一千三百九十六人宿泊料四百二十九圓三十一錢

自大正十三年一月一日宿泊人員三千七百七十六人宿泊料四百七十圓九十三錢

自大正十四年一月一日宿泊人員四千六十一人宿泊料五百六十圓三十七錢

第十項 職業紹介

◎京城府人事相談所内職業紹介所

(第三防貧事業の三京城府人事相談所に収録す)

◎和光教園紹介部

(第三防貧事業の二和光教園に収録す)

◎仁川府職業紹介所

所在地 京畿道仁川府栗木里五十八番地

設立 大正九年八月五日

沿革 失業者及無職者に職業を紹介する目的を以て仁川府共同宿泊所の附帯事業として開始せり。

組織 仁川府の經營管理に屬す。

維持 府費を以て維持經營す。

事業 昭和元年中に於ける求職者百九十七名にして其中就職せるもの百十名なり。

◎仁川基督教青年會職業紹介所

所在地 仁川府山手町三丁目三番地

設立 明治四十四年三月十五日

沿革 求職者に對して無料紹介を爲す目的を以て設置せるものなり。

組織及 青年會の附屬事業にして同會主事小谷益次郎の主管に屬す。

維持及 昭和元年中に於ける取扱數六十件にして就職せるもの四十六名なり。

◎社會奉仕會

所在地 慶尙北道大邱府東雲町四十九番地

設立 大正十一年一月

沿革 時局以來物價騰貴し其の後經濟界の變動ありたるも昂騰したる物價は容易に低落せず各種事業の縮小に伴ひ失業者續出する狀況に省み從來窮民救済に努力しつゝありし大邱在住牧師上田義雄が大正十一年一月以來社會奉仕會を設立し職業紹介事業を經營し今日に及べり。

組織 牧師上田義雄が個人として自宅に於て事業に従事す。

清經營に係る門司労働共済會と連繫を執り設立したるものなり。
 會員組織にして木村清之を管理す。
 會費、國庫補助金、一般寄附金、事業収入等を以て維持す。
 内地渡航の朝鮮人労働者及び朝鮮渡航の内地人労働者の爲其の方途を指導し同時に在鮮労働者の能率の増進と生活の向上を期する爲め昨年来講演部を設け活動寫眞班を組織し廣島、山口、福岡の諸縣及朝鮮内各地方を巡回し以て思想善導教化に努めつゝあり大正十五年度中の事業成績左の如し。

釜山労働共済會大正十五年度事業成績表

種別	取扱件数		備考
	内地人	朝鮮人	
求職件数	二九四	八六六	一、二八〇
求人件数	六二	四九九	五六一
就職者数	五七	五九四	六五一
勞役従業数	六四	七九	一、四三三
救済件数	三	六	二四
人事相談件数	二七	二四	三三
無料代書件数	三	六	八

◎平壤府職業紹介所

所在地 平壤府廳内
 設立 大正十一年四月一日
 沿革 職業紹介の事務は大正九年六月四日人事相談所の設置と共に同所に於て取扱ひ來りしが大正十四年四月一日人事相談所を集約し府廳内に於て事務を取扱ふこととせり。
 組織 平壤府の經營管理に屬す。
 維持 府費を以て維持經營す。
 事業 大正九年より十五年までの成績左の如し。

年次	内鮮人		求職者数		紹介人員		就職者数		不就職者数	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
大正九年	三三人	三人	二七	二八	二七	一人	三三	一人	四人	一人
大正十年	一五	二	二七	二	二七	二	二〇八	三	三七	—
大正十一年	三三	三	二四	一	二二	一	二〇八	—	—	—
大正十二年	五七	—	六八	—	六八	—	七四六	—	—	—
大正十三年	三三	—	二六	—	二六	—	七四六	—	—	—
大正十四年	三三	—	二六	—	二六	—	八五	—	—	—
大正十五年	三三	—	二六	—	二六	—	八五	—	—	—
計	三三	三	二七	二八	二七	二	二〇八	三	三七	—

十六 十五年 正	十六 十四年 正		十六 十三年 正	
	鮮	内	鮮	内
一七六	三三	三九	二二	一〇五
二	一	三	二八	五
一七六	三三	四〇	四二	一、〇九二、三三一
七五	八二	八〇	七〇	二、一四三
三	一	五	五	三、二、三、三、一
七五	八二	八五	七五	一、四
六三	九七	五四	四三	一、八五八
三	一	五	五	三、四、一、八、九、三
六六	九七	五五	四七	一、二七
二〇〇	三九	二七	一〇	八、八、三
三	一	四	二	一、七、三
二〇三	三九	二八	二	九、〇、〇
四三	五八	二七	三	九、七、五
一	一	一	三	一、七、六
四三	五八	二七	三	九、九、二

第十一項 授産

併合の際特に下賜せられたる臨時恩賜金三千萬圓の内一千七百三十九萬八千圓は之を各府郡島に配賦し永久に之を保存せしめ其の利子年額約八十七萬圓を左記事業に投せり。

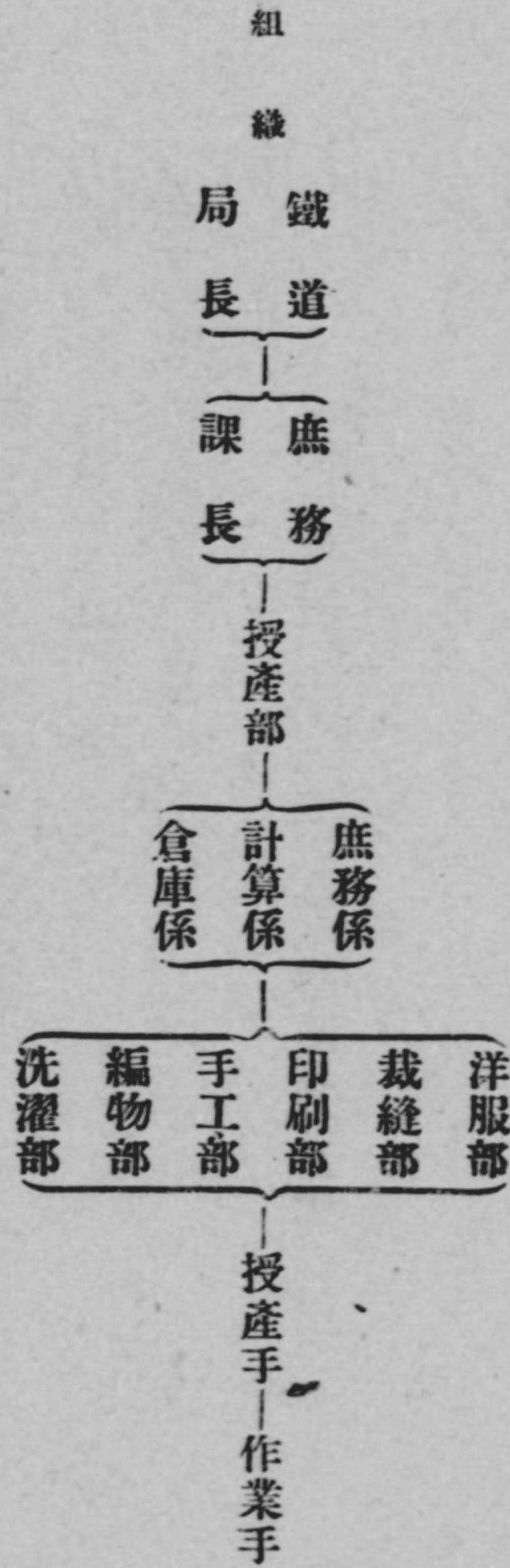
- 授産事業及社會救済事業 六分
- 教育 三分
- 凶歉救済 一分
- 右恩賜金に依り經營する主たる授産事業左の如し。
- 一 各種授産事業指導員の配置 (各道に對し)
- 二 機業の傳習 京畿道、慶尙南道、江原道等を主とす

- 三 製絲 各道に亘り蠶業の獎勵を爲せるが京畿道、平安南道等は製絲工場を設けて之が發達に努めつゝあり
- 四 製紙 全羅南道及慶尙南道を最とす
- 五 原蠶紙製造(各道)
- 六 蠶業講習(各道)
- 七 種苗圃 各種種苗の植栽及配給(各道)
- 八 製炭 山林多き地方に於て行へり
- 九 漁業及工業の傳習指導

◎朝鮮總督府鐵道局現業員共濟組合授産部

所在地 京城府漢江通十五番地
 設立 大正十一年十一月十四日
 沿革 大正十一年末當時滿鐵京城鐵道局が社會政策の一端として社友會相談部の一事業として創立し之を授産場と稱し下級局員の家族に簡易なる副業を授け以て生活安定の一助に資せしが就業希望者日を逐て増加し作業の範圍も擴張し勢ひ作業場の狹隘を來したるに依り大正十三年

一月現在の場所に敷地一千二百餘坪を撰び專屬工場（現在建坪三百五十九坪五合）を建造し共勵舎と改稱す超て大正十四年三月三十一日當鐵道局が朝鮮總督府に移管さるゝや制度規程の改正名稱の改稱と共に部内諸般の面目亦一新し以て今日に及べり。



維持

(イ) 事業資金として鐵道局現業員共済組合貯金部より融通を受く。
 (ロ) 鐵道局所要物品の下受加工及局員の依頼に依る製修品に適度の割掛を爲し従事員の給料、機械器具建物等の補修費其他事業に必要な経費に充つ。
 大正十五年度各部收支豫算左の如し。

事業

本部は専ら下級局員の家族を就業せしむる方針なるを以て現在二百の従業員も主として鮮人局員の家族なるが單に作業に従事せしむるのみならず貯金の奨勵、品性の陶冶、身體の鍛鍊等積極的施設に出て相當の効果を收めつゝあり。
 作業機具の主要なるものは普通ミシン機四十二臺、特殊ミシン機四臺、編物機十六臺、印刷機五臺、截斷機四臺なるが洗濯用器具裁斷臺、仕事臺其他作業上必要なる機具は大體備付しあり。

昭和二年一月一日現在に於ける本年度実績を示せば大略左の如し。

種別	部別	延人員	收支	
			收入	支出
洋服部	裁縫部	八、九八八	四四、五七八・六〇	四四、五七八・六〇
印刷部	印刷部	四一、八一四	一〇二、六三三・〇〇	一〇二、六三三・〇〇
編物部	編物部	一六、五〇七	二七、〇五六・〇八	二七、〇五六・〇八
洗濯部	洗濯部	八、七九〇	六、六〇三・二二	六、六〇三・二二
計	計	七八、一六三	一八四、三一五・六二	一八四、三一五・六二

種別	部別	延人員	收支		差引
			收入	支出	
洋服部		八、一七一	三七、一四六・五五	三七、〇三四・七一	一一・八四
裁縫部		三〇、九七四	七八、七四一・四四	七八、五〇一・二二	二四〇・二二
印刷手工部		一四、七四一	二〇、八八〇・〇七	二〇、七九五・七三	八四・三四
編物部		七、九九一	六、一一四・一〇	六、〇六七・三四	四六・七六
洗濯部		一、七九四	三、二八〇・六九	三、二四三・〇九	三七・六〇
合計		六三、六七一	一四六、一六二・八五	一四五、六四二・〇九	五二〇・七六

第四章 兒童保護事業

第一項 兒童相談所

第二項 感化教育

◎朝鮮總督府永興學校

所在地 咸鏡南道文川郡明孝面松田灣

設立 大正十二年十月一日

沿革 朝鮮に感化院設立の必要なるは既に久しき以前より當局者間の懸案なりしが近來都市に於ける不良兒童の増加並其の弊害益劇増し之れが對策に就き大に考慮を拂ひ愈々救濟機關を設置するの必要を認め大正十二年八月二十八日勅令を以て朝鮮總督府感化院官制を制定し九月三日感化令の公布となり朝鮮總督府令に依り感化院規則を規定し十月一日愈々之が創立を見るに至れり。

組織 朝鮮總督府の經營にして本府の直轄とす。

維持 國庫の支出金を以て維持經營す豫算年額約五萬四千圓とす。

事業 本校は舊永興灣海軍防備隊の所在地に設立せられ其の地域は松田半島の全部を占め閑靜にして風色に富み灣内水深くして魚介又豊かなり。

鐵筋ブロック建の幾多の建造物は海軍省の使用承認を得其の構造に多少の改修を加へ或は新に建築し大正十二年十二月二十一日愈々之が完成を見るに至れり今之が建物及坪數を擧ぐれば左の如し。

- 講堂及附屬室 一一二坪
- 教室及事務室 一三八坪
- 兒童宿舍及附屬室 一八二坪

兒童家族舍	六六坪
木工其他作業場	六〇坪
農事作業場	六六坪
農具及肥料舍其他	三三坪
倉庫	八二坪
病室及消毒室	一八坪
職員官舎及附屬建物	三五四坪
洗濯場其他建物	二五五坪
計	一、三六六坪

生徒の收容は大正十二年九月三日公布の朝鮮感化令第一條各號に依り同年十一月三十日より數回に亘り入校し現在數八十二名にして宿舎は在來建物の關係上當分寄宿舍生活をなさしむ今其の道年齢別及教育程度を示せば左表の如し。

現在兒童出身道別年齢別表

道別	人數	年齢												摘要			
		八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九		二〇	二一	
京畿	三三																
忠清南	二																
全南	一																
全北	一																
慶北	五																
慶南	八																
黃海	二																
平南	四																
平北	一																
江原	一																
咸南	九																
咸北	九																
計	五																

備考 現在校兒童は全部男子にして内四名は内地人兒童なり。

兒童教育程度表

(大正十五年九月末日)

實科別	學年級		第三學級			計
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	
人	六	三	一〇	五	七	三
農	五	一	四	二	一	〇
木	一	一	二	一	一	九
漁	一	五	三	一	一	四
裁縫	一	二	一	一	一	四

本校兒童は入學に一定の時期無く其の年齢も亦長幼ありて同學年兒童と雖も進度一致せず教授至りて多岐に分るを常とす故に入學當初は學歷に依り一時相當學年に編入し其成績に依りて時に上級に進め或は下級に落す等の方法を取る。

實科の分類は兒童の個性と家庭の事情とを參酌して之れを定むるも入院の當初は約半箇年全く農業に従事せしめ専ら勤勞の慣習を養成し然して其の間個性の調査をなし適當の實科に編入す兒童に實科を授くるは勤勞に堪へ得る身體と精神を練磨せしめ後日自活の素地を作らしむるにあるを以て作業に興味を持たしめ自發的に從業せしむるを要す故に常に兒童の作業成績を調査し年度末に至りて其年内の兒童作業生産物賣拂價額の範圍内に於て作業賞與金を支給し各自に貯金せしめ實科を獎勵しつゝあり。

◎宣川孤兒院

所在地 平安北道宣川郡宣川而川北洞

設立 大正十五年五月十八日

沿革 數年前より米州及布哇在住朝鮮人耶蘇教信者が故國救濟事業の一助にもとなるを思ひ年々數百圓づゝ募集し宣川耶蘇教會宛送金したるを積立て大正十四年に於て之を以て土地を買收しこれより生ずる収入及在外鮮人寄附を以て大正十五年五月建築費四、四〇〇圓を投じ煉瓦三階十間なる建物を竣功し同年十二月より事業を開始し今日に至れり。

組織 本院は宗教團體經營(北長老派)にして院長梁甸伯専ら院務を司る。

維持 前記寄附金を以て土地番一八、八九七坪田一七、七一坪買收しこれを基本財産としてこれより生ずる年收入と其の他在外鮮人の寄附とによつて經營す。

昭和元年度の收支豫算額左の如し。

歳入 一、〇八六圓九一錢

歳出 一六圓

事業 男女を問はず扶養義務者なき孤兒を收容救恤す、現在收容數男兒一名なり(昭和二年三月)。

第三項 孤貧兒の養育

◎朝鮮總督府濟生院養育部

所在地 京城府新橋洞一番地

設立 明治四十五年四月一日

沿革

濟生院は私立京城孤兒院の事業を繼承したるものにして明治四十四年六月總督府令を以て濟生院を設立し同年九月より孤兒教養の事業を開始し濟生院養育部と稱したり更に四十五年二月精神病者の醫療事業を附帶せしめ之を醫療部と名づく同四十五年四月勅令第四十三號を以て總督府濟生院官制公布せられ舊濟生院の經營に係る養育部並醫療の事業を其の儘引繼ぎ大正二年四月に至りて更に盲啞教育事業を開始すると同時に醫療の經營を總督府醫院に移管し以て濟生院は孤兒及盲啞教養のみを管理經營することとなり今日に及ぶ然るに當初基金として舊濟生院は恩賜金並國債報償金等合算して三百四十餘萬圓の巨額を有し自ら事業を經營すると共に一方濟生院及總督府醫院道慈惠醫院に寄附して以て事業を經營せしめつゝありしが大正二年四月に其の基金全部の各用途を指定して同一特別會計に屬する總督府濟生院總督府醫院に分配寄附し舊濟生院は解散したり爾來之が基金より生ずる利子並政府支出金と李王家

より寄與せらるゝ主要寄附金とを以て財源とし事業の經理を爲し來たりしが大正十四年に至り三月二十八日付法律第十九號を以て朝鮮醫院及濟生院特別會計法は大正十三年度限り之を廢止せられ朝鮮總督府特別會計に歸屬したり。

組織 朝鮮總督府の經營にして本府の直轄とす。

維持 國庫の支出金を以て維持經營す。

現時に於ける本院一箇年の經費(盲啞部をも含む)は約九萬圓。

事業 本院は専ら孤兒を收容し院内を三部に分ち教養しつゝあり。

イ、嬰兒養育 嬰兒は全部里預けとし六歳に達すれば養育部に收容して普通教育を施すことゝせり朝鮮に於ては從來嬰兒里預の慣習なかりし爲初め嬰兒を院内に收容して牛乳哺育を爲したるも其の成績宜しからざりしを以て種々の方法を講じ里親募集に努めたる結果漸次其の希望者を見るに至り現今は希望者比較的多く優良なるものを選択して嬰兒を委託することを得るに至れり現在の里子は七十七名にして其の養育費は被服を里親の支辨とし一箇月一人京城府内九圓、其の他の府内八圓、府以外の地方は七圓とす。

ロ、學年兒童教育 本部は京城府新橋洞一番地舊宣禧宮の敷地建物を利用し更に三十二坪の教室を増築したるものにして敷地一萬四百七十六坪建物五百八十七坪餘ありて大神宮奉祀

殿、事務室、講堂、教室、作業室、宿舍、衛生室、洗濯場、浴室、倉庫及職員舎宅等の設置あり六歳以上の兒童は院内に收容し普通教育を授け卒業後は別に設置せる農場に移して更に實業教育を授くること、せるが現在收容兒八十七名あり。

ハ、實業教育 本部農場は楊州郡蘆海面に在りて京城を距る約三里泰陵及康陵森林の一部に接し其の面積約二百町歩あり内耕作面積は田畝を合し七町一畝歩にして建物二百六十九坪なるが前項教育部を卒業したる兒童は此の農場に移し獨立生活を爲し得る年齢に達するまでの間農業の實習を爲さしむると同時に精神的陶冶を爲しつゝあり而して作業獎勵の爲從業手當を支給して貯金をなさしめ又業務に熟練せる者には小作練習の爲土地を分擔耕作せしめ其の收支を經理せしむる方法を設け獨立自營の訓練を爲しつゝあるが現在數二十五名なり。

◎財團法人鎌倉保育園京城支部

所在地 京城府三坂通三百七十番地

設立 大正二年八月十一日

沿革 本園は神奈川縣鎌倉保育園の支部なり園主佐竹音次郎は大正元、二年にかけ朝鮮視察の結果

新開地に於ける孤兒救済の必要を感じ同二年八月本部出身の男女二名宛を同伴して京城に來り長谷川町日本基督教會に於て結婚せしめ直ちに一夫婦を南滿洲旅順に派遣して彼の地に保育及開墾の事業を開始せしめ他の夫婦を當地に留めて當支部を創設せしめたり夫婦（前主任佐竹權太郎夫妻のこと）は漢江通三角地附近に手狭なる家を借受け以て事業を開始せり之れより先き仁川（内地人）より小兒五人の救護方申込あり事業開始と同時に之を引取り養育し來たりしが支部の方針は専ら朝鮮人孤兒の收容を目的とすること、なり此等内地人兒童は鎌倉本部に送り其の後朝鮮人のみの收容に勉めたり大正四年に至り漢江通日本基督教會の新築移轉により其の跡を借受け轉居せり當時家族（本園は孤兒及従事者を全部一家族と稱す）は二十一名なり大正六年八月總督府より京城三坂通舊韓國政府典牲署跡の土地家屋を無償貸下げを得て此處に移轉す此の地は千餘坪の面積を有し可なり大なる建築物なるのみならず南山の南麓にありて眺望よく頗る健康地にして該事業の爲には實に天與の好適地なり後家屋の修繕及増築をなし大正七年京城府に於て收容救護せる貧兒棄兒の養育方を引受け年々事業擴張せられ現今に至れり而して現今は曾田嘉伊智氏夫妻に依つて經營せられつゝあり。

組織 財團法人にして佐竹音次郎監督の下に曾田嘉伊智之を管理す。

維持 賛助員の賛助金、慈善家の寄附金、作業收入、託兒の養育料及官廳の補助金を以て維持經營す。

事業

現在の收容児童は六十七名にして是等児童に對する養育上の施設は次の如し。

イ、養育部 幼稚園を設けて幼児の教育を爲し學齡児童は普通學校に通學せしむることゝせるが幼稚園の児童數男女十九名、普通學校に通學する者九名あり尙職業に就ける者には夜學を設け教養しつゝあるが其の人員九名なり。

ロ、職業部 電動八頁印刷機二臺、手刷機一臺を据へ一般印刷の需に應じ其他バスケットの製造、靴下製造部を置き職業教育を施しつゝあり。

次に園務に従事する者を擧ぐれば

家長、主婦、主事、保母各一名、炊事婦二名、裁縫婦、洗濯婦各一名、印刷師二名、バスケット製造師、靴下製造師各一名なり。

◎和光教園學園部

(防貧事業第一項隣保事業中和光教園の項に収録す)

◎救世軍育兒ホーム

所在地

京畿道高陽郡延禧面阿峴里

設立 大正八年十二月三十一日

沿革

救世軍育兒ホームの生じたる動機は大正七年十二月末南大門通丁字屋主小林源六氏が自宅附近に於て身に襤褸を纏ひ飢寒に悲鳴し居る乞食兒童數名を發見し惘然の情に堪えず之が救済の方法を講せむとし養育費四百圓を提供し其の意を救世軍に通じたるに救世軍は之を快く引受け茲に於て本事業の開始を見るに至りしものなり。

組織

本ホームは救世軍に於て専ら之を經營し英國人アール、フレットヒール之を管理す。

維持

救世軍の支出金篤志者の寄附金官署の補助金を以て維持經營す昭和元年度の經費八千百十一圓なり。

事業

本ホームは専ら乞食兒童を教育し現在六十名を收容教養し居れり此等に對しては普通學校程度の學課を授け年長者には袋貼、繩吹製造等の作業をなさしめ勞働觀念を養成しつゝありて學課作業共何れも相當成績を擧げつゝあり。

◎天主教會孤兒院

所在地

京城府本町二丁目二十七番地

設立

明治二十二年三月十五日

本院は天主教主教グスタブミユナル氏に依りて創始せられたり氏二十三歳の時本國巴里に於て神父に任せられ朝鮮に於ける布教の使命を受け朝鮮に來れるは今より約四十五年前（西歷一八七七年）即ち明治十年なり當時朝鮮及内地は同氏の布教せんとする天主教が一般に其の眞價を認められざる結果同信徒に對しては改宗を逼り肯せざるものは死刑に處せらるゝが如き悲惨なる狀況なりき故に氏は滿洲に止まり其の地に布教を爲し機に至るを待つ事三星霜なりしも依然其の狀態は變更を見ざる爲斷然意を決し一扁の舟を僱ひ比較的監視の眼の薄き地に上陸せんと圖り沿岸を徘徊する事數十日暗夜舟の着く儘に上陸せるは現在の黃海道長淵郡なり茲に入鮮の宿望を達し喜悅止む難きものありしも同時に危險愈々加はり慣れざる土地風俗言語等あらゆる困苦と闘ひ晝は山深く入り夜は町家に至りて布教しつゝ一夜を茅屋に明し數日間一食を取り得ざる事尠からざりき而も氏は之を屈せず只管布教目的の達成の端緒に入れるを無上の愉快と感じたり。

斯くして漸く布教の基礎固まるや西歷一八八五年巴里神學校教授を命せられ幾何もなく（西歷一八九〇年）再び朝鮮の主教を命せられたり此際は早や天主教の眞價を認めたること昔日の比にあらざりしを以て寢食を忘れて布教に努め朝鮮全道に信徒九萬人以上を算するに至り益々隆盛に向へり茲に於て布教の傍孤貧兒の教養に着手し明治十八年頃（西歷一八八五年）は

天主教附帶事業たる救の布教（愛の奉仕）に依つて經營し世の可憐なる扶養者なき孤兒及自活することを得ざる棄兒等不幸なる憐むべき貧孤兒を救濟せんとする目的に於て建設せられたるものなり然るに時代の進連に伴ひ各自の生存競争は日に月に激甚を加へ其の競争の落伍者は生活難の悲境に陥り爲に貧孤兒漸次激増せると加ふるに何分幼少なる子供等（別して女の子なる爲め）を保育するには男子のみにては到底困難にして一方には宣教の任務もあり爲に聖保羅會に移管せしめ明治二十二年（西歷一八八八年）の春建物其他一切を尼僧の手に引渡し以て現在に至れり。

組織 佛國人セルカミロに依りて管理せらる。

維持 佛國本部よりの送金及慈善家の寄附金並女兒の手藝に依る収入を以て維持經營す大正十四年度經費一萬八千二百六十四圓なり。

事業 孤貧女兒を收容して普通教育を施し裁縫刺繡等の手藝を教授しつゝあるが現在の收容人員百六十四名なり。

◎財團法人京城保育院

所在地 京城府玉川洞百二十六番地

設立 大正九年一月三日

沿革 本院は府内に彷徨する扶養者なき可憐なる孤兒を救護し現在の悲運を脱せしめ獨立の生計に至らしむ可く孤兒院を設立し以て之が後援をなす目的に依りて成立したるものなり其の前身は南米倉町四番地に居住する金炳賛の發起に係るものにして其發意は南米倉町市場附近に多數の孤兒相集り食に飢る風雨に晒され見るも悲惨なる状態に陥れるを見て同情に絶へず大正八年十月頃自己の所有せる建物（温突建八間）に之等可憐なる孤兒二十四、五人を收容し薪炭を與へ以て幾分たり共冬期の寒を防ぐべく努めたることに濫觴す一度此の事業の開かるゝや同町宋宅洙氏は斯業援助の爲に金品を寄附し同時に之を推奨して其の趣旨の徹底に努めたり而して大正九年頃財界變動に依る下級労働者の生活難に遭遇したる結果漸次孤兒増加するに至り獨力にては到底維持困難なるを感じ且つ時代の趨勢に鑑み汎く篤志家に説きて其同情を仰ぎたる結果寄附金約二萬圓以上に達したるを以て斯業の基礎愈々堅實となり大正九年十二月一日京城孤兒救濟會なるものを組織し會長に尹致昊を推薦し玉川洞百二十六番地の土地及家屋約三千坪（内建坪温突建約八十坪）を一萬五千圓にて買收し孤兒院を設立し次で大正十一年五月組織を改め財團法人と爲し京城保育院と改稱以て今日に及び。

組織 財團法人にして役員は理事五名監事三名評議員若干名。

維持 理事尹致昊、宋宅洙、金一善、吳婉善、金炳賛、監事曹秉學、朴勝彬、盧益亨。

維持 會員の負擔金及基本財産に依る収入を基礎とし更に官廳の補助金一般有志者の寄附金を以て維持經營す目下基本財産として土地（時價三萬圓）を有し年約三千五百圓の収入あり。

事業 本院は主として、乞食其の他孤貧兒を教育し現在自七歳至十六歳四十名を收容せり此等に對しては普通學校初學年程度の學科を授け十二歳以上に達したる者は商店又は他の職業に就職せしめつゝあるも財産不況の爲容易に就職せしむるを得ず故に大正十三年三月より授産部として織造、洋襪製造の二部を設置し之に従事せしめつゝあり。

大正十五年度決算及昭和二年度豫算概要左の如し。

大正十五年度 自大正十五年四月一日 至昭和二年三月末日 決算

收入之部		支出之部	
科	目	科	目
一、補助金	一、總督府補助	一、事務費	一、給料
	二、京城府補助		二、旅費
	三、宮内省下賜		三、通信費
二、寄附金	一、維持會費		四、印刷費
	決算額		決算額
	八〇〇,〇〇〇		四三〇,〇〇〇
	六〇〇,〇〇〇		一五,〇〇〇
	五〇〇,〇〇〇		三,六〇〇
	三七,五〇〇		八,一〇〇

昭和二年度 自昭和二年四月一日 至昭和三年三月末日 豫算

科	款	項目	豫算額	科	款	項目	豫算額
一、補助金	二、寄附金	一、總督府補助	1,000,000	二、養育費	一、給料	一、給料	4,110,000
		二、京城府補助	1,000,000			二、旅費	150,000
		三、宮内省下賜	1,000,000			三、通信費	50,000
		四、京畿道廳	500,000			四、電話料	100,000
		一、臨時寄附	3,500,000			五、雜費	110,000
		二、維持會費	50,000			六、什器	50,000
		三、一般會費	2,000,000			七、印刷費	10,000
		四、總督府サレタレ	130,000			一、食費	4,000,000
		一、京城府補助	4,360,000			二、被服費	1,300,000
		一、賃貨	18,000			三、教育費	500,000
三、養育料	四、雜收入	一、土地收穫	2,100,000	四、衛生費	1,100,000		
		一、織造部	310,000	五、薪炭費	150,000		
		一、織造部	310,000	一、織造部	1,100,000		
		一、織造部	730,710	一、不動產本院	4,500,000		
		一、織造部	500,000	一、織造部	100,000		
		一、織造部	500,000	一、織造部	100,000		
		一、織造部	500,000	一、織造部	100,000		
		一、織造部	500,000	一、織造部	100,000		

科	款	項目	豫算額	科	款	項目	豫算額
三、養育料	四、雜收入	一、京城府補助	3,368,400	二、養育費	六、電話料	六、電話料	1,660,000
		一、賃貨	60,000			五、雜費	108,000
		一、土地收穫	2,370,500			一、食費	3,254,900
		一、織造部	330,000			二、被服費	1,060,000
		一、織造部	450,900			三、什器	790,000
		一、織造部	330,000			四、教育費	3,370,000
		一、織造部	330,000			五、衛生費	1,080,000
		一、織造部	330,000			六、薪炭費及	875,000
		一、織造部	330,000			一、利息	900,700
		一、織造部	330,000			一、院舍修理	1,710,000
四、雜收入	五、基本金	一、院舍修理	1,710,000	二、南陽土	3,950,900		
		一、院舍修理	1,710,000	一、地修築	1,660,000		
		一、院舍修理	1,710,000	二、地稅	2,500,000		
		一、院舍修理	1,710,000	三、西大門金融	2,500,000		
		一、院舍修理	1,710,000	一、西大門金融	2,500,000		
		一、院舍修理	1,710,000	一、西大門金融	2,500,000		
		一、院舍修理	1,710,000	一、西大門金融	2,500,000		
		一、院舍修理	1,710,000	一、西大門金融	2,500,000		
		一、院舍修理	1,710,000	一、西大門金融	2,500,000		
		一、院舍修理	1,710,000	一、西大門金融	2,500,000		
五、基本金	六、假拂金	一、院舍修理	1,710,000	七、貯蓄預金	一、組合去年借入金償還條	一、組合去年借入金償還條	1,000,000
		一、院舍修理	1,710,000			一、組合去年借入金償還條	730,710
		一、院舍修理	1,710,000			一、組合去年借入金償還條	730,710
		一、院舍修理	1,710,000			一、組合去年借入金償還條	730,710
		一、院舍修理	1,710,000			一、組合去年借入金償還條	730,710
		一、院舍修理	1,710,000			一、組合去年借入金償還條	730,710
		一、院舍修理	1,710,000			一、組合去年借入金償還條	730,710
		一、院舍修理	1,710,000			一、組合去年借入金償還條	730,710
		一、院舍修理	1,710,000			一、組合去年借入金償還條	730,710
		一、院舍修理	1,710,000			一、組合去年借入金償還條	730,710
六、假拂金	七、貯蓄預金	一、院舍修理	1,710,000	八、借入金	一、借入金	一、借入金	1,000,000
		一、院舍修理	1,710,000			一、借入金	1,000,000
		一、院舍修理	1,710,000			一、借入金	1,000,000
		一、院舍修理	1,710,000			一、借入金	1,000,000
		一、院舍修理	1,710,000			一、借入金	1,000,000
		一、院舍修理	1,710,000			一、借入金	1,000,000
		一、院舍修理	1,710,000			一、借入金	1,000,000
		一、院舍修理	1,710,000			一、借入金	1,000,000
		一、院舍修理	1,710,000			一、借入金	1,000,000
		一、院舍修理	1,710,000			一、借入金	1,000,000
七、貯蓄預金	八、借入金	一、院舍修理	1,710,000	九、繰越年度額	一、繰越年度額	一、繰越年度額	8,872,900
		一、院舍修理	1,710,000			一、繰越年度額	8,872,900
		一、院舍修理	1,710,000			一、繰越年度額	8,872,900
		一、院舍修理	1,710,000			一、繰越年度額	8,872,900
		一、院舍修理	1,710,000			一、繰越年度額	8,872,900
		一、院舍修理	1,710,000			一、繰越年度額	8,872,900
		一、院舍修理	1,710,000			一、繰越年度額	8,872,900
		一、院舍修理	1,710,000			一、繰越年度額	8,872,900
		一、院舍修理	1,710,000			一、繰越年度額	8,872,900
		一、院舍修理	1,710,000			一、繰越年度額	8,872,900
八、借入金	九、繰越年度額	一、院舍修理	1,710,000	合計	合計	合計	8,872,900
		一、院舍修理	1,710,000			合計	8,872,900
		一、院舍修理	1,710,000			合計	8,872,900
		一、院舍修理	1,710,000			合計	8,872,900
		一、院舍修理	1,710,000			合計	8,872,900
		一、院舍修理	1,710,000			合計	8,872,900
		一、院舍修理	1,710,000			合計	8,872,900
		一、院舍修理	1,710,000			合計	8,872,900
		一、院舍修理	1,710,000			合計	8,872,900
		一、院舍修理	1,710,000			合計	8,872,900

合	計	一七、三六、七一〇
二、建築費	一七、〇〇〇・〇〇〇	
三、修築費	一、八七〇	
四、不動産登記	五〇〇・〇〇〇	
合	計	一七、三六、七一〇

◎天主堂附屬孤兒院

所在地 京畿道仁川府寺町三番地

設立 明治二十八年三月十九日

沿革 天主堂附屬孤兒院は明治二十八年三月十九日當時の教會管理者クレモニス氏が教會内建物の一部を利用し孤兒及貧兒四名を保護收容したるに創り其の後漸次收容兒増加し設備を擴張して今日に至れり。

組織 佛國婦人ソールマリヤ之を管理し保母四名をして従事せしむ。

維持 佛蘭西天主堂公教會附屬仁愛會よりの寄附金(一、二〇〇〇圓)財團補助金(三五〇圓)女兒の手藝收入(一、二〇〇圓)及管理者の出資金(一、四〇〇圓)を以て維持經營す。

事業 孤貧女兒を收容して普通學校程度の教育を施し且つ裁縫刺繡等の手藝を授け成人後自活の途

を得しめつゝあり現在收容數自七歳至十八歳女兒四十一名なり。

◎公州救濟院

所在地 忠清南道公州郡公州面錦町百二十番地

設立 大正三年五月

沿革 併合當時公州邑内を徘徊する無告の幼少乞食の群を目睹したる元本願寺の布教師古澤慧誠は有志に圖りて薄俸なる兒童の救濟を企て爾來事業を繼續し來り大正三年二月同人等の發企にて公州救濟院を創立し大正五年更に之を改善し孤兒及貧民行旅病人の救護事業を併營し來りたるも行旅病人の救護は大正十年面の經營に移し現在に至れるものなり。

組織 會員組織管理者は金甲淳にして教養指導者は趙成萬之に當りつゝあり。

維持 基本金收入内帑御下賜金官廳補助金及一般有志者の寄附金に依り維持經營せり。

事業 大正十五年度に於て收容せる總人員は四十八名に達し年來收容孤兒數二十二名中二名は大工職に一名は理髮職に一名は菓子職に托し職業的教育を受けしめ他の十八名は本院に於て養育し教養は趙成萬之に當りつゝあり。

尙ほ貧民救濟の一助として大正十一年以來貧民三十餘戸に對し毎年一月に付白米五升内外を

施與しつゝあり。

最近一箇年間に於ける經費一千百圓なり。

◎孤兒及貧困者收容所

所在地 忠清南道公州郡鷄龍面中壯里

設立 大正二年四月

沿革 孤貧兒及不具者貧窮者を救済する目的を以て朴仁默の設立したるものにして從來公州郡鷄龍面中壯里及同郡寺谷面虎溪里の二箇所に收容所を設けたるも大正十五年より鷄龍面中壯里の收容所に合併し引續き收容保護に努めつゝあり。

組織 管理者朴仁默の個人經營にして教養指導者は李漢烈之に當りつゝあり。

維持 經費は總て設立者朴仁默の支出なり。

事業 鷄龍面中壯里甲寺内に收容所を設け年少者には讀書を教へ年長者には農業に従事せしめ女子には裁縫洗濯等の作業に従事せしめつゝあり。

最近一箇年間に於ける取扱人員は百一名にして經費二千百圓なり。

◎瑞山孤兒救濟會

所在地 忠清南道瑞山郡瑞山面邑内里

設立 大正七年八月五日

沿革 本會は孤兒貧兒を收容して教養し自活の途を得しむる目的を以て大正七年當時の瑞山郡守池喜烈氏等主唱の下に設立したるものなり。

組織 會員組織にして役員は會長副會長各一名評議員四名幹事二名あり專任教養師一名を置き事務は便宜上瑞山郡廳員に於て處理しつゝあり。

會の代表者 李 敏 寧 (瑞山郡守)

維持 基本金收入道地方費補助及有志の寄附金を以て維持經營す。

事業 收容所は邑内里に新設し夏秋の頃は除草水汲農耕等輕易なる勞働に従事せしめ冬春の季は簡易なる讀書を授け居れり。

現在收容せる兒童數は六名にして一箇年の經費約一千九百七十圓。

◎金堤救濟院

所在地 全羅北道金堤郡金堤面校洞里

設立 大正七年九月十六日

沿革 大正八年一月警察官憲の懲懲に依り經營者金駿熙進んで私財七百三十圓を投じ金堤邑内市場牛肉店舖を買収し之より生ずる収入を以て維持費に充て別に收容家屋一棟を買収し地方を徘徊せる乞食浮浪兒を收容して之が教養に努め以て今日に及ぶ。

組織 個人經營にして設立者金駿熙之れを管理す。

維持 經費は前記牛肉店舖收入年額約七百圓及一般寄附金並官廳補助金を以て之に充つ。

事業 現在收容せる兒童四名にして炊事婦を置きて賄を爲さしめ教養に就ては所在警察官之に當り簡易なる學科を授け傍ら勞働作業に従事せしめつゝあり。

大正十三年以降に於ける收容兒童及經費表

年 別	救助人員		救助を廢したる人員		年末現在	年度收支決算	
	前年越	本年	要救事情の 止みたる者	死亡者 逃亡者 其他		歳 入	歳 出
大正十三年	五	二	一	二	五	八二四・五六〇	五〇四・二〇〇
大正十四年	五	三	二	三	三	九〇六・九〇〇	三三七・二〇〇
大正十五年	五	三	四	一	四	五〇〇・〇〇〇	四〇〇・〇〇〇

備考 大正十五年度は決算未了に付豫算を計上す。

◎財團法人朝鮮扶植農園

所在地 慶尙北道達城郡解顔面檢沙洞

設立 明治四十三年十月三十一日

沿革 本園は大坂汎愛扶植會の創設者たる加島敏郎氏が同會出身者を朝鮮に送りて農業を授け獨立自活の良民たらしむる爲朝鮮總督府及東洋拓殖會社の後援を得て明治四十三年創設したるものにして大正三年財團法人組織となし同九年總督府及本道の希望により朝鮮子女をも收容する事とし今日に至れるものなり創立以來收容せしもの百七十二名に及び大正十二年以降毎年紀元節の嘉辰に宮内省より社會事業獎勵の御趣旨に依り御下賜金あり又十三年一月皇太子殿下御成婚の日に當り加島園長多年の功勞を思召され御紋章附銀杯一個並金二百圓を下賜せらるゝの光榮を得たり。

組織 財團法人にして理事一名評議員十名顧問二名あり。

維持 農場收入地代及一般寄附金慈善活動寫眞に因る収入及總督府又は道地方費よりの補助金等による。

事業

事業を分ちて救済、農業、隣保、自營、植林の五部とす他に附屬事業として在阪鮮人に對し保護事業を經營しつゝあり。

- 一、救済部 内鮮薄幸の兒女を收容養育し之に産業と教育を授け獨立自營の途を得しむるを以て目的とし明治四十四年創設以來收容總人員百七十二人内獨立せしもの内地人男三十五名女十四名朝鮮人男二名女二名計四十三名兵役に就きしもの七名にして現在收容人員四十二名内地人三名朝鮮人三十九名、男兒三十一名女兒十一名にして年齢別とすれば十三歳未満二十三名、十三歳十三名十四歳以上六名なり、十三歳未満の者は午前中構内の掃除に従事し午後は普通學校程度の教育を授け十三歳ものは午前中農業に従事し午後は十三歳未満兒童と同じく教育を受け十四歳以上のものは晝間農業に従事し夜間二時間宛教育を受ける規定にして乳兒五名は附近鮮人に養育料を給し委託養育をなしつゝあり、大正十五年に於ける兒童一名當り經費(食費、衣服費、其他雜費)一日平均三十錢一箇年百六圓餘なり。
- 二、農業部 本園所有畚田四十二町中三十四町は小作預けとなし約五町歩は園の自作地とし農業主任指導の下に收容兒童中十三歳以上のものに作業せしめ日給として二十五錢以上一圓迄を支給し衣食費を自辨せしめ足らざるものに對しては園より補給しつゝあり。
- 三、隣保部 夜學部を設け本園の男女教員をして教鞭を執らしめ附近鮮童に普通學科を教授

し又窮民に對しては施藥をなしつゝあり、尙本園の所在地たる解顔面の青年をして青年會を組織せしめ本園より田一反步畑一反步を無料貸付し共同耕作、農事改良、風俗改善を計らしめつゝあり。

- 四、自營部 青年二十三、四歳に達し兵役の關係定まれば適當なる配偶者を選びて新家庭を作らしめ東洋殖産株式會社より年賦償還にて土地讓與を受けしめ自營上必要なる農業資金を貸與す、大正三年以來獨立せる家庭は十四戸にして家族數三十六名、耕作反別二十町歩、副業として養鶏、養蠶、繩以製造に努め又製麵業、牛車運搬業、建築手傳等をなせるものあり尙自營部に屬するものを以て自營會を組織し毎月一回各戸順番に集合し各自製の茶菓を持ち寄り親睦を計りつゝあり。

- 五、植林部 青松、永川兩郡に於ける國有林野千二十九町歩の貸付を受け大正九年以降松、樺苗を植栽しつゝあり。

明治四十四年以降の收容兒童左の如し。

性別	年別	
	明治四十四年	大正元年
男	一四	六
女	二	一
計	一六	七
男	八	五
女	二	一
計	一〇	六
男	三	三
女	一	三
計	四	六
男	二	五
女	三	五
計	五	一〇
男	一	四
女	七	五
計	八	九
男	一	三
女	七	五
計	八	八
男	一	三
女	七	四
計	八	七
男	一	五
女	七	七
計	八	一二

◎天主教修女院附設女子孤兒院

所在地 慶尙北道大邱府南山町天主教修女院内

設立 大正四年十月十五日

沿革 本院は佛國天主教修女院が其附設事業として大正四年開設せしものにして大正十三年以降毎年紀元節當日宮内省より社會事業獎勵金御下賜あり。

組織 天主教朝鮮大邱教區管理者フロリアン、デマンデー監督の下に修女院長スエル、ドナシエンを之を經營す。

維持 本院の經費は大正十五年度豫算五千五十九圓にして大部分は在巴里セントアンフランス本部より給付を受け其の一部は京城の「サルタレル」財團及國費の補助金並收容兒童の手工品賣却によりて得たる収益金等を以て充當すと雖も不足の場合は管理者の自辨により維持す。

事業 本院は朝鮮女兒にして棄兒となりたるものに限る收容養育し現在四十四名あり院兒には簡易なる教育を施すと共に刺繡、其他手藝品を作らしめ其製作品を賣却して經費の一部分に當て居れり院内には禮拜室、教室、寢室、食堂、作業室、厨房、洗濯場、牛舎等あり清潔にして能く整頓し居れり。

大正五年以降十一年間に收容せるもの百四名其の後死亡其の他六十人にして昭和二年一月現在收容兒童數四十四人なり。

◎慶北救濟會

所在地 慶尙北道大邱府南山町

設立 大正十一年十二月三十一日

沿革 本會は元嶺南共濟會と稱し大正十年二月朝鮮人有志者の手にて創立せられ大正十年七月慶北孤兒救濟會と改名せしも維持困難の爲大正十一年十二月慶北社會事業創立委員會の設立に係る慶北救濟會に合併して今日に至れり大正十二年以降毎年の紀元節當日宮内省より事業獎勵金御下賜あり。

組織 會長一名、理事一名、委員九名外に事務員一名、保姆三名を置く目下基本金募集中にして其の申込額は豫定の十萬圓に達し其の中拂込まれたる額は三萬圓に上れり近く之が完納を待ちて財團法人となす計畫なり。

維持 基本金の利子、國費地方費及大邱府の補助金及一般の寄附金により維持す
大正十五年度豫算歳入出額各一萬八百九十四圓なり。

事業

本會の事業を分ちて救済部、授産部、勞働紹介部の三とす。

- 一、救済部 孤兒、迷兒、棄兒等を救済教養するを目的とし現在收容人員五十名とす。
- 二、授産部 乞食、浮浪者、極貧者を收容し之に衣食を與ふると共に簡易なる産業を授け、作業を修得したるものは夫々就職せしむる方針にして現在この部に收容せるもの十八名あり。

以上二部の收容者中二十八名に對しては午前中普通教育を授け午後は等しく作業に従事せしめつゝ、あり現在製繩機五臺製叭機十臺靴下製造機三臺を置き繩叭靴下の製造及莞草細工等に従事せしめつゝ、あり。

- 三、勞働紹介部 失職者、無職者の爲勞働紹介をなすものなれども未だ諸般完備せざるため特記すべき事項なし、大正十三年四月より前大邱圖書館の建物を大邱府より無償貸附を受け本部の改善並隣保事業部を開設せり。

從來本會は門戸を鎖して外部との交渉を絶ち兒童の外出を禁じ來れるも時代の趨勢に鑑み大正十二年春以來之を開放して社會との接觸を密ならしめ兒童及社會相互間に「孤兒及乞食」の觀念を漸次消滅せしむべく努めつゝ、あり附近の兒童も自由に入出遊戯し又附近の家庭に於ても差別待遇をなすことなく本會の兒童を自由に入出せしめ居れるが以來好成績を治め居れ

り、娛樂、運動設備としては、ピンポン、野球、フットボール、其他數種ありて毎月第一土曜日に娛樂會を催し又時々運動會、遠足會等を行ひつゝ、あり保健上に就ては健康診斷毎月一回、理髮毎月二回、入浴毎週二回宛なさしめ食事は一日一人宛二十錢の範圍内にて米六分麥四分とし毎週二回魚、牛肉等を與へつゝ、あるが健康状態良好なり。

大正十五年度に於て「サルタル財團」より建築費として金一千圓の助成金交付せられたるにより瓦葺三十五坪の家族舎一棟を新築せり。

現收容者の年齢別左の如し。

種別	一歳	二歳	三歳	四歳	五歳	六歳	七歳	八歳	九歳	十歳	十一歳	十二歳	十三歳	十四歳	十五歳	十六歳	十七歳	十八歳	計
救済部	六	三	五	七	二	二	三	四	四	七	七	一	二	二	三	一	三	一	五〇
授産部	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一八

◎晋州佛教婦人會

所在地 慶尙南道晋州郡晋州面玉峰里

設立 明治四十一年三月一日

沿革 有志相背り慈善救済を目的として設立したるものなり。
 組織 會員組織にして會長幹事等の役員を置く。
 維持 毎月會員より會費を徴收し其の半額を會の維持に充て他を以て慈善救済の費用に充つ。
 事業 大正十五年中に於て孤兒三名を救済し現在一名は救護中にあり。
 會員毎月一回會合を催し宗教道德の講話宣傳を爲すの外年一回大會を開く。

◎財團法人日本育兒院平壤支部

所在地 平安南道平壤府鷄里百三十七番地

設立 大正十一年四月二十五日

沿革 日本育兒院本部は岐阜縣岐阜市に在り現院長五十嵐喜廣大正二年四月中滿鮮視察の途次全羅南道光州に至り該地の篤志家佐久間時三郎より未墾地六町歩の寄附を受けこの地に根據を据へ從來本部に於て教養しつゝありし年長兒童を漸次移住せしめ農業に従事せしむべく又一方在鮮孤貧兒をも救済教養する目的を以て大正三年五月該地に支部を創立したり之れ即ち日本育兒院光州支部なり然るに此の地に於ては將來事業の進展を期し難きを認めたるを以て大正十一年四月院兒を擧げて現在の地に移轉し以て今日に至れるものなり。

組織 財團法人にして山中春吉夫妻教養に従事しつゝあり。
 維持 賛助會員百名の醸出及一般篤志家の寄附並官廳の補助金を以て維持經營せり。
 事業 現在收容數は七名なり滿四歳以上十六歳迄の孤貧兒を收容し之を養育し毎日四時間宛簡易なる國語、算術、手工を教授す年齢十二歳を越えたる者には自活の途を講ずる爲實業見習として實業家に委託して實業指導を行ふこととせり。
 大正十一年以降の性別救助人員及經費並十五年度豫算を上ぐれば左の如し。

年 別	大正十一年		大正十二年		大正十三年		大正十四年	
	内 女	内 男	内 女	内 男	内 女	内 男	内 女	内 男
救助人員	二	八	一	五	一	五	一	五
計	二	八	一	五	一	五	一	五
移送及救助を廢したる人員	一	一	一	一	一	一	一	一
計	一	一	一	一	一	一	一	一
現在末	一	一	一	一	一	一	一	一
收入	三、八〇〇・三三〇	三、八〇〇・三三〇	二、三六八・八二〇	二、三六八・八二〇	二、四九〇・一三五	二、四九〇・一三五	二、四九〇・一三五	二、四九〇・一三五
支出	三、八〇〇・三三〇	三、八〇〇・三三〇	二、三六八・八二〇	二、三六八・八二〇	二、四九〇・一三五	二、四九〇・一三五	二、四九〇・一三五	二、四九〇・一三五

者年齢別	現在收容		大正十五年	
	内女	内男	内女	内男
四歳以上六歳迄			一	六
七歳以上九歳迄			一	六
十歳以上十三歳迄				
十四歳以上十六歳迄				
計			一	六

大正十五年度收支豫算額二千九百七十二圓。

◎平壤孤兒救濟會

所在地 平安南道平壤府上需里七ノ一
 設立 大正十年十一月三日
 沿革 無告の孤貧兒を收容し之を教養して生業を與へ自活の途を得しむる目的を以て鄭世胤外百餘名の有志主唱の下に設立したるものなり。
 組織 會員組織現在會員數二百四十七名にして朴經錫會長たり。
 維持 會員の醜金(一人一箇月五十錢乃至二圓五十錢)及官廳の補助金並一般篤志者の寄附金を以て維持經營す大正十五年度豫算三千九百二十圓。

事業 現在收容せる孤兒の數は朝鮮人三十一名にして年長者は十六歳年少者は八歳多くは八、九歳の者なり職員に院長一名、副院長二名、院監一名、教師一名、寄附募集委員一名、保姆一名を置き毎日三時間宛普通學校初學年程度の學科を授け年長者には各自の趣味に應じゴム靴、鍼力、洋襪、洋服、染織等を見習はしめ自活の途を講せしむ。

◎愛國婦人會春川支部

所在地 江原道春川郡春川面江原道廳内
 設立 大正十一年十月二十一日
 沿革 特に記述すべき變遷なし。
 組織 會員組織にして支部經營。
 維持 支部支出金及本部補助並地方費補助金を以て維持す。
 事業 大正十一年十月以來支部事業として孤貧兒の教養並妊産婦保護事業を經營し十二年中保護を加へたる妊産婦四名あり孤貧兒に就ては未だ收容所建設せられざるを以て地方篤志家に委託し養育費を支給して保育せしめ現に保育しつゝある者三名なり。

第四項 徒弟又は勞働者の教育

◎和光教園夜學部

(孤貧兒養育の部に収録す)

◎向上會館

所在地 京城府天然洞舊日本公使館跡

設立 大正十一年八月七日

沿革

向上會館は元眞宗大谷派朝鮮布教管理者深内式惠の主唱に依り佛教の精神に基き朝鮮人を教化し授産の道を講じて主として宗教的、教育的、産業的方面より個人及社會生活の向上に貢獻せんとする趣旨の下に設立したるものなり。

本館敷地は官有地三千三百八十五坪を無償にて借入れ煉瓦二階建二百十二坪餘傳習室木造平屋四十坪及其他の他の建築を竣功し建築費八萬六千三十三圓餘大正十一年末迄に要したる設備費六千七百七十三圓餘計九萬二千二百七圓餘を要したり。

組織 眞宗大谷派朝鮮布教管理者中野高淑の管理に屬す。

維持 本山竝官廳よりの補助及一般篤志家の寄附竝作業収入を以て維持經營す。

事業 教化部、修學部、産業部を設く。

一、教化部 眞宗の教義に基き朝鮮人の精神的文化の向上に貢獻するを以て目的とし其の事業とする處は信仰普及、社會教育、文藝音樂、運動娛樂等に關する施設をなし現に婦人會、青年會、女子青年會等に加盟せる者約百六十名あり。

二、修學部 本部は始め實業に關する知識技能及公民生活に須要なる教育を施したるも朝鮮の實情に鑑み女子技藝學校を設置することに改め十三年四月より實施せり科程は高等普通教育を授け併せて日常必要な實用的技能を修得せしむるものにして其の修業年限二箇年なり現在四十一名の生徒を收容し居れり。

三、産業部 本部は朝鮮人子弟に特殊の産業を傳習せしめ一定の正業に就かしむる目的を以て開設當時は洋服科、洋靴科の二科なりしも前年度より教師の都合にて洋靴科は休止し目下は洋服科のみなり其の修業年限は三箇年にして現在六十名を收容しあり。

大正十五年度豫算

事務費

一四、九二九圓

傳習費

二三、六九六圓

修學費	二、五九一圓
教化費	二〇〇圓
臨時費	一、〇〇〇圓

◎昌寧勞働夜學會

所在地 慶尙南道昌寧郡昌寧面

設立 大正九年八月八日

組織 會員組織

維持 基金及篤志家の寄附金を以て維持す。

事業 現在勞働者及其の他晝間従業者五十三名に對し簡易なる國語算術を教授しつゝあるが教師は昌寧青年會の幹部員之に當れり。

◎馬山福壽寺夜學會

所在地 慶尙南道馬山府弓町三二〇番地

設立 大正十一年九月

沿革

現福壽寺住職光英博明布教師として派遣せらるゝや夙に社會的奉仕に志し居たるが大正十一年九月試みに寺院隣家の鮮人子弟數名を集め夜學を開始したるに漸次兒童數増加したるため同年十二月正式に夜學會として認可申請するに至れり而して翌年二月許可せられ且つ社會教化上有益なる事を認められ本府補助金六百圓地方費補助百圓を下附せられ基礎愈々確實となり地方教化上其功績顯著なるものあり社會事業獎勵の思召を以て恩賜金下賜の光榮に浴すること前後三回に及べり。

組織 福壽寺住職光英博明の個人經營。

維持 官廳の補助、本山の出資、篤志家の寄附及經營者の出資により維持經營す。

事業 朝鮮人貧困者の子弟にして晝間修學し能はざる兒童を集め毎夜三時間宛國語、漢文、算術、修身の四科目を授業し目下通學者百餘名あり。

◎安息教會附屬義明學校

所在地 平安南道平原郡順安面郡上里

設立 明治三十九年十月十日

沿革 明治三十九年十月十日創立したるものにして當時は専ら漢文科の授業を爲せしが元より先米

國人スミス氏渡鮮し安息教會内青年教育の必要を感じ其の經營に努力し鮮人傳道師有志と謀りて從來の舊式教育を廢し普通科(四箇年修了)高等科(三箇年修了)と分ち授業を開始せしが爾來生徒益々増加し校舍の狹隘を感じ大正二年四月洋式新校舍を建築し十月之に移轉すると共に從來の高等科修業年限三箇年を四箇年に延長せしが更に大正十四年度よりは普通科を六年に高等科を五年に延長し一般高等普通學校と同等の教育を施す。

組織 財團法人にして順安安息教會の管理に屬す。

維持 同上の維持經營する所にして此經費一萬六千百十四圓。

事業 設立當時は敢て特筆すべきものなかりしも明治四十四年安息教會より金五千圓の寄附金を得て田番五萬坪を購入し勞働部を設けし以來貧困なる信者の子弟にして勞働部に入り學資を得る者増加し來れり尙木工部、織造部を設け前者は男生徒後者は女生徒をして學習せしめつゝ、あり此の事業収入額一萬九千八百八十八圓四十四錢なり。

第五章 特殊教育事業

◎嶺南心眼共濟院

所在地 釜山府西町二丁目一七番地

設立 大正十五年六月十一日

沿革 盲人青年男女に必要な學科技藝等を授け自營自活の途を向上せしむるため村上唯吉氏の提唱により多數有志の後援のもとに設立するに至れり。

組織 會員組織にして村上唯吉氏代表者となり院務を處理す。

維持 會員より徵收する會費と地方篤志家の寄附金により維持經營す。

事業 年齢十五歳以上三十五歳以下の盲人に對し午前中普通學科及點字を授け午後は生理、病理の學科より鍼灸、按摩等の術科を授け現在男十五人女十人の盲生を收容し居れり。

◎朝鮮總督府濟生院盲啞部

所在地 京城府天然洞九十八番地

設立 大正二年四月

沿革 朝鮮總督府濟生院は私立京城孤兒院の事業を繼承し明治四十四年六月濟生院養育部と改稱し孤貧兒の教養を爲し來りしが大正二年四月更に盲啞教育事業をも開始し茲に濟生院盲啞部の設立を見るに至れり。(詳細は濟生院養育部の分參照)

組織 朝鮮總督府の經營にして内務局に屬す。
維持 國費を以て維持經營す。
事業

現在生徒數は給費生三十六名自費生四十二名計七十八名にして盲本科暨本科に分つ修業年限は前者三年にして後者五箇年とす科別に依り生徒の區分を示せば左の如し。

種別	修業年限	内地人		朝鮮人		合計	
		給費生	自費生	給費生	自費生	給費生	自費生
盲本科	三箇年	1	1	1	1	2	2
盲本科	五箇年	3	7	3	7	6	14
計		4	8	4	8	8	16

給費生は全部寄宿舎に入らしむること、し男女に依り之を區分收容し舎監を置き之が監督の任に當らしめ食事及學用品等を支給するの外卒業又は夏季休暇の際に於ては旅行費用として一定の手當金を給與し得ること、せり然れども卒業後に於ける何等の制限又は義務を附することなく全然恤救の方針の下に之を取扱へり。

生徒の教育に付きては最も注意を拂ひ専ら實用的方面に重きを置き各科の修業者は他の補助なくして善く自活し得らるゝの技能を教習せむとし盲生には鍼灸及按摩を嚆生には裁縫を課せり而して盲生には當初は通譯を附し教授するの要あるも第二學年よりは概ね之を要せざるに至る又技術練習の爲には盲本科第二學年の半頃より教課時間外に於て一般の需に應じて按摩を行はしむること、せり。

盲生の卒業者は十三年三月迄の分を合せ九十九名にして内十四名の死亡者を除き四名は官設醫院にマッサージ技工として雇傭せられ他の八十名は自宅開業を爲し一名は盲啞學校教員となり居れるが營業者は相當の收入を得て自活の途を立てつゝあり目下一箇月の平均收入五十圓を超ゆるの情況に在り。

嚆生は大正七年三月以來六回の卒業者を送り合計三十七名となれり彼等は在學中修得せる裁縫の技術を利用し内十五名は洋服店の職工をなし自宅にて開業せるもの五人ありて相當の收得を爲し他の十名は家庭に在りて父母の家業を助く尙學校教員たるもの一、上級學校に在學中のもの三、死亡四あり就業者は何れも相當の實績を挙げ居れるが一人一箇月收入平均は約三十圓以上とす。

◎平壤盲啞學校

所在地 平安南道平壤府水玉里三三三番地